

はちおうじし

八王子市

しょうがいしゃ

障害者アンケート調査

ちょうさ

けっかほうこくしょ

結果報告書

れいわ ねん (2023年) 3月

はち おう じ し
八 王 子 市

もくじ
目次

1	調査概要	1
2	調査結果の概要	2
2-1	18歳以上向け調査結果	2
2-2	18歳未満とその保護者向け調査結果	7
3	調査結果（18歳以上）	11
3-1	本人について	11
3-2	医療について	16
3-3	家族・介助について	19
3-4	日常生活について	25
3-5	災害について	32
3-6	住まいについて	35
3-7	外出について	38
3-8	権利擁護について	42
3-9	就労について	53
3-10	切れ目ない支援について	58
3-11	施策について	59
4	調査結果（18歳未満とその保護者）	61
4-1	本人について	61
4-2	医療について	66
4-3	家族・介助について	69
4-4	日常生活について	71
4-5	災害について	77
4-6	住まいについて	80
4-7	外出について	83
4-8	権利擁護について	88
4-9	教育・療育について	98
4-10	切れ目ない支援について	103
4-11	施策について	104

5	^{じゆういけん} 自由意見のまとめ.....	106
5-1	^{さいじょうむ} 18歳以上向けの ^{しょうがいしゃ} 障害者アンケート（問46）より.....	106
5-2	^{さいみまん} 18歳未満とその ^{ほごしゃむ} 保護者向けの ^{しょうがいしゃ} 障害者アンケート（問42）より.....	111
6	^{ちょうさひょう} アンケート調査票.....	116
6-1	^{さいじょうむ} 「18歳以上向けの ^{しょうがいしゃ} 障害者アンケート」 ^{ちょうさひょう} 調査票.....	116
6-2	^{さいみまん} 「18歳未満とその ^{ほごしゃむ} 保護者向けの ^{しょうがいしゃ} 障害者アンケート」 ^{ちょうさひょう} 調査票.....	126

1 ちょうさがいよう 調査概要

■ ちょうさ もくてき 調査の目的

ほんちょうさ れいわ ねんど ねんど しょうがいしゃけいかく だい きしょうがいふくしけいかく だい きしょうがいふくしけいかくさくてい
本調査は、令和5年度（2023年度）に障害者計画、第7期障害福祉計画、第3期障害児福祉計画策定
するにあたって、障害のある方（18歳以上、18歳未満とその保護者）に対して、市民の障害福祉に関す
る意識・実態等を把握するために実施しました。

■ ちょうさ じっし がいよう 調査の実施概要

ちょうさ しょうがい かつ なか むさく い えら
調査は、障害のある方の中から、無作為で選ばせていただいた方を対象に実施しました。
かくちょうさ たいしょうしゃ ほうほう かいしゅうけつ かとう つぎ
各調査の対象者、方法、回収結果等は次のとおりです。

調査名	①市民生活ニーズ把握のための アンケート調査票(18歳未満の方)	②市民生活ニーズ把握のための アンケート調査票(18歳以上の方)
対象者	18歳未満の身体障害児、知的障害児	18歳以上の身体障害者、知的障害者、 精神障害者、難病患者
調査対象数	500名	1,500名
回収数	181名	676名
回収率(%)	36.2%	45.1%
記名の有無	無記名式	
調査期間	令和4年12月から令和5年1月	
調査方法	郵送配付・郵送回収	

■ ほうこくしょ み さい りゆういてん 報告書を見る際の留意点

○かいとうしゃすう 回答者数について

- ずちゆう かいとうしゃすう かくせつもん がいとう かいとうしゃ そうすう かいとうりつ ほすう
・ 図中の「回答者数(n)」は、各設問に該当する回答者の総数であり、回答率(%)の母数をあらわして
います。

○ひゃくぶんりつ 百分率について

- ひゃくぶんりつ しょうすうてん い かい しい しゃごにゆう すうち ごうけい
・ 百分率(%)は、すべて小数点以下第2位を四捨五入した数値であるため、合計が100%にならない
場合があります。
- かいとうしゃ いじょうかいとう せつもん ふくすうかいとう ばあい かいとうりつ ごうけい こ
・ 回答者が2つ以上回答することができる設問(複数回答)の場合、その回答率の合計は100%を超え
ることがあります。

○ずひょう たんい 図表の単位について

- ほんぶんちゆう けいさい ずひょう たんい とく かぎ
・ 本文中に掲載した図表の単位は、特にことわりのない限り、「%」であらわしています。

○ひょうき 表記について

- せんたくし ごく なが ばあい ほんぶん ずひょうちゆう しょうりやく ひょうげん もち ばあい
・ 選択肢の語句が長い場合、本文や図表中では省略した表現を用いている場合があります。

2 ちょうさけっか がいよう 調査結果の概要

しょうがい しゅみん たいしやう ちょうさけっか がいよう いか せいり
障害のある市民を対象としたアンケート調査結果について、概要を以下に整理します。
なお、令和2年2月に実施した前回調査については、「前回調査」又は「前回」と表記します。

2-1 さいいじやう む ちょうさけっか 18歳以上向け調査結果

(1) いりやう 医療について

いりやう かん こま とく のぞ しんたいしやうがいしやてちやうしよじしやおよ せいしんしやうがいしやほけん
医療に関する困りごとについては、「特にない」を除くと、身体障害者手帳所持者及び精神障害者保健
福祉手帳所持者では「医療機関が家の近くにない」が最も多くなっており、愛の手帳所持者では「障害
についての専門の医療機関がない」、高次脳機能障害の診断を受けている方では「通院のための介助者
が確保しにくい」、難病（特定疾患）の診断を受けている方では「医療費の負担が大きい」が最も多
なっています。

はったつしやうがい しんだん う かた しょうがい せんもん いりやうきかん いりやうきかん
なお、発達障害の診断を受けている方では、「障害についての専門の医療機関がない」が「医療機関
が家の近くにない」と同じ割合で最も多くなっています。

ぜんかいちやうさ ひかく ぜんたい つういん こうつきかん せいび
前回調査と比較すると、全体では、「通院のための交通機関が整備されていない」が5.3%から8.3%
と3.0ポイント増加し、「休日や夜間に対応してくれる医療機関がない」が7.2%から9.3%と2.1ポ
イント増加しています。特に、「通院のための交通機関が整備されていない」では、難病（特定疾患）
の診断を受けている方で10.2ポイント、発達障害の診断を受けている方で4.2ポイント増加し、「休日
や夜間に対応してくれる医療機関がない」では、発達障害の診断を受けている方で8.3ポイント、難病
（特定疾患）の診断を受けている方で7.6ポイント増加しています。

(2) かぞく かいじよ 家族・介助について

おも かいじよしや あい てちやうしよじしや せいしんしやうがいしやほけん ふくしてちやうしよじしや はったつしやうがい しんだん う
主な介助者については、愛の手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者、発達障害の診断を受けて
いる方及び高次脳機能障害の診断を受けている方では「母親」が最も多く、身体障害者手帳所持者及び
難病（特定疾患）の診断を受けている方では「配偶者」が最も多くなっています。

かいじよしや こま あい てちやうしよじしや せいしんしやうがいしやほけん ふくしてちやうしよじしやおよ はったつしやうがい
介助者が困っていることについては、愛の手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び発達障害
の診断を受けている方では「将来の見通しに不安がある」が最も多くなっており、身体障害者手帳
所持者では「長期の旅行や外出ができない」、高次脳機能障害の診断を受けている方では「介助者自身
の健康に不安がある」、難病（特定疾患）の診断を受けている方では「緊急時の対応に不安がある」が
最も多くなっています。

おも かいじよしや なん りゆう かいじよ ほあい たいおう しんたいしやうがいしやてちやうしよじしやおよ
また、主な介助者が何らかの理由で介助ができない場合の対応としては、身体障害者手帳所持者及び
精神障害者保健福祉手帳所持者では、「ホームヘルパーを利用したい」が最も多くなっており、愛の手帳
所持者では「ショートステイを利用したい」、高次脳機能障害の診断を受けている方では「施設に入所
したい」が最も多くなっています。

はったつしやうがい しんだん う かた もっと おお なんびやう とくていしっかん
なお、発達障害の診断を受けている方では「わからない」が最も多くなっており、難病（特定疾患）
の診断を受けている方では、「ホームヘルパーを利用したい」、「わからない」が同じ割合で最も多くな
っています。

(3) 日常生活について

日常生活で困っていることについては、身体障害者手帳所持者では「健康状態に不安がある」が最も多くなっていますが、他の障害種別では「将来に不安がある」が最も多くなっています。

なお、高次脳機能障害の診断を受けている方では「身の回りのことが十分できない」が「将来に不安がある」と同じ割合で最も多くなっています。

前回調査と比較すると、全体では、「就労について困っている」が2.8ポイント増加し、「緊急時の対応に不安がある」が1.2ポイント増加しています。特に、「就労について困っている」は、高次脳機能障害の診断を受けている方で12.5ポイント増加し、愛の手帳所持者で6.6ポイント増加しています。

困ったときの相談相手については、障害の種別に関わらず「同居の家族」が最も多くなっています。

次いで多い相談相手は、身体障害者手帳所持者では「別居の家族・親族」、愛の手帳所持者では「福祉施設の職員」、精神障害者保健福祉手帳所持者、発達障害の診断を受けている方及び難病（特定疾患）の診断を受けている方では「医療関係者」となっています。

福祉サービスに関する情報の入手先については、高次脳機能障害の診断を受けている方では「医療機関」が最も多くなっていますが、他の障害種別では「広報「はちおうじ」」が最も多くなっています。

サービス利用に関して困っていることについては、「特にない」を除くと、発達障害の診断を受けている方及び高次脳機能障害の診断を受けている方では「サービスの利用手引きが大変」が最も多くなっており、他の障害種別では、「サービスに関する情報が少ない」が最も多くなっています。

なお、精神障害者保健福祉手帳所持者及び発達障害の診断を受けている方では、「誰に相談すればよいかわからない」が他の障害種別よりも多くなっています。

(4) 災害について

災害が起きたときに不安に感じることについては、身体障害者手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者、高次脳機能障害の診断を受けている方及び難病（特定疾患）の診断を受けている方では「薬や医療的ケアを確保できるか不安」が最も多くなっており、愛の手帳所持者では「ひとりでは避難できない」が、発達障害の診断を受けている方では「避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい」が最も多くなっています。

災害のときに必要な支援については、身体障害者手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者、高次脳機能障害の診断を受けている方及び難病（特定疾患）の診断を受けている方では「薬や医療的ケアの確保」が最も多くなっており、愛の手帳所持者では「障害に対応した避難所の確保」が、発達障害の診断を受けている方では「見守りや安否の確認」が最も多くなっています。

前回調査と比較すると、全体では、「見守りや安否の確認」が2.9ポイント増加し、「自宅や避難所での介助や支援」が1.9ポイント増加しています。

特に、「見守りや安否の確認」では、高次脳機能障害の診断を受けている方で25.0ポイント増加、愛の手帳所持者では5.8ポイント増加し、「自宅や避難所での介助や支援」では、愛の手帳所持者で8.4ポイント増加し、身体障害者手帳所持者では4.2ポイント増加しています。

(5) 住まいについて

住まいの状況については、障害の種類に関わらず「持ち家（一戸建て）」が最も多くなっています。

次いで多い住まいについて見ると、身体障害者手帳所持者及び難病（特定疾患）の診断を受けている方では「持ち家（集合住宅）」、愛の手帳所持者では「グループホーム」、精神障害者保健福祉手帳所持者及び発達障害の診断を受けている方では「民間賃貸住宅（集合住宅）」、高次脳機能障害の診断を受けている方では、「持ち家（集合住宅）」と「公営住宅（都営・市営）」となっています。

住宅に関して困っていることについては、高次脳機能障害の診断を受けている方では「階段の昇り降り」が最も多くなっており、他の障害種別では「特になく、満足している」が最も多くなっています。

次いで多い、住宅に関して困っていることについては、身体障害者手帳所持者及び難病（特定疾患）の診断を受けている方では「階段の昇り降り」、愛の手帳所持者では「建物の老朽化」、発達障害の診断を受けている方では「家賃など住宅費の負担」となっています。精神障害者保健福祉手帳所持者では「建物の老朽化」と「家賃など住宅費の負担」が同じ割合で多くなっています。

住宅に関して行政が今後取り組む必要があることについては、身体障害者手帳所持者及び難病（特定疾患）の診断を受けている方では「住宅改修費の助成を充実する」、愛の手帳所持者では「グループホームの整備を促進する」、精神障害者保健福祉手帳所持者及び発達障害の診断を受けている方では「家賃の助成をする」が最も多くなっています。

また、高次脳機能障害の診断を受けている方では、「障害者向け住宅の整備を促進する」が「住宅改修費の助成を充実する」と同じ割合で最も多くなっています。

(6) 外出について

どの障害種別でも、60%以上の方が週に1日以上外出していると回答しています。

外出の目的は、高次脳機能障害の診断を受けている方では「施設への通所」、難病（特定疾患）の障害の診断を受けている方では「通院」が最も多くなっていますが、他の障害種別では「買い物」が最も多くなっています。

また、普段の移動手段については、障害の種類に関わらず「徒歩」が最も多くなっていますが、高次脳機能障害の診断を受けている方では、「自動車（自分以外が運転）」が「徒歩」と同じ割合で最も多くなっています。

なお、次いで多い移動手段は、「路線バス」、「電車」となっています。

外出時に困ることについては、「特になく」を除くと、全体では、「困ったときどうすればいいか不安」が最も多く、次いで、「歩道や道路の段差の幅」となっています。

障害種別ごとに見ると、身体障害者手帳所持者及び高次脳機能障害の診断を受けている方では「歩道や道路の段差の幅」、愛の手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び発達障害の診断を受けている方では「困ったときどうすればいいか不安」、難病（特定疾患）の診断を受けている方では、「建物の段差・階段・設備」が最も多くなっています。

(7) 権利擁護について

権利擁護に関する用語について、知っている（「内容を知っている」「名前は聞いたことがある」）の合計以下、同じ。）割合が最も多いのは「成年後見制度」で64.7%となっていますが、他の用語については、2～3割前後にとどまっています。

前回調査と比較すると、成年後見制度について知っている人は、63.9%から64.7%と0.8ポイント増加していますが、他の用語については、いずれも減少しています。

なお、成年後見制度や地域福祉権利擁護事業について、利用の可否について訊ねたところ、「わからない」と回答した人が、成年後見制度では63.3%、地域福祉権利擁護事業では68.2%となっています。

また、障害が理由であきらめたり、できなかったことについては、「特にない」を除くと、身体障害者手帳所持者では「旅行や外出」、愛の手帳所持者では「結婚」、精神障害者保健福祉手帳所持者では「就職」、難病（特定疾患）の診断を受けている方では「スポーツ・運動・レクリエーション」が最も多くなっています。発達障害の診断を受けている方では「恋愛」と「結婚」が同じ割合で多くなっており、高次脳機能障害の診断を受けている方では「趣味活動・遊び」と「スポーツ・運動・レクリエーション」が同じ割合で多くなっています。

差別や人権侵害を受けていると感じている人（「いつも感じる」、「ときどき感じる」）の割合は、全体では16.7%となっており、特に、高次脳機能障害の診断を受けている方で37.5%、愛の手帳所持者で36.4%と、他の障害種別よりも多くなっています。一方で、感じていない人（「あまり感じない」、「まったく感じない」）の割合は、全体では80.5%となっています。

また、差別を受けたときや虐待があったときに市や相談支援事業者に相談などをする制度があることで安心できる（「安心できる」「少し安心できる」）の合計。）と考えている人は、愛の手帳所持者では42.9%と半数以下となっていますが、他の障害種別では5割以上となっています。

なお、「わからない」と回答した人が、高次脳機能障害の診断を受けている方では25.0%と障害種別の中では最も少なくなっていますが、他の障害種別ではいずれも30%以上となっており、愛の手帳所持者では48.1%と障害種別の中で最も多くなっています。

(8) 就労について

何らかの就労をしている人は、発達障害の診断を受けている方で60.0%と最も多く、次いで、愛の手帳所持者で48.1%、難病（特定疾患）の診断を受けている方で47.0%となっています。

仕事をする上で困っていることについては、「特にない」を除くと、身体障害者手帳所持者及び愛の手帳所持者では「給与・工賃などが少ない」が最も多くなっており、精神障害者保健福祉手帳所持者では「精神的な負担が大きい」、発達障害の診断を受けている方及び難病（特定疾患）の診断を受けている方では「身体的な負担が大きい」が最も多くなっています。

障害者が一般就労するために必要なことについては、身体障害者手帳所持者及び愛の手帳所持者では「障害特性に合った職業・雇用の拡大」が最も多くなっており、精神障害者保健福祉手帳所持者では「職場での良好な人間関係」、発達障害の診断を受けている方では「職場の障害理解の促進」、難病（特定疾患）の診断を受けている方では「障害に対応した柔軟な勤務形態」が最も多くなっています。

(9) 市の支援・施策について

ライフステージの節目において、自身の情報が引き継がれないことで困ったことがあると回答した人は、全体では7.8%となっています。特に、愛の手帳所持者では23.4%と他の障害種別より多くなっています。

情報が引き継がれないことで困った時期については、障害の種別に関わらず「就労するとき」が最も多くなっています。

なお、難病（特定疾患）の診断を受けている方では、「保育園等に入園するとき」と「就労するとき」が同じ割合で最も多くなっています。

今後行政に力を入れてほしい施策については、障害の種別に関わらず「年金や手当など経済的支援の充実」が最も多くなっており、いずれも50%以上となっています。

次いで多い回答は、愛の手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び発達障害の診断を受けている方では「障害に対する理解の促進」、身体障害者手帳所持者及び難病（特定疾患）の診断を受けている方では「保健・医療の充実」となっています。

また、高次脳機能障害の診断を受けている方では「障害に対する理解の促進」と「保健・医療の充実」が同じ割合で次いで多い回答となっています。

2-2 18歳未満とその保護者向け調査結果

(1) 医療について

医療に関して困っていることについては、「特にない」を除くと、全体では、「医療機関が家の近くでない」が最も多く、次いで、「気軽に相談できる場がない」となっています。

障害種別ごとに見ると、難病（特定疾患）の診断を受けている方では「障害についての専門の医療機関がない」が最も多くなっていますが、他の障害種別では「医療機関が家の近くでない」が最も多くなっています。

前回調査と比較すると、全体では、「気軽に相談できる場がない」が2.9ポイント増加し、「障害についての専門の医療機関がない」が2.6ポイント増加しています。特に、「気軽に相談できる場がない」では、難病（特定疾患）の診断を受けている方で8.8ポイント、愛の手帳所持者で5.1ポイント増加し、「障害についての専門の医療機関がない」では、難病（特定疾患）の診断を受けている方で24.2ポイント、精神障害者保健福祉手帳所持者で6.7ポイント増加しています。

(2) 家族・介助について

主な介助者については、障害の種別に関わらず「母親」が最も多くなっています。

また、介助者が困っていることについては、障害の種別に関わらず「将来の見通しに不安がある」が最も多くなっており、身体障害者手帳所持者では、「緊急時の対応に不安がある」が「将来の見通しに不安がある」と同じ割合で最も多くなっています。

主な介助者の介助ができない場合の対応としては、精神障害者保健福祉手帳所持者では「ショートステイを利用したい」が最も多くなっていますが、他の障害種別では「同居の家族に介助してほしい」が最も多くなっています。なお、難病（特定疾患）の診断を受けている方では、「ショートステイを利用したい」が「同居の家族に介助してほしい」と同じ割合で最も多くなっています。

(3) 日常生活について

日常生活で困っていることについては、身体障害者手帳所持者および難病（特定疾患）の診断を受けている方では「身の回りのことが十分できない」が最も多く、愛の手帳所持者、発達障害の診断を受けている方及び精神障害者保健福祉手帳所持者では「将来に不安がある」が最も多くなっています。

前回調査と比較すると、全体では、「どうしてよいかわからないことがある」が3.9ポイント増加し、「外出について困っている」が1.8ポイント増加しており、特に、「どうしてよいかわからないことがある」では、発達障害の診断を受けている方で5.2ポイント、愛の手帳所持者で4.8ポイント増加し、「外出について困っている」では、難病（特定疾患）の診断を受けている方で24.2ポイント、精神障害者保健福祉手帳所持者で8.7ポイント増加しています。

困ったときの相談相手については、身体障害者手帳所持者では「医療関係者」が最も多くなっていますが、それ以外の障害種別では、「同居の家族」が最も多くなっています。

次いで多い回答は、身体障害者手帳所持者では「同居の家族」、愛の手帳所持者、発達障害の診断を

受けている方及び難病（特定疾患）の診断を受けている方では「学校・幼稚園・保育所の教職員」となっており、精神障害者保健福祉手帳所持者では「医療関係者」となっています。

福祉サービスに関する情報の入手先については、全体では「学校・幼稚園・保育所」が最も多く、次いで、「医療機関」となっています。

障害種別ごとにみると、身体障害者手帳所持者及び精神障害者保健福祉手帳所持者では「医療機関」が最も多くなっており、愛の手帳所持者及び発達障害の診断を受けている方では「学校・幼稚園・保育所」、難病（特定疾患）の診断を受けている方では「友人や知人」が最も多くなっています。

サービス利用に関して困っていることについては、難病（特定疾患）の診断を受けている方では「サービス利用の手引きが大変」が最も多くなっていますが、それ以外の障害種別では、「サービスに関する情報が少ない」が最も多くなっています。

(4) 災害について

災害が起きたとき不安に感じることについては、身体障害者手帳所持者、愛の手帳所持者及び発達障害の診断を受けている方では「ひとりでは避難できない」が最も多くなっており、精神障害者保健福祉手帳所持者では「通学や通所の途中で災害にあった場合の対応がわからない」が最も多くなっています。

なお、難病（特定疾患）の診断を受けている方では「ひとりでは避難できない」、「自分では助けを呼ぶことができない」、「避難所の設備が障害に対応しているか不安」、「薬や医療的ケアを確保できるか不安」が同じ割合で最も多くなっています。

また、災害のときに必要な支援については、身体障害者手帳所持者では「避難のための介助や支援」が最も多く、愛の手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び発達障害の診断を受けている方では「障害に対応した避難所の確保」、難病（特定疾患）の診断を受けている方では「薬や医療的ケアの確保」が最も多くなっています。

(5) 住まいについて

住まいの状況については、障害の種別に関わらず「持ち家（戸建て）」が最も多くなっています。次いで多い住まいは、難病（特定疾患）の診断を受けている方では「公営住宅（都営・市営）」となっていますが、他の障害種別では「持ち家（集合住宅）」となっています。

住宅に関して困っていることについては、「特になく、満足している」を除くと、身体障害者手帳所持者では「階段の昇り降り」、愛の手帳所持者及び発達障害の診断を受けている方では「建物の老朽化」、精神障害者保健福祉手帳所持者では「家賃など住宅費の負担」、難病（特定疾患）の診断を受けている方では「入り口や廊下が狭い」が最も多くなっており、障害種別で回答が分かれています。

住宅に関して行政が今後取り組む必要があることについては、身体障害者手帳所持者では「住宅改修費の助成を充実する」が最も多く、愛の手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び発達障害の診断を受けている方では「家賃の助成をする」が最も多くなっています。

また、難病（特定疾患）の診断を受けている方では「住宅改修費の助成を充実する」、「グループホームの整備を促進する」、「家賃の助成をする」が同じ割合で最も多くなっています。

(6) 外出について

どの障害種別でも、90%以上の方が、週に1日以上外出していると回答しています。

外出の目的については、障害の種別に関わらず「通学・通園」が最も多くなっており、どの障害種別でも80%以上となっています。

普段の移動手段については、身体障害者手帳所持者及び難病（特定疾患）の診断を受けている方は「自転車」が最も多くなっていますが、他の障害種別では「徒歩」が最も多くなっていきます。

外出時に困ることについては、愛の手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び発達障害の診断を受けている方では「困ったときどうすればいいか不安」が最も多くなっており、身体障害者手帳所持者では「建物の段差・階段・設備」、難病（特定疾患）の診断を受けている方では「トイレの利用」が最も多くなっていきます。

前回調査と比較すると、全体では、「多動やこだわりのため、安全確保等が難しい」が6.5ポイント増加しており、特に、難病（特定疾患）の診断を受けている方で17.1ポイント増加し、愛の手帳所持者で7.7ポイント増加しています。

(7) 権利擁護について

権利擁護に関する用語について、知っている（「内容を知っている」「名前は聞いたことがある」の合計。以下、同じ。）割合が最も多いのは「成年後見制度」で55.8%となっており、次いで、障害を理由とする差別の解消に関する法律（差別解消法）が35.9%となっています。

前回調査と比較すると、障害のある人もない人も共に安心して暮らせる八王子づくり条例（差別禁止条例）について知っている人は0.5ポイント増加していますが、他の用語については、いずれも減少しています。

なお、成年後見制度や地域福祉権利擁護事業について、利用の可否について訊ねたところ、「わからない」と回答した人が、成年後見制度では70.2%、地域福祉権利擁護事業では74.0%となっています。

ご本人やご家族の方が、障害のことで差別や人権侵害を受けていると感じることがあるか、については、感じる（「いつも感じる」「ときどき感じる」の合計。）と回答した人は、全体で40.9%となっており、特に、精神障害者保健福祉手帳所持者では52.1%と他の障害種別よりも多くなっています。

また、差別を受けたときや虐待があったときに市や相談支援事業者に相談などをしている制度があることで安心できる（「安心できる」「少し安心できる」の合計。）と考えている人は、全体では56.4%となっています。

なお、精神障害者保健福祉手帳所持者では「安心できない」が13.0%と他の障害種別よりも多くなっています。

また、「わからない」と回答した人がどの障害種別でも30%以上となっています。

(8) 教育・療育について

放課後の過ごし方については、障害の種別に関わらず「家族・親族」といるが、いずれも50%以上と最も多くなっており、次いで多い回答は、精神障害者保健福祉手帳所持者では「ひとりである」となっていますが、他の障害種別では「放課後等デイサービスを利用している」となっています。

療育や訓練について、困っている（いた）ことについては、「特になし」を除くと、身体障害者手帳

所持者では「通園・通所（送り迎え）が大変である」、発達障害の診断を受けている方では「療育・訓練に関する情報が少ない」、愛の手帳所持者及び難病（特定疾患）の診断を受けている方では、「療育・訓練を受けられる回数が少ない」が最も多くなっています。

なお、精神障害者保健福祉手帳所持者では、「療育・訓練を受けられる施設が見つからない」と「療育・訓練を受けられる回数が少ない」が同じ割合で最も多くなっています。

学校や教育で困っていることについては、「特にない」を除くと、難病（特定疾患）の診断を受けている方では「通学（送り迎え）が大変である」が最も多くなっており、他の障害種別では「学校卒業後の進路に不安がある」が最も多くなっています。

学校卒業後の進路希望については、障害種別に関わらず「わからない」が最も多くなっており、いずれも40%以上となっています。

次いで多い回答は、身体障害者手帳所持者及び精神障害者保健福祉手帳所持者では「大学・短大などに進学したい」となっており、愛の手帳所持者及び発達障害の診断を受けている方では「福祉的就労をしたい」となっています。難病（特定疾患）の診断を受けている方では「福祉的就労以外の通所施設に通いたい」と「福祉的就労をしたい」が同じ割合で次いで多い回答となっています。

障害者が一般就労するために必要なことについて、身体障害者手帳所持者では「障害特性に合った職業・雇用の拡大」と「職場の障害理解の促進」が同じ割合で最も多くなっており、愛の手帳所持者では「障害特性に合った職業・雇用の拡大」が最も多くなっています。

また、精神障害者保健福祉手帳所持者及び発達障害の診断を受けている方では「職場の障害理解の促進」が同じ割合で最も多くなっており、難病（特定疾患）の診断を受けている方では「職場での良好な人間関係」が最も多くなっています。

(9) 切れ目ない支援について

ライフステージの節目において、自身の情報が引き継がれないことで困ったことがあると回答した人は、全体では「ある」が26.0%となっており、その時期については、障害の種別に関わらず「保育園等から小学校に入学するとき」が最も多くなっており、全体では61.7%となっています。

なお、精神障害者保健福祉手帳所持者では「小学校から中学校へ進学するとき」が「保育園等から小学校に入学するとき」と同じ割合で最も多くなっています。

(10) 施策について

今後行政に力を入れてほしい施策については、身体障害者手帳所持者及び難病（特定疾患）の診断を受けている方では「障害に対する理解の促進」が最も多くなっており、愛の手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び発達障害の診断を受けている方では「年金や手当など経済的支援の充実」が最も多くなっています。

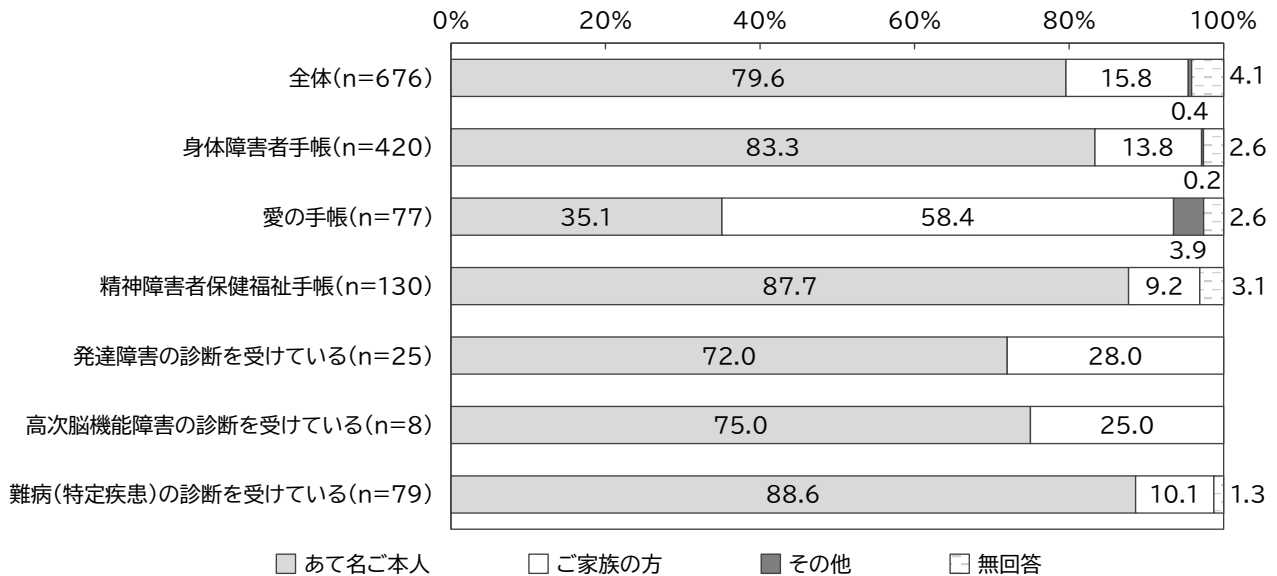
次いで多い回答は、身体障害者手帳所持者及び難病（特定疾患）の診断を受けている方では「年金や手当など経済的支援の充実」となっており、愛の手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び発達障害の診断を受けている方では「障害に対する理解の促進」となっています。

3 調査結果 (18歳以上)

3-1 本人について

問1 この調査票にご回答いただくのは、どなたですか。(〇はひとつ)

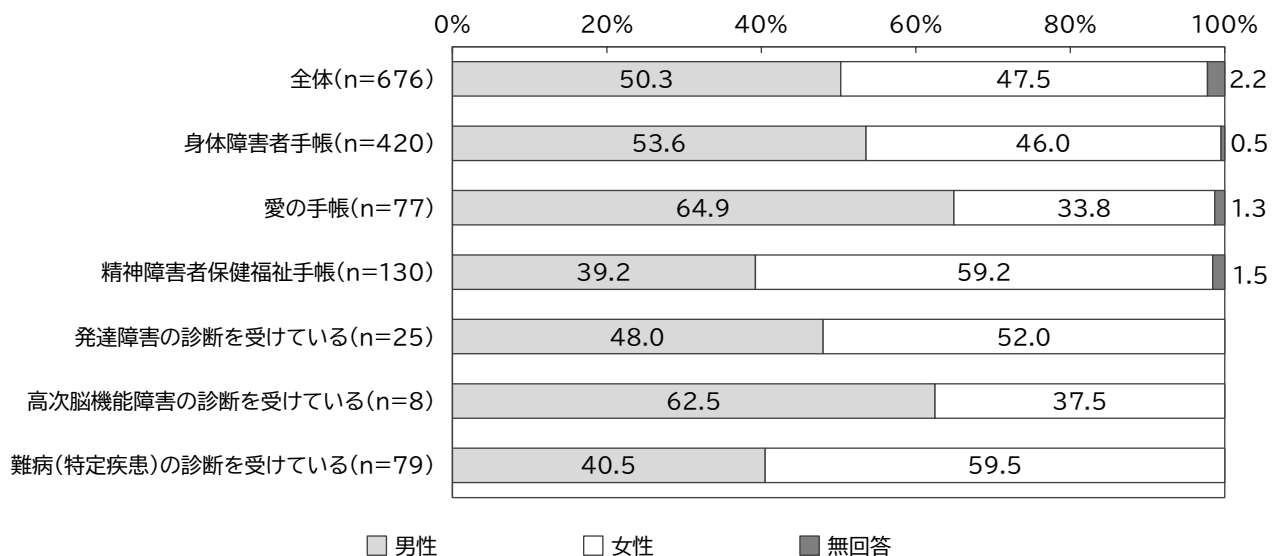
調査票の回答者は、全体では「あて名ご本人」が79.6%、「ご家族の方」が15.8%となっています。なお、愛の手帳所持者では、「ご家族の方」が58.4%と多くなっていますが、他の障害種別では、「あて名ご本人」が70%以上となっています。



問2 あなたの性別をお聞きます。(〇はひとつ)

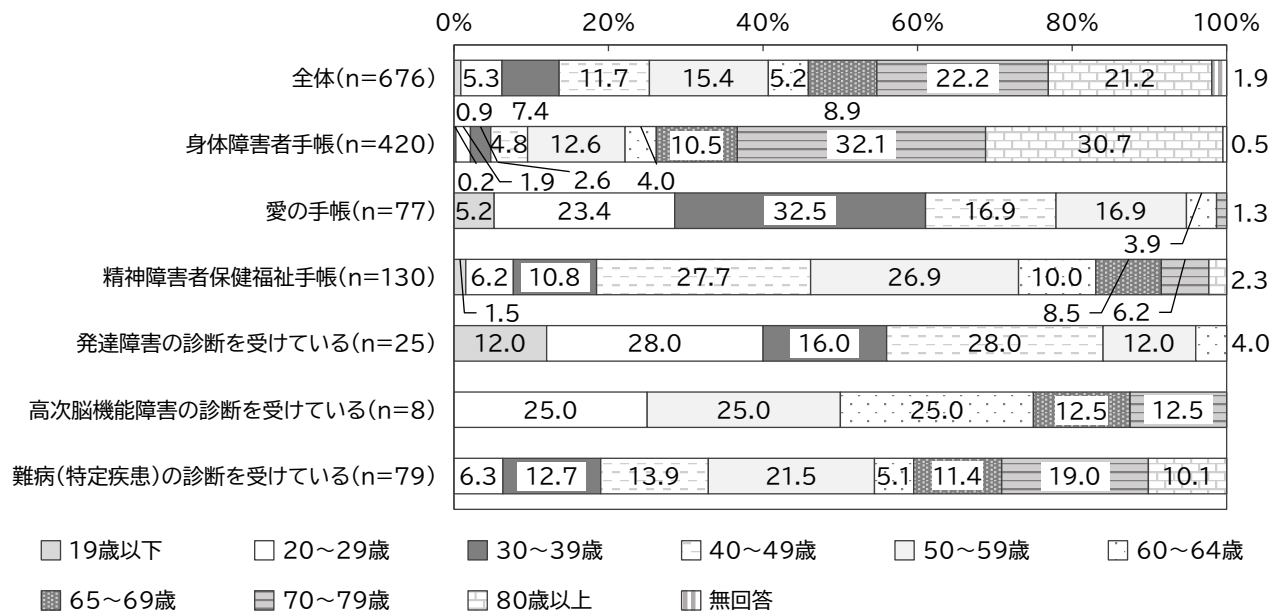
回答者の性別は、全体では「男性」が50.3%、「女性」が47.5%となっています。

「男性」は、愛の手帳所持者で64.9%と他の障害種別と比べて最も多くなっており、「女性」は、難病(特定疾患)の診断を受けている方で59.5%と他の障害種別と比べて最も多くなっています。



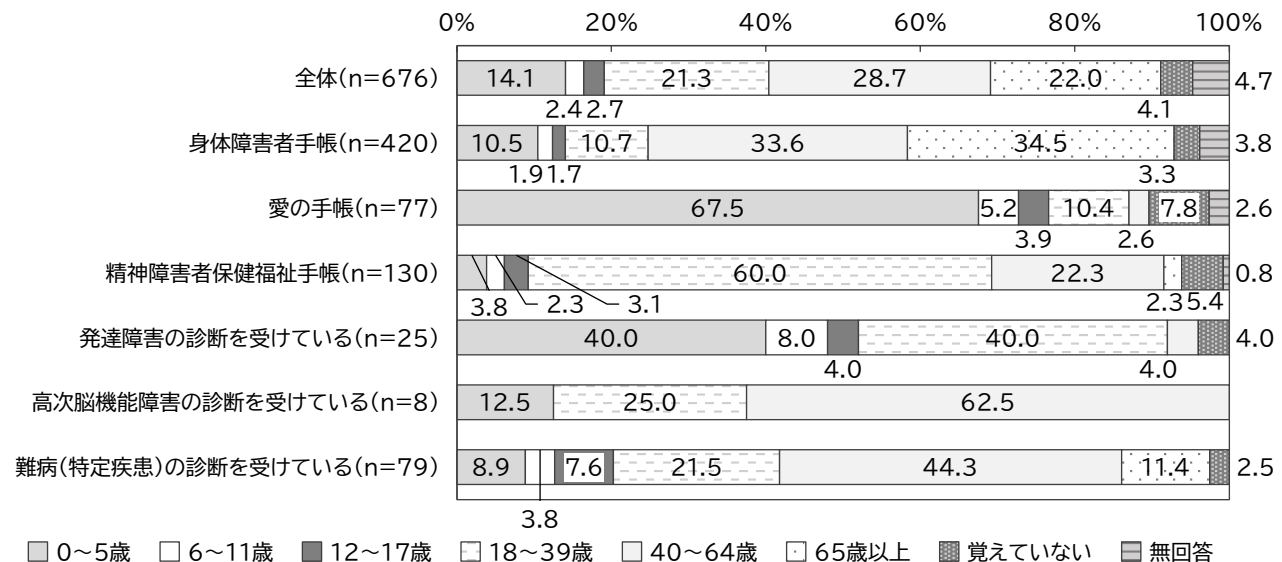
問3 あなたの年齢をお聞きます。令和5年（2023年）1月1日現在の満年齢でお答えください。
（〇はひとつ）

回答者の年齢は、全体では「19歳以下」が0.9%、「20～29歳」が5.3%、「30～39歳」が7.4%、「40～49歳」が11.7%、「50～59歳」が15.4%、「60～64歳」が5.2%、「65～69歳」が22.2%、「70～79歳」が21.2%、「80歳以上」が21.2%となっています。
また、身体障害者手帳所持者では「70～79歳」が32.1%、愛の手帳所持者では「30～39歳」が32.5%、難病（特定疾患）の診断を受けている方では21.5%と最も多くなっています。
なお、精神障害者保健福祉手帳所持者では「40～49歳」が27.7%と最も多くなっています。



問4 あなたが障害（難病（特定疾患）を含みます）を受けたのは、満何歳のころですか。（〇はひとつ）

障害を受けた時期は、身体障害者手帳所持者では「65歳以上」が34.5%、愛の手帳所持者では「0～5歳」が67.5%、精神障害者保健福祉手帳所持者では「18～39歳」が60.0%、高次脳機能障害の診断を受けている方及び難病（特定疾患）の診断を受けている方では「40～64歳」がそれぞれ62.5%、44.3%、発達障害の診断を受けている方では「0～5歳」と「65歳以上」がともに40.0%となっています。



問5 あなたが持っている手帳をお聞きします。手帳をお持ちの方は、カッコ内の等級・程度にも○をつけてください。また、発達障害等の診断を受けているかどうかもお答えください。(○はいくつでも)

回答者の障害種別は、全体では「身体障害者手帳」が62.1%、「愛の手帳」が11.4%、「精神障害者保健福祉手帳」が19.2%、「発達障害の診断を受けている」が3.7%、「高次脳機能障害の診断を受けている」が1.2%、「難病（特定疾患）の診断を受けている」が11.7%、「手帳は持っていない」が1.8%となっています。

他の手帳の所持や診断の有無については、身体障害者手帳所持者では「難病（特定疾患）の診断を受けている」が8.1%となっており、愛の手帳所持者では「身体障害者手帳」が15.6%、精神障害者保健福祉手帳所持者では「発達障害の診断を受けている」が10.0%となっています。

また、発達障害の診断を受けている方では「愛の手帳」が44.0%、「精神障害者保健福祉手帳」が52.0%となっており、難病（特定疾患）の診断を受けている方では「身体障害者手帳」が43.0%となっています。

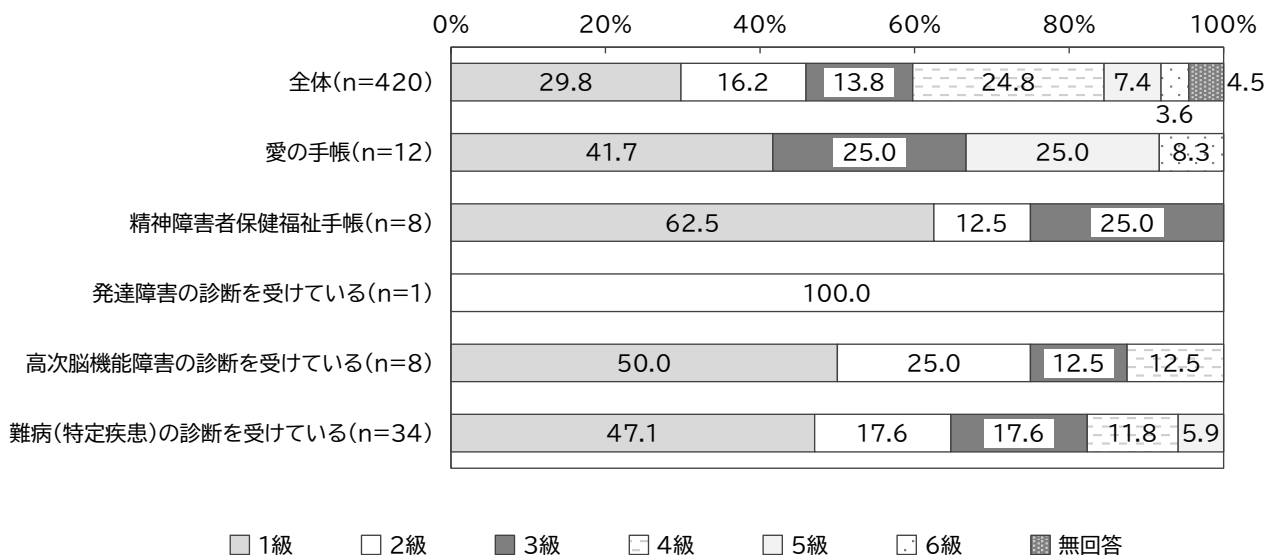
(単位：%)

	身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	発達障害の診断を受けている	高次脳機能障害の診断を受けている	難病（特定疾患）の診断を受けている	手帳は持っていない	無回答
全体(n=676)	62.1	11.4	19.2	3.7	1.2	11.7	1.8	3.7
身体障害者手帳(n=420)	100.0	2.9	1.9	0.2	1.9	8.1	0.2	0.0
愛の手帳(n=77)	15.6	100.0	7.8	14.3	1.3	2.6	0.0	0.0
精神障害者保健福祉手帳(n=130)	6.2	4.6	100.0	10.0	2.3	0.0	0.0	0.0
発達障害の診断を受けている(n=25)	4.0	44.0	52.0	100.0	4.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害の診断を受けている(n=8)	100.0	12.5	37.5	12.5	100.0	12.5	0.0	0.0
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=79)	43.0	2.5	0.0	0.0	1.3	100.0	7.6	0.0

① 身体障害者手帳の等級

身体障害者手帳所持者の等級は、「1級」が29.8%と最も多く、次いで、「4級」が24.8%、「2級」が16.2%となっています。

このうち、愛の手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者、高次脳機能障害の診断を受けている方及び難病（特定疾患）の診断を受けている方では「1級」が41.7%、62.5%、50.0%、47.1%と最も多くなっています。

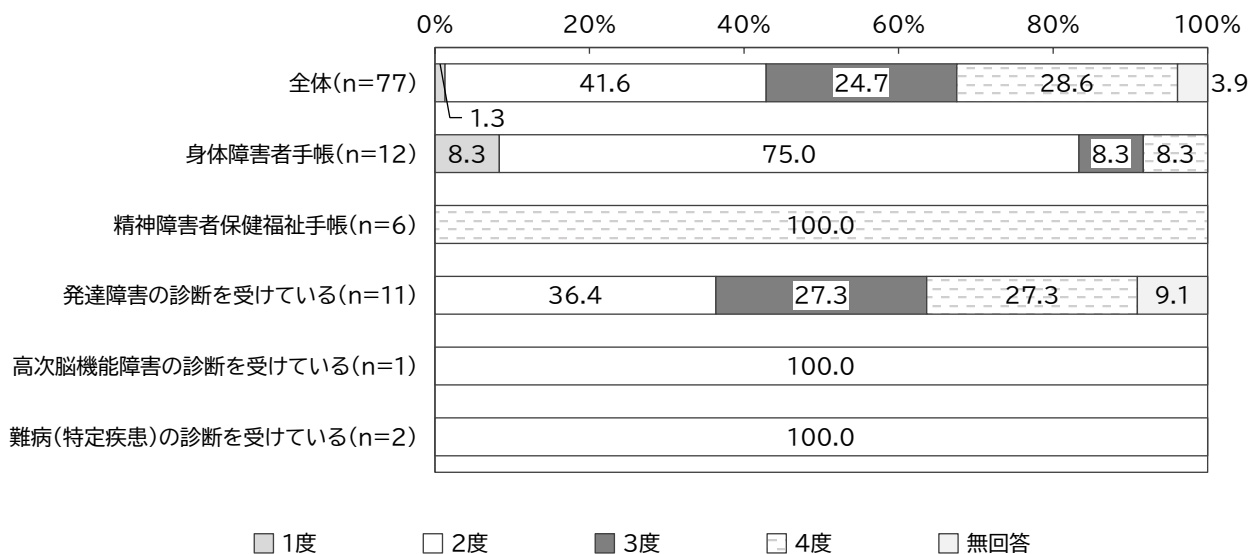


② 愛の手帳の程度

愛の手帳所持者の程度は、「2度」が41.6%と最も多く、次いで、「4度」が28.6%、「3度」が24.7%となっています。

このうち、身体障害者手帳所持者、発達障害の診断を受けている方、高次脳機能障害の診断を受けている方及び難病（特定疾患）の診断を受けている方では「2度」がそれぞれ75.0%、36.4%、100.0%、100.0%と最も多くなっています。

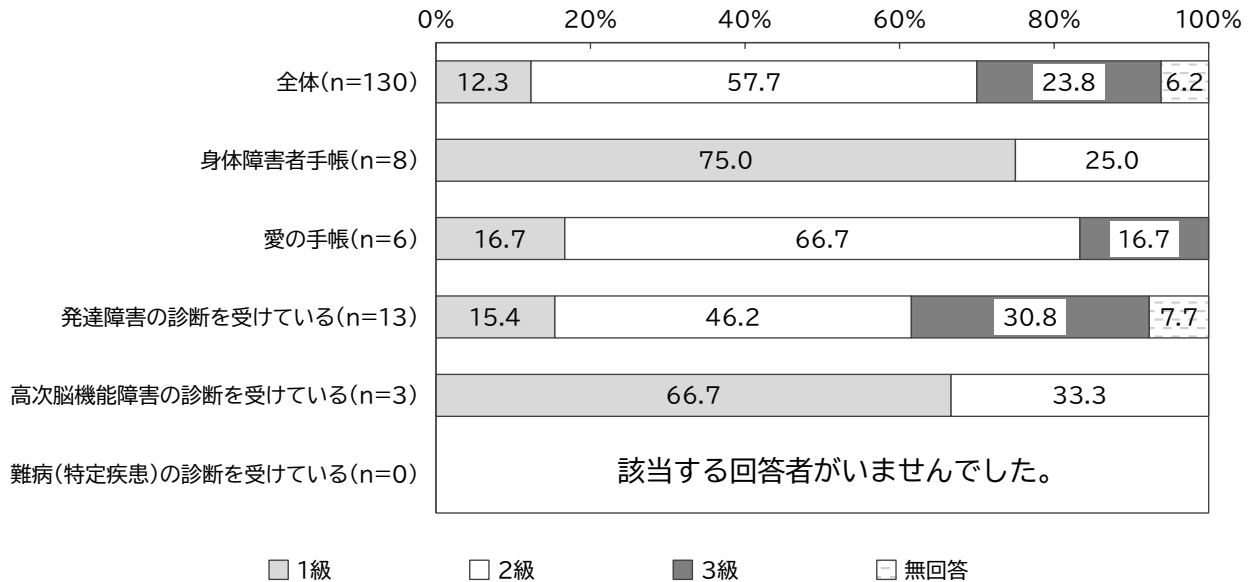
また、精神障害者保健福祉手帳所持者では「4度」が100.0%と最も多くなっています。



③精神障害者保健福祉手帳の等級

精神障害者保健福祉手帳の等級は、「2級」が57.7%と最も多く、次いで、「3級」が23.8%、「1級」が12.3%となっています。

このうち、身体障害者手帳所持者及び高次脳機能障害の診断を受けている方では「1級」がそれぞれ75.0%、66.7%となっており、愛の手帳所持者及び発達障害の診断を受けている方では「2級」がそれぞれ66.7%、46.2%となっています。



問6 身体障害者手帳をお持ちの方にお聞きします。障害の種類は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

身体障害者手帳所持者の障害の種類は、「肢体不自由」が46.0%と最も多く、次いで、「内部障害」が35.5%となっています。

(単位:%)

	視覚障害	聴覚・平衡機能障害	音声・言語・そしゃく機能障害	肢体不自由	内部障害	無回答
全体(n=420)	6.4	11.0	4.0	46.0	35.5	4.5
身体障害者手帳(n=420)	6.4	11.0	4.0	46.0	35.5	4.5
愛の手帳(n=12)	0.0	0.0	8.3	91.7	8.3	0.0
精神障害者保健福祉手帳(n=8)	12.5	25.0	12.5	37.5	37.5	0.0
発達障害の診断を受けている(n=1)	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0
高次脳機能障害の診断を受けている(n=8)	12.5	12.5	25.0	75.0	12.5	0.0
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=34)	5.9	11.8	5.9	61.8	41.2	0.0

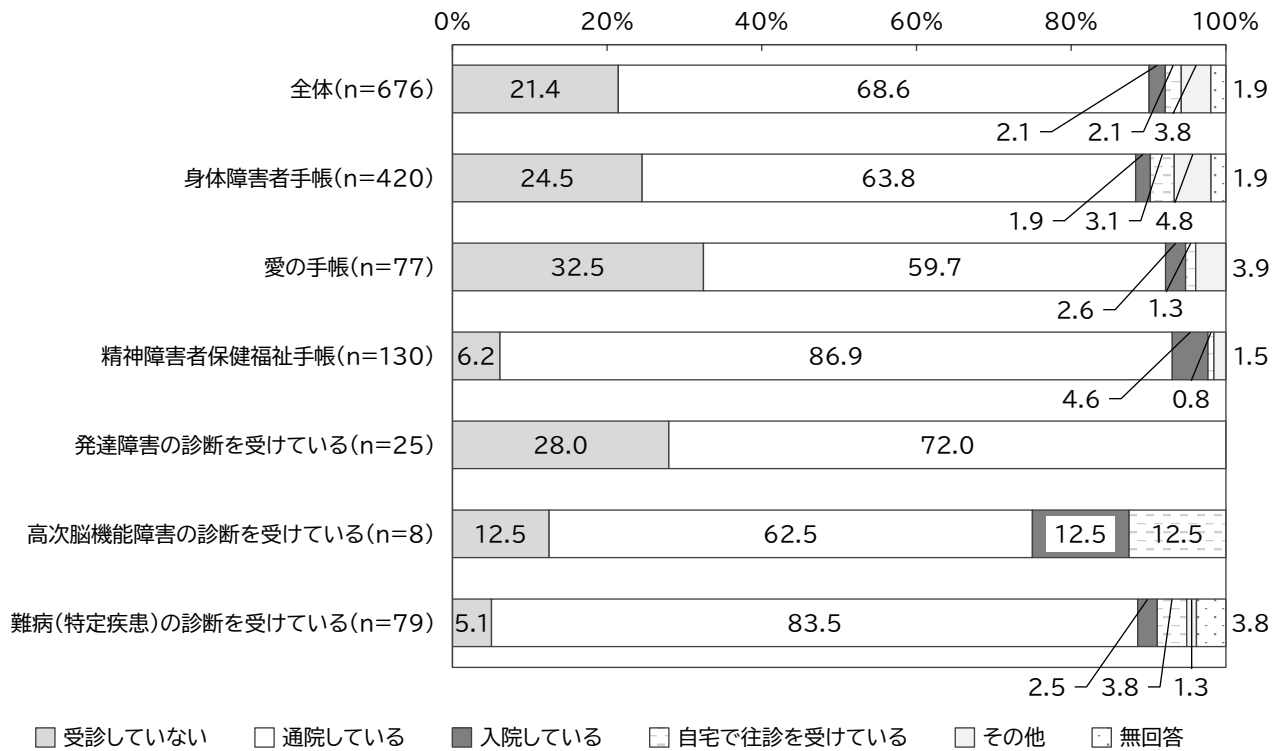
3-2 医療について

問7 あなたは現在、障害に関することで医療機関を受診していますか。(〇はひとつ)

現在、医師の治療を受けている人（「通院している」、「入院している」、「自宅で往診を受けている」の合計。）は、身体障害者手帳所持者で 68.8%、愛の手帳所持者で 63.6%、精神障害者保健福祉手帳所持者で 92.3%、発達障害の診断を受けている方で 72.0%、高次脳機能障害の診断を受けている方で 87.5%、難病（特定疾患）の診断を受けている方で 89.8%となっています。

なお、高次脳機能障害の診断を受けている方では、「入院している」と「自宅で往診を受けている」がそれぞれ 12.5%と、他の障害種別と比較して高くなっています。

また、「受診していない」人は、愛の手帳所持者では 32.5%と、他の障害種別と比較して高くなっている一方で、難病（特定疾患）の診断を受けている方では 5.1%、精神障害者保健福祉手帳所持者では 6.2%と、他の障害種別と比較して低くなっています。



問8 あなたには、医療に関して困っていることがありますか。(〇はいくつでも)

医療に関する困りごとについては、「特にない」を除くと、全体では、「医療機関が家の近くにない」が19.8%と最も多く、次いで、「医療費の負担が大きい」が15.4%となっています。
 障害種別ごとに見ると、身体障害者手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者では「医療機関が家の近くにない」がそれぞれ21.2%、22.3%、愛の手帳所持者では「障害についての専門の医療機関がない」が20.8%、発達障害の診断を受けている方では、「医療機関が家の近くにない」と「障害についての専門の医療機関がない」がともに36.0%、高次脳機能障害の診断を受けている方では「通院のための介助者が確保しにくい」が37.5%、難病(特定疾患)の診断を受けている方では「医療費の負担が大きい」が31.6%と最も多くなっています。

(単位:%)

	医療機関が家の近くにない	障害についての専門の医療機関がない	休日や夜間に対応してくれる医療機関がない	通院のための介助者が確保しにくい	通院のための交通機関が整備されていない	医療機関がバリアフリー化されていない	気軽に相談できる場がない
全体(n=676)	19.8	9.9	9.3	7.8	8.3	1.6	13.2
身体障害者手帳(n=420)	21.2	9.5	8.3	9.3	7.9	1.9	12.9
愛の手帳(n=77)	15.6	20.8	7.8	10.4	6.5	1.3	16.9
精神障害者保健福祉手帳(n=130)	22.3	8.5	16.2	8.5	8.5	0.8	15.4
発達障害の診断を受けている(n=25)	36.0	36.0	16.0	8.0	8.0	0.0	20.0
高次脳機能障害の診断を受けている(n=8)	25.0	25.0	0.0	37.5	0.0	0.0	12.5
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=79)	20.3	11.4	11.4	8.9	16.5	5.1	17.7

(単位:%)

	治療の説明が十分理解できない	医療費の負担が大きい	障害が理由で医療拒否されることがある	特にない	その他	無回答
全体(n=676)	4.9	15.4	2.8	44.1	5.9	5.5
身体障害者手帳(n=420)	3.6	14.8	2.9	45.5	5.0	5.2
愛の手帳(n=77)	11.7	10.4	5.2	36.4	6.5	2.6
精神障害者保健福祉手帳(n=130)	9.2	12.3	3.1	41.5	8.5	3.8
発達障害の診断を受けている(n=25)	4.0	24.0	4.0	28.0	12.0	0.0
高次脳機能障害の診断を受けている(n=8)	12.5	12.5	0.0	37.5	0.0	0.0
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=79)	2.5	31.6	7.6	32.9	7.6	6.3

【前回調査との比較】 あなたには、医療に関して困っていることがありますか。(〇はいくつでも)

前回(令和2年2月)の調査結果と比較すると、全体では「通院のための交通機関が整備されていない」が5.3%から8.3%と3.0ポイント増加し、「休日や夜間に対応してくれる医療機関がない」が7.2%から9.3%と2.1ポイント増加しています。

特に、「通院のための交通機関が整備されていない」では、難病(特定疾患)の診断を受けている方で10.2ポイント、発達障害の診断を受けている方で4.2ポイント増加し、「休日や夜間に対応してくれる医療機関がない」では、発達障害の診断を受けている方で8.3ポイント、難病(特定疾患)の診断を受けている方で7.6ポイント増加しています。

(単位:%)

		医療機関が家の近くにない	障害についての専門の医療機関がない	休日や夜間に対応してくれる医療機関がない	通院のための介助者が確保しにくい	通院のための交通機関が整備されていない	医療機関がバリアフリー化されていない	気軽に相談できる場がない
全体	今回(n=676)	19.8	9.9	9.3	7.8	8.3	1.6	13.2
	前回(n=824)	20.3	8.5	7.2	7.6	5.3	3.0	11.8
	今回-前回	-0.5	1.4	2.1	0.2	3.0	-1.4	1.4
身体障害者手帳	今回(n=420)	21.2	9.5	8.3	9.3	7.9	1.9	12.9
	前回(n=559)	19.1	8.8	6.8	7.9	5.4	3.9	10.6
	今回-前回	2.1	0.7	1.5	1.4	2.5	-2.0	2.3
愛の手帳	今回(n=77)	15.6	20.8	7.8	10.4	6.5	1.3	16.9
	前回(n=125)	21.6	10.4	8.8	8.8	3.2	2.4	19.2
	今回-前回	-6.0	10.4	-1.0	1.6	3.3	-1.1	-2.3
精神障害者保健福祉手帳	今回(n=130)	22.3	8.5	16.2	8.5	8.5	0.8	15.4
	前回(n=148)	23.0	9.5	10.8	9.5	4.7	3.4	17.6
	今回-前回	-0.7	-1.0	5.4	-1.0	3.8	-2.6	-2.2
発達障害の診断を受けている	今回(n=25)	36.0	36.0	16.0	8.0	8.0	0.0	20.0
	前回(n=26)	30.8	7.7	7.7	0.0	3.8	3.8	26.9
	今回-前回	5.2	28.3	8.3	8.0	4.2	-3.8	-6.9
高次脳機能障害の診断を受けている	今回(n=8)	25.0	25.0	0.0	37.5	0.0	0.0	12.5
	前回(n=8)	25.0	0.0	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0
	今回-前回	0.0	25.0	-12.5	25.0	0.0	0.0	12.5
難病(特定疾患)の診断を受けている	今回(n=79)	20.3	11.4	11.4	8.9	16.5	5.1	17.7
	前回(n=80)	25.0	6.3	3.8	3.8	6.3	0.0	8.8
	今回-前回	-4.7	5.1	7.6	5.1	10.2	5.1	8.9

(単位:%)

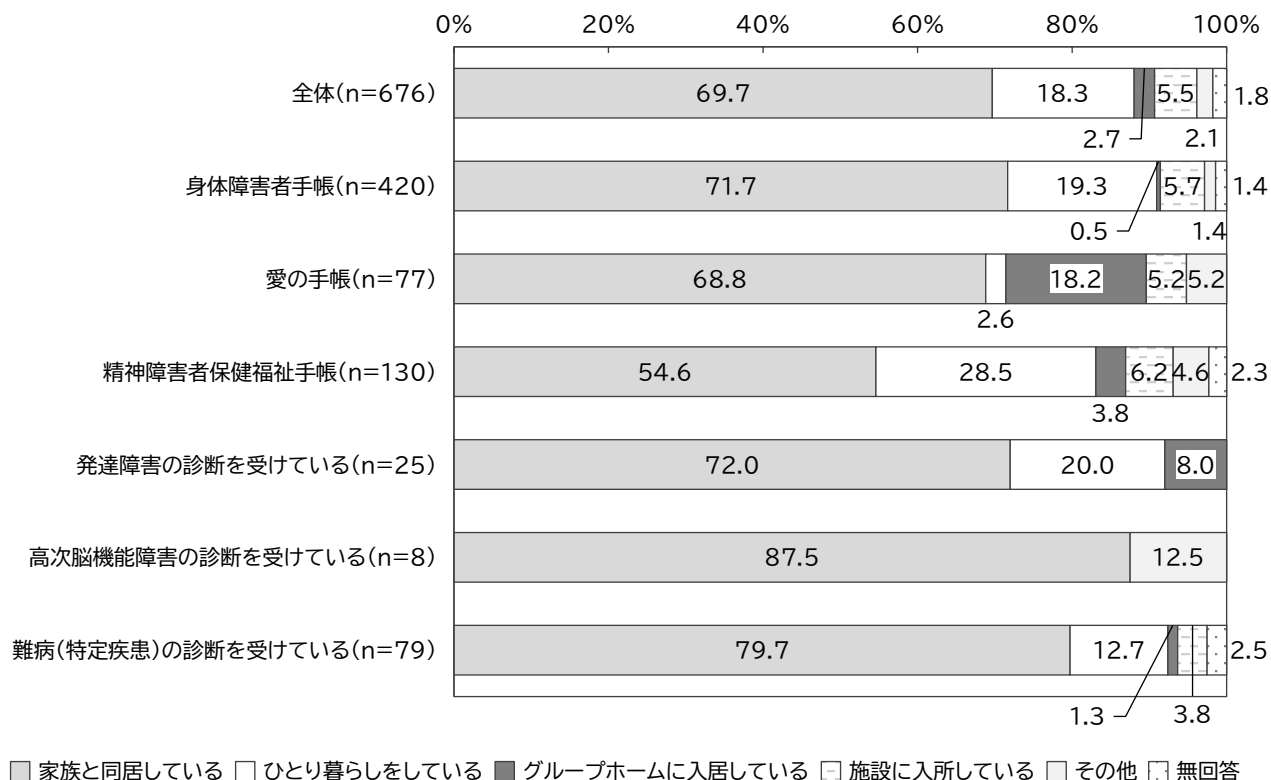
		治療の説明が十分理解できない	医療費の負担が大きい	障害が理由で医療拒否されたことがある	特にない	その他	無回答
全体	今回(n=676)	4.9	15.4	2.8	44.1	5.9	5.5
	前回(n=824)	6.7	16.5	4.0	42.6	3.3	5.6
	今回-前回	-1.8	-1.1	-1.2	1.5	2.6	-0.1
身体障害者手帳	今回(n=420)	3.6	14.8	2.9	45.5	5.0	5.2
	前回(n=559)	5.0	14.3	3.2	44.2	3.4	6.4
	今回-前回	-1.4	0.5	-0.3	1.3	1.6	-1.2
愛の手帳	今回(n=77)	11.7	10.4	5.2	36.4	6.5	2.6
	前回(n=125)	11.2	12.0	10.4	35.2	2.4	4.8
	今回-前回	0.5	-1.6	-5.2	1.2	4.1	-2.2
精神障害者保健福祉手帳	今回(n=130)	9.2	12.3	3.1	41.5	8.5	3.8
	前回(n=148)	10.8	13.5	6.1	38.5	4.1	6.1
	今回-前回	-1.6	-1.2	-3.0	3.0	4.4	-2.3
発達障害の診断を受けている	今回(n=25)	4.0	24.0	4.0	28.0	12.0	0.0
	前回(n=26)	15.4	23.1	7.7	26.9	7.7	3.8
	今回-前回	-11.4	0.9	-3.7	1.1	4.3	-3.8
高次脳機能障害の診断を受けている	今回(n=8)	12.5	12.5	0.0	37.5	0.0	0.0
	前回(n=8)	12.5	12.5	0.0	25.0	0.0	25.0
	今回-前回	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	-25.0
難病(特定疾患)の診断を受けている	今回(n=79)	2.5	31.6	7.6	32.9	7.6	6.3
	前回(n=80)	3.8	33.8	1.3	31.3	2.5	2.5
	今回-前回	-1.3	-2.2	6.3	1.6	5.1	3.8

3-3 家族・介助について

問9 あなたは現在、どのように暮らしていますか。(〇はひとつ)

現在の暮らし方について、全体では、「家族と同居している」が 69.7%と最も多くなっており、次いで、「ひとり暮らしをしている」が 18.3%となっています。

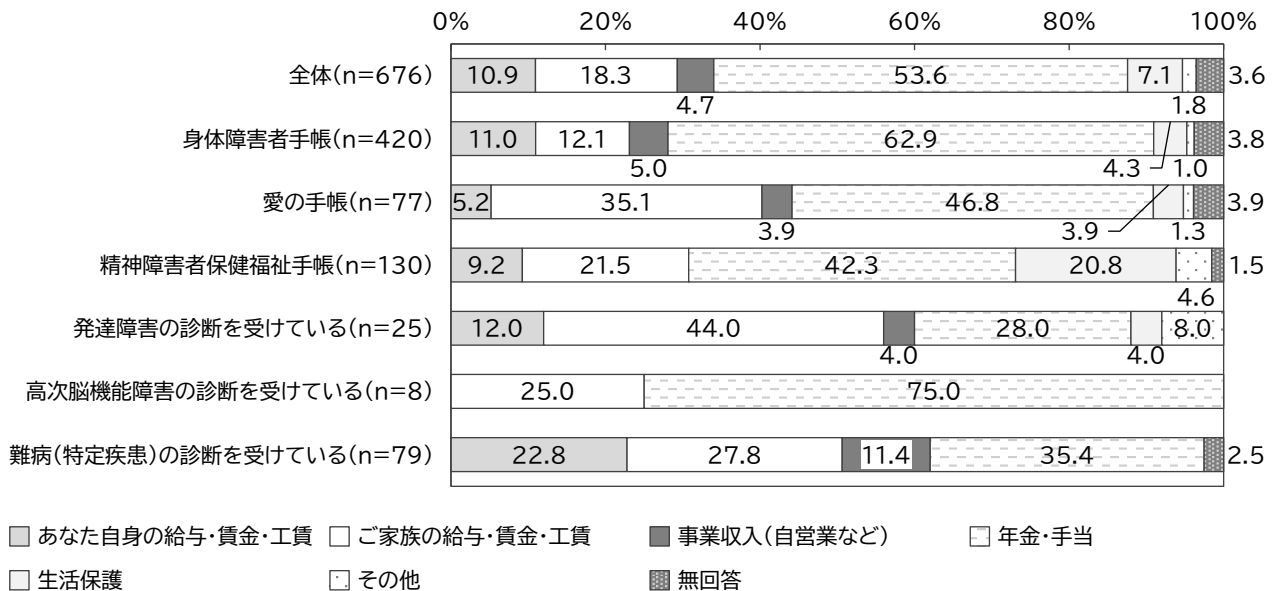
障害種別ごとに見ると、愛の手帳所持者では、「グループホームに入居している」が 18.2%と、他の障害種別よりも多くなっており、精神障害者保健福祉手帳所持者では、「ひとり暮らしをしている」が 28.5%と他の障害種別よりも多くなってしています。



問10-1 あなたの世帯の一番多い収入は何ですか。(〇はひとつ)

世帯で一番多い収入については、全体では「年金・手当」が53.6%と最も多く、特に、高次脳機能障害の診断を受けている方では75.0%、身体障害者手帳所持者では62.9%と、他の障害種別よりも多くなっています。

また、発達障害の診断を受けている方では、「ご家族の給与・賃金・工賃」が44.0%と、他の障害種別よりも多くなっています。



問10-2 あなたの世帯では、問10-1以外にどのような収入がありますか。(〇はいくつでも)

問10-1以外の収入については、全体では「特にない」が32.8%と最も多く、次いで、「年金・手当」が20.3%となっています。

障害種別ごとに見ると、身体障害者手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者、高次脳機能障害の診断を受けている方及び難病(特定疾患)の診断を受けている方では「特にない」が、それぞれ38.1%、30.0%、62.5%、31.6%と最も多く、愛の手帳所持者及び発達障害の診断を受けている方では、「あなた自身の給与・賃金・工賃」がそれぞれ39.0%、44.0%と最も多くなっています。

(単位:%)

	あなた自身の給与・賃金・工賃	ご家族の給与・賃金・工賃	事業収入(自営業など)	年金・手当	生活保護	その他	特にない	無回答
全体(n=676)	14.3	9.5	1.5	20.3	2.7	1.8	32.8	25.0
身体障害者手帳(n=420)	6.4	10.7	1.4	18.8	2.4	1.4	38.1	27.1
愛の手帳(n=77)	39.0	18.2	2.6	27.3	1.3	0.0	19.5	13.0
精神障害者保健福祉手帳(n=130)	22.3	3.1	2.3	20.8	5.4	3.8	30.0	20.0
発達障害の診断を受けている(n=25)	44.0	12.0	0.0	28.0	4.0	4.0	24.0	4.0
高次脳機能障害の診断を受けている(n=8)	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	62.5	12.5
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=79)	19.0	10.1	0.0	25.3	0.0	3.8	31.6	20.3

問11 あなたは次のような日常生活に、介助を必要としていますか。(○はいくつでも)

日常生活において必要な介助については、全体では「外出する」が31.1%と最も多く、次いで、「掃除をする」が27.8%となっています。

障害種別ごとに見ると、身体障害者手帳所持者では「外出する」が33.8%、愛の手帳所持者では「お金を管理する」が70.1%、精神障害者保健福祉手帳所持者では「日常生活に必要なことを判断したり、決めたりする」が29.2%、発達障害の診断を受けている方では「コミュニケーションをとる(読み書き・電話など)」と「日常生活に必要なことを判断したり、決めたりする」がともに56.0%、高次脳機能障害の診断を受けている方では「入浴する」、「食事をつくる」、「外出する」、「薬を飲んだり管理する」がいずれも62.5%、難病(特定疾患)の診断を受けている方では「掃除をする」が25.3%と最も多くなっています。

なお、「介助は必要としていない」と回答した方は、高次脳機能障害の診断を受けている方では0.0%、愛の手帳所持者では16.9%と、他の障害種別よりも少なくなっています。

(単位:%)

	食事をする	排せつをする	着がえをする	入浴する	掃除をする	洗濯をする	食事をつくる	家の中で移動する
全体(n=676)	10.8	11.5	15.2	22.3	27.8	23.7	26.5	7.2
身体障害者手帳(n=420)	11.2	12.9	19.0	26.7	28.6	23.8	25.7	10.0
愛の手帳(n=77)	27.3	31.2	29.9	35.1	51.9	50.6	62.3	13.0
精神障害者保健福祉手帳(n=130)	10.8	8.5	8.5	16.2	23.8	19.2	23.8	3.1
発達障害の診断を受けている(n=25)	12.0	12.0	8.0	8.0	36.0	36.0	44.0	0.0
高次脳機能障害の診断を受けている(n=8)	50.0	37.5	50.0	62.5	50.0	50.0	62.5	25.0
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=79)	11.4	13.9	15.2	16.5	25.3	21.5	21.5	11.4

(単位:%)

	外出する	コミュニケーションをとる(読み書き・電話など)	薬を飲んだり管理する	お金を管理する	日常生活に必要なことを判断したり、決めたりする	介助は必要としていない	その他	無回答
全体(n=676)	31.1	20.4	20.0	20.4	20.3	41.9	5.3	5.2
身体障害者手帳(n=420)	33.8	17.4	17.9	15.0	14.0	41.4	4.8	4.5
愛の手帳(n=77)	58.4	61.0	54.5	70.1	67.5	16.9	5.2	0.0
精神障害者保健福祉手帳(n=130)	21.5	21.5	23.1	26.2	29.2	36.9	6.2	6.2
発達障害の診断を受けている(n=25)	28.0	56.0	40.0	52.0	56.0	32.0	0.0	0.0
高次脳機能障害の診断を受けている(n=8)	62.5	50.0	62.5	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=79)	22.8	11.4	12.7	5.1	5.1	53.2	6.3	6.3

問12 あなたを介助しているのは、主にどなたですか。(〇はいくつでも)

主な介助者については、愛の手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者、発達障害の診断を受けている方及び高次脳機能障害の診断を受けている方では「母親」が最も多くなっており、それぞれ58.4%、14.6%、52.0%、50.0%となっています。

また、身体障害者手帳所持者及び難病（特定疾患）の診断を受けている方では「配偶者」が最も多くなっており、それぞれ26.7%、15.2%となっています。

なお、愛の手帳所持者では「施設などの職員」が15.6%と他の障害種別よりも多くなっています。

(単位:%)

	母親	父親	配偶者	兄弟姉妹	子ども	その他親族
全体(n=676)	10.8	2.4	20.1	2.1	8.7	0.9
身体障害者手帳(n=420)	4.5	1.0	26.7	1.4	12.6	1.2
愛の手帳(n=77)	58.4	9.1	0.0	2.6	0.0	1.3
精神障害者保健福祉手帳(n=130)	14.6	3.8	13.1	5.4	0.0	0.0
発達障害の診断を受けている(n=25)	52.0	8.0	4.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害の診断を受けている(n=8)	50.0	0.0	25.0	0.0	12.5	0.0
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=79)	6.3	1.3	15.2	2.5	8.9	0.0

(単位:%)

	ホームヘルパー	施設などの職員	介助は必要としない	その他	無回答
全体(n=676)	4.4	7.2	35.9	3.7	7.0
身体障害者手帳(n=420)	6.0	6.7	34.0	2.6	6.7
愛の手帳(n=77)	0.0	15.6	9.1	5.2	2.6
精神障害者保健福祉手帳(n=130)	3.8	8.5	39.2	9.2	6.2
発達障害の診断を受けている(n=25)	4.0	4.0	32.0	0.0	4.0
高次脳機能障害の診断を受けている(n=8)	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=79)	5.1	5.1	48.1	2.5	10.1

問13 問12で「家族などが介助している（1～4）」と回答した方にお聞きします。
 介助者の方は、どのようなことで困っていますか。（○はいくつでも）

介助者が困っていることについては、全体では「将来の見通しに不安がある」が49.3%と最も多くなっており、次いで、「緊急時の対応に不安がある」が42.0%、「長期の旅行や外出ができない」が38.5%となっています。

障害種別ごとに見ると、身体障害者手帳所持者では「長期の旅行や外出ができない」が45.2%、愛の手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び発達障害の診断を受けている方では「将来の見通しに不安がある」が、それぞれ78.8%、77.8%、73.3%、高次脳機能障害の診断を受けている方では「介助者自身の健康に不安がある」が71.4%と最も多くなっています。

(単位:%)

	介助者自身の健康に不安がある	身体的な負担が大きい	精神的な負担が大きい	経済的な負担が大きい	かわりの介助を頼める人がいない	緊急時の対応に不安がある
全体(n=286)	35.3	30.1	34.6	22.7	28.0	42.0
身体障害者手帳(n=188)	33.0	33.0	31.4	20.2	25.5	39.4
愛の手帳(n=52)	53.8	34.6	46.2	15.4	36.5	63.5
精神障害者保健福祉手帳(n=45)	37.8	33.3	51.1	42.2	37.8	37.8
発達障害の診断を受けている(n=15)	53.3	33.3	40.0	40.0	53.3	66.7
高次脳機能障害の診断を受けている(n=7)	71.4	57.1	57.1	28.6	14.3	28.6
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=23)	34.8	30.4	34.8	26.1	34.8	47.8

(単位:%)

	長期の旅行や外出ができない	将来の見通しに不安がある	特にない	その他	無回答
全体(n=286)	38.5	49.3	14.0	1.4	4.5
身体障害者手帳(n=188)	45.2	38.8	16.0	1.6	3.7
愛の手帳(n=52)	38.5	78.8	7.7	3.8	0.0
精神障害者保健福祉手帳(n=45)	28.9	77.8	0.0	0.0	6.7
発達障害の診断を受けている(n=15)	33.3	73.3	6.7	6.7	0.0
高次脳機能障害の診断を受けている(n=7)	57.1	57.1	0.0	0.0	14.3
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=23)	39.1	43.5	21.7	0.0	8.7

問14 問12で「家族などが介助している（1～4）」と回答した方にお聞きします。
 主な介助者が何らかの理由で介助できない場合、あなたはどのようにしたいと思いますか。
 （〇はいくつでも）

主な介助者が何らかの理由で介助ができない場合の対応としては、身体障害者手帳所持者及び精神障害者保健福祉手帳所持者では、「ホームヘルパーを利用したい」が最も多くなっており、それぞれ30.3%、35.6%となっており、愛の手帳所持者では「ショートステイを利用したい」が42.3%、高次脳機能障害の診断を受けている方では「施設に入所したい」が57.1%と最も多くなっています。
 また、発達障害の診断を受けている方では「わからない」が60.0%と最も多くなっており、難病（特定疾患）の診断を受けている方では、「ホームヘルパーを利用したい」、「わからない」がともに30.4%と最も多くなっています。

(単位:%)

	同居の家族に介助してほしい	別居の親族に介助してほしい	ホームヘルパーを利用したい	ショートステイを利用したい	民間の有償介助サービスを利用したい	グループホームに入居したい
全体(n=286)	22.7	14.0	28.7	18.9	6.3	11.2
身体障害者手帳(n=188)	23.9	16.5	30.3	19.7	7.4	5.3
愛の手帳(n=52)	30.8	11.5	26.9	42.3	3.8	32.7
精神障害者保健福祉手帳(n=45)	17.8	11.1	35.6	11.1	8.9	15.6
発達障害の診断を受けている(n=15)	20.0	13.3	6.7	6.7	6.7	13.3
高次脳機能障害の診断を受けている(n=7)	28.6	0.0	42.9	28.6	14.3	14.3
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=23)	13.0	4.3	30.4	21.7	0.0	4.3

(単位:%)

	施設に入所したい	病院に入院したい	わからない	その他	無回答
全体(n=286)	20.6	5.6	24.8	1.7	7.0
身体障害者手帳(n=188)	22.9	6.9	21.8	1.1	6.4
愛の手帳(n=52)	30.8	1.9	17.3	0.0	3.8
精神障害者保健福祉手帳(n=45)	15.6	6.7	42.2	4.4	4.4
発達障害の診断を受けている(n=15)	13.3	0.0	60.0	0.0	0.0
高次脳機能障害の診断を受けている(n=7)	57.1	28.6	14.3	0.0	14.3
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=23)	30.4	21.7	30.4	0.0	8.7

3-4 日常生活について

問15 あなたは普段、自由時間に何をしておこなっていますか。(〇はいくつでも)

自由時間の過ごし方については、障害の種類に関わらず「テレビ・ラジオ」が多くなっており、いずれも50.0%以上となっています。

また、発達障害の診断を受けている方では「趣味活動・遊び」が64.0%と最も多くなっています。次いで多い回答は、身体障害者手帳所持者、愛の手帳所持者、高次脳機能障害の診断を受けている方及び難病(特定疾患)の診断を受けている方では「家族との団らん」、精神障害者保健福祉手帳所持者では「趣味活動・遊び」となっています。

(単位:%)

	家族との団らん	友人・知人との交流	趣味活動・遊び	スポーツ・運動・レクリエーション	買い物	地域の活動
全体(n=676)	34.8	24.3	33.9	11.2	34.8	4.1
身体障害者手帳(n=420)	35.0	23.3	28.8	11.4	33.1	4.3
愛の手帳(n=77)	41.6	6.5	40.3	10.4	27.3	2.6
精神障害者保健福祉手帳(n=130)	26.2	30.0	38.5	9.2	37.7	3.8
発達障害の診断を受けている(n=25)	36.0	24.0	64.0	0.0	48.0	4.0
高次脳機能障害の診断を受けている(n=8)	50.0	0.0	12.5	12.5	25.0	0.0
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=79)	46.8	30.4	38.0	11.4	39.2	2.5

(単位:%)

	障害者団体などの活動	テレビ・ラジオ	特にない	その他	無回答
全体(n=676)	2.2	63.9	8.6	12.7	2.1
身体障害者手帳(n=420)	1.2	69.5	9.5	10.5	2.1
愛の手帳(n=77)	7.8	61.0	11.7	13.0	0.0
精神障害者保健福祉手帳(n=130)	3.1	56.2	7.7	21.5	0.8
発達障害の診断を受けている(n=25)	4.0	60.0	4.0	16.0	0.0
高次脳機能障害の診断を受けている(n=8)	0.0	87.5	12.5	25.0	0.0
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=79)	0.0	55.7	10.1	15.2	2.5

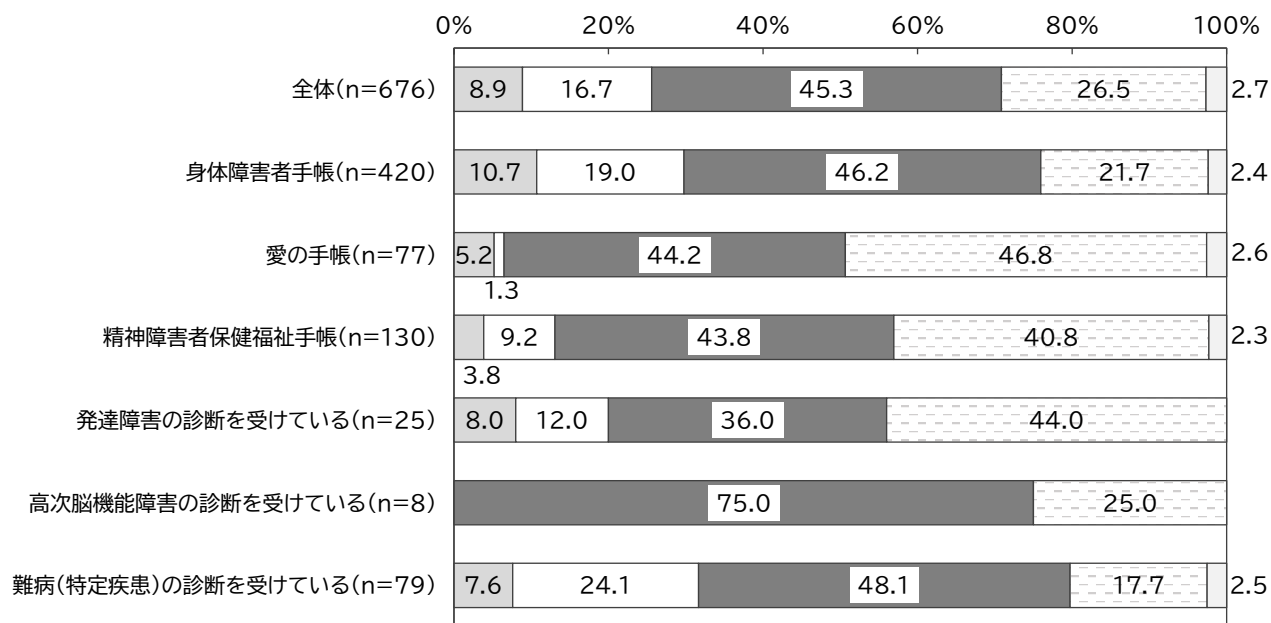
問16 あなたは普段、近所の人とどの程度のおつきあいをしていますか。(〇はひとつ)

普段の近所付き合いについて、全体では「親しくつきあっている」が8.9%、「たまに世間話をする程度」が16.7%、「会えばあいさつをする程度」が45.3%、「ほとんどつきあいはない」が26.5%となっています。

障害種別ごとに見ると、愛の手帳所持者及び発達障害の診断を受けている方では「ほとんどつきあいはない」がそれぞれ46.8%、44.0%と最も多くなっています。

また、高次脳機能障害の診断を受けている方では「会えばあいさつをする程度」が75.0%と他の障害種別の中で最も多くなっています。

なお、愛の手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び発達障害の診断を受けている方では、「ほとんどつきあいはない」が40%以上と、他の障害種別よりも多くなっています。



■ 親しくつきあっている □ たまに世間話をする程度 ■ 会えばあいさつをする程度 □ ほとんどつきあいはない □ 無回答

問17 あなたには、日常生活で困っていることはありますか。(〇はいくつでも)

日常生活で困っていることについては、身体障害者手帳所持者では「健康状態に不安がある」が37.4%と最も多く、次いで、「将来に不安がある」が35.2%となっています。

また、他の障害種別では「将来に不安がある」が最も多くなっており、いずれも40%以上となっています。

なお、高次脳機能障害の診断を受けている方では「将来に不安がある」と同じく「身の回りのことができない」が62.5%と最も多くなっています。

(単位:%)

	身の回りのことが十分できない	健康状態に不安がある	住まいについて困っている	外出について困っている	緊急時の対応に不安がある	就労について困っている	利用できる日中活動の場がないので困っている	余暇活動や遊ぶことが十分でない
全体(n=676)	23.5	38.5	7.2	20.4	30.9	10.8	4.0	13.6
身体障害者手帳(n=420)	24.8	37.4	7.1	22.1	31.4	5.5	3.8	12.1
愛の手帳(n=77)	41.6	37.7	5.2	27.3	57.1	13.0	7.8	26.0
精神障害者保健福祉手帳(n=130)	23.8	50.8	13.1	19.2	28.5	26.9	4.6	19.2
発達障害の診断を受けている(n=25)	36.0	48.0	24.0	32.0	56.0	24.0	12.0	24.0
高次脳機能障害の診断を受けている(n=8)	62.5	50.0	12.5	37.5	50.0	25.0	25.0	50.0
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=79)	21.5	40.5	2.5	24.1	27.8	12.7	6.3	13.9

(単位:%)

	スポーツ・運動・レクリエーションが十分できない	経済的に不安がある	将来に不安がある	どうしてもわからない	特にない	その他	無回答
全体(n=676)	17.3	34.6	41.9	15.8	18.3	5.0	3.7
身体障害者手帳(n=420)	19.3	29.8	35.2	12.6	19.5	5.2	3.3
愛の手帳(n=77)	24.7	33.8	61.0	20.8	10.4	6.5	1.3
精神障害者保健福祉手帳(n=130)	18.5	56.9	60.0	30.0	10.8	5.4	2.3
発達障害の診断を受けている(n=25)	20.0	56.0	72.0	32.0	8.0	4.0	0.0
高次脳機能障害の診断を受けている(n=8)	50.0	50.0	62.5	50.0	12.5	0.0	0.0
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=79)	17.7	30.4	48.1	16.5	24.1	0.0	3.8

【前回調査との比較】 あなたには、日常生活で困っていることはありますか。(〇はいくつでも)

前回(令和2年2月)の調査結果と比較すると、全体では「就労について困っている」が8.0%から10.8%と2.8ポイント増加し、「緊急時の対応に不安がある」が29.7%から30.9%と1.2ポイント増加しています。

特に、「就労について困っている」は、高次脳機能障害の診断を受けている方で12.5ポイント増加し、愛の手帳所持者で6.6ポイント増加しています。

(単位:%)

		身の回りのことが十分できない	健康状態に不安がある	住まいについて困っている	外出について困っている	緊急時の対応に不安がある	就労について困っている	利用できる日中活動の場がないので困っている	余暇活動や遊ぶことが十分できない
全体	今回(n=676)	23.5	38.5	7.2	20.4	30.9	10.8	4.0	13.6
	前回(n=824)	26.5	40.5	7.9	20.5	29.7	8.0	4.7	13.7
	今回-前回	-3.0	-2.0	-0.7	-0.1	1.2	2.8	-0.7	-0.1
身体障害者手帳	今回(n=420)	24.8	37.4	7.1	22.1	31.4	5.5	3.8	12.1
	前回(n=559)	24.7	39.0	7.0	20.4	29.2	5.4	2.7	11.6
	今回-前回	0.1	-1.6	0.1	1.7	2.2	0.1	1.1	0.5
愛の手帳	今回(n=77)	41.6	37.7	5.2	27.3	57.1	13.0	7.8	26.0
	前回(n=125)	45.6	35.2	4.8	28.8	48.0	6.4	10.4	25.6
	今回-前回	-4.0	2.5	0.4	-1.5	9.1	6.6	-2.6	0.4
精神障害者保健福祉手帳	今回(n=130)	23.8	50.8	13.1	19.2	28.5	26.9	4.6	19.2
	前回(n=148)	32.4	50.7	15.5	24.3	29.1	16.2	10.8	20.3
	今回-前回	-8.6	0.1	-2.4	-5.1	-0.6	10.7	-6.2	-1.1
発達障害の診断を受けている	今回(n=25)	36.0	48.0	24.0	32.0	56.0	24.0	12.0	24.0
	前回(n=26)	50.0	57.7	7.7	34.6	38.5	26.9	3.8	19.2
	今回-前回	-14.0	-9.7	16.3	-2.6	17.5	-2.9	8.2	4.8
高次脳機能障害の診断を受けている	今回(n=8)	62.5	50.0	12.5	37.5	50.0	25.0	25.0	50.0
	前回(n=8)	62.5	37.5	0.0	62.5	50.0	12.5	0.0	0.0
	今回-前回	0.0	12.5	12.5	-25.0	0.0	12.5	25.0	50.0
難病(特定疾患)の診断を受けている	今回(n=79)	21.5	40.5	2.5	24.1	27.8	12.7	6.3	13.9
	前回(n=80)	21.3	45.0	6.3	18.8	22.5	10.0	0.0	13.8
	今回-前回	0.2	-4.5	-3.8	5.3	5.3	2.7	6.3	0.1

(単位:%)

		スポーツ・運動・レクリエーションが 十分でない	経済的に不安がある	将来に不安がある	べしじてみいかわらない	特 に ない	その他	無 回 答
全体	今回(n=676)	17.3	34.6	41.9	15.8	18.3	5.0	3.7
	前回(n=824)	15.2	32.2	40.9	20.8	17.0	0.6	4.6
	今回-前回	2.1	2.4	1.0	-5.0	1.3	4.4	-0.9
身体障害者手帳	今回(n=420)	19.3	29.8	35.2	12.6	19.5	5.2	3.3
	前回(n=559)	18.5	26.5	37.8	12.7	23.4	2.8	5.3
	今回-前回	0.8	3.3	-2.6	-0.1	-3.9	2.4	-2.0
愛の手帳	今回(n=77)	24.7	33.8	61.0	20.8	10.4	6.5	1.3
	前回(n=125)	16.8	26.4	44.0	35.2	13.6	0.0	2.4
	今回-前回	7.9	7.4	17.0	-14.4	-3.2	6.5	-1.1
精神障害者保健 福祉手帳	今回(n=130)	18.5	56.9	60.0	30.0	10.8	5.4	2.3
	前回(n=148)	16.2	50.7	59.5	41.9	7.4	0.0	3.4
	今回-前回	2.3	6.2	0.5	-11.9	3.4	5.4	-1.1
発達障害の診断 を受けている	今回(n=25)	20.0	56.0	72.0	32.0	8.0	4.0	0.0
	前回(n=26)	23.1	53.8	65.4	50.0	3.8	0.0	3.8
	今回-前回	-3.1	2.2	6.6	-18.0	4.2	4.0	-3.8
高次脳機能障害 の診断を受けて いる	今回(n=8)	50.0	50.0	62.5	50.0	12.5	0.0	0.0
	前回(n=8)	0.0	37.5	75.0	37.5	0.0	0.0	0.0
	今回-前回	50.0	12.5	-12.5	12.5	12.5	0.0	0.0
難病(特定疾患) の診断を受けて いる	今回(n=79)	17.7	30.4	48.1	16.5	24.1	0.0	3.8
	前回(n=80)	18.8	38.8	51.3	16.3	12.5	0.0	3.8
	今回-前回	-1.1	-8.4	-3.2	0.2	11.6	0.0	0.0

問18 あなたは普段、困ったときに誰に相談していますか。(〇はいくつでも)

困ったときの相談相手については、障害の種別に関わらず「同居の家族」が最も多くなっており、いずれも40%以上となっています。

次いで多い回答は、身体障害者手帳所持者では「別居の家族・親族」、愛の手帳所持者では「福祉施設の職員」、精神障害者保健福祉手帳所持者、発達障害の診断を受けている方及び難病（特定疾患）の診断を受けている方では「医療関係者」となっています。

(単位:%)

	同居の家族	別居の家族・親族	友人・知人(障害者)	友人・知人(健常者)	近所の人	市のケースワーカー	ホームヘルパー	福祉施設の職員	医療関係者
全体(n=676)	59.9	30.2	4.4	14.5	2.7	4.3	4.3	11.1	20.9
身体障害者手帳(n=420)	61.9	34.3	2.4	14.0	3.1	3.8	6.0	6.9	14.3
愛の手帳(n=77)	63.6	14.3	3.9	5.2	1.3	3.9	1.3	36.4	20.8
精神障害者保健福祉手帳(n=130)	41.5	27.7	13.1	16.9	2.3	6.9	3.1	16.2	38.5
発達障害の診断を受けている(n=25)	60.0	16.0	0.0	32.0	12.0	8.0	8.0	24.0	40.0
高次脳機能障害の診断を受けている(n=8)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	12.5	12.5
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=79)	72.2	24.1	2.5	20.3	2.5	6.3	3.8	7.6	29.1

(単位:%)

	民生委員・児童委員	身体障害者相談委員・知的障害者相談員	相談支援事業所	保健所・保健センター	難病相談・支援センター	障害者団体・患者会	特いない	その他	無回答
全体(n=676)	0.9	1.0	4.7	0.9	0.6	0.9	8.4	5.6	1.6
身体障害者手帳(n=420)	1.4	1.2	1.9	0.0	0.5	1.0	9.0	5.2	1.4
愛の手帳(n=77)	0.0	1.3	14.3	1.3	1.3	1.3	6.5	6.5	1.3
精神障害者保健福祉手帳(n=130)	0.0	0.8	12.3	3.1	0.0	0.8	7.7	10.0	0.0
発達障害の診断を受けている(n=25)	0.0	0.0	20.0	4.0	0.0	0.0	4.0	8.0	0.0
高次脳機能障害の診断を受けている(n=8)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=79)	1.3	1.3	1.3	2.5	1.3	1.3	7.6	2.5	1.3

問19 あなたは、福祉サービスなどの情報を主にどこから入手していますか。(〇はいくつでも)

福祉サービスに関する情報の入手先については、全体では「広報「はちおうじ」」が48.5%と最も多くなっており、特に身体障害者手帳所持者及び高次脳機能障害の診断を受けている方では50%以上他の障害種別よりも多くなっています。

なお、高次脳機能障害の診断を受けている方では「医療機関」が62.5%と最も多くなっています。

次いで多い回答は、全体では、「市役所」が17.6%となっています。特に、精神障害者保健福祉手帳所持者では22.3%となっているものの、身体障害者手帳所持者、愛の手帳所持者及び発達障害の診断を受けている方では「特にない」が次いで多い回答となっています

(単位:%)

	広報「はちおうじ」	東京都広報	市のパンフレットなど	市のホームページ	その他のホームページ	テレビ・ラジオ	新聞・書籍	SNS(ツイッターやフェイスブックなど)	市役所	医療機関
全体(n=676)	48.5	10.2	10.8	11.2	4.4	13.2	8.6	7.5	17.6	16.1
身体障害者手帳(n=420)	54.5	11.7	12.9	12.4	3.1	14.5	11.4	5.7	16.9	13.1
愛の手帳(n=77)	33.8	5.2	6.5	7.8	5.2	11.7	5.2	6.5	18.2	9.1
精神障害者保健福祉手帳(n=130)	36.2	5.4	7.7	8.5	6.9	8.5	2.3	13.8	22.3	26.9
発達障害の診断を受けている(n=25)	36.0	0.0	4.0	16.0	20.0	4.0	4.0	8.0	12.0	28.0
高次脳機能障害の診断を受けている(n=8)	50.0	0.0	12.5	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	62.5
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=79)	43.0	8.9	10.1	10.1	6.3	8.9	3.8	11.4	13.9	20.3

(単位:%)

	福祉施設	相談支援事業所	保健所保健センター	難病相談・支援センター	障害者団体・患者会	友人や知人	特にない	その他	無回答
全体(n=676)	7.7	7.7	2.1	1.2	0.9	9.0	18.9	5.3	3.1
身体障害者手帳(n=420)	6.0	6.0	1.0	1.2	0.5	9.8	17.9	4.5	3.6
愛の手帳(n=77)	24.7	18.2	1.3	0.0	2.6	9.1	23.4	9.1	2.6
精神障害者保健福祉手帳(n=130)	7.7	14.6	3.1	0.0	2.3	7.7	18.5	6.9	1.5
発達障害の診断を受けている(n=25)	20.0	20.0	4.0	0.0	0.0	8.0	24.0	8.0	0.0
高次脳機能障害の診断を受けている(n=8)	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=79)	3.8	5.1	7.6	7.6	0.0	7.6	19.0	3.8	1.3

問20 あなたには、サービス利用に関して困っていることがありますか。(〇はいくつでも)

サービス利用に関して困っていることについては、「特にない」を除くと、全体では、「サービスに関する情報が少ない」が29.1%と最も多くなっており、次いで、「誰に相談すればよいかわからない」が18.0%となっています。

障害種別ごとに見ると、発達障害の診断を受けている方及び高次脳機能障害の診断を受けている方では「サービスの利用手引きが大変」が最も多く、それぞれ44.0%、50.0%となっており、他の障害種別では、「サービスに関する情報が少ない」が最も多く、身体障害者手帳所持者で27.6%となっている以外は、いずれも30%以上となっています。

なお、精神障害者保健福祉手帳所持者及び発達障害の診断を受けている方では、「誰に相談すればよいかわからない」が30%以上となっており、他の障害種別よりも多くなっています。

(単位:%)

	サービスに関する情報が少ない	サービス利用の手引きが大変	利用したいサービスを利用できない	利用できる回数や日数が少ない	希望に合った事業者が見つからない	サービスの質が良くない
全体(n=676)	29.1	17.6	6.5	5.2	6.4	2.5
身体障害者手帳(n=420)	27.6	16.7	7.1	5.5	6.0	1.9
愛の手帳(n=77)	33.8	27.3	13.0	9.1	14.3	3.9
精神障害者保健福祉手帳(n=130)	33.8	21.5	5.4	6.2	7.7	3.8
発達障害の診断を受けている(n=25)	40.0	44.0	12.0	4.0	16.0	12.0
高次脳機能障害の診断を受けている(n=8)	37.5	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=79)	31.6	20.3	7.6	3.8	6.3	3.8

(単位:%)

	自分に必要なサービスがない	誰に相談すればよいかわからない	特にない	その他	無回答
全体(n=676)	10.7	18.0	40.4	3.8	8.1
身体障害者手帳(n=420)	10.2	16.2	39.3	3.6	9.8
愛の手帳(n=77)	6.5	14.3	32.5	5.2	3.9
精神障害者保健福祉手帳(n=130)	16.2	31.5	39.2	3.8	3.8
発達障害の診断を受けている(n=25)	16.0	32.0	28.0	8.0	0.0
高次脳機能障害の診断を受けている(n=8)	0.0	25.0	37.5	0.0	12.5
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=79)	10.1	19.0	41.8	2.5	10.1

3-5 災害について

問21 あなたは地震などの災害が起きたときのことについて、どのようなことに不安を感じていますか。
(〇はいくつでも)

災害が起きたときに不安に感じることは、全体では「薬や医療的ケアを確保できるか不安」が51.9%と最も多くなっており、次いで、「ひとりでは避難できない」が38.9%となっています。

障害種別ごとに見ると、身体障害者手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者、高次脳機能障害の診断を受けている方及び難病（特定疾患）の診断を受けている方では「薬や医療的ケアを確保できるか不安」がそれぞれ48.1%、60.8%、62.5%、65.8%で最も多くなっています。

また、愛の手帳所持者では「ひとりでは避難できない」が70.1%と最も多くなっており、発達障害の診断を受けている方では「避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい」が52.0%と最も多くなっています。

(単位:%)

	ひとりでは避難できない	自分では助けを呼ぶことができない	近所に助けてくれる人がいないことが不安	自宅や避難所で必要な介助や支援を受けられないか不安	災害についての情報を得るのが難しい	通勤や通学、通所の途中で災害にあった場合の対応がわからない	避難の仕方や、避難する場所がわからない
全体(n=676)	38.9	19.5	16.4	33.3	16.6	12.9	18.6
身体障害者手帳(n=420)	43.1	20.5	16.0	36.0	16.9	7.9	17.1
愛の手帳(n=77)	70.1	51.9	27.3	48.1	33.8	37.7	33.8
精神障害者保健福祉手帳(n=130)	24.6	12.3	19.2	33.1	16.2	19.2	23.8
発達障害の診断を受けている(n=25)	44.0	24.0	20.0	44.0	28.0	36.0	44.0
高次脳機能障害の診断を受けている(n=8)	62.5	37.5	0.0	50.0	25.0	0.0	25.0
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=79)	29.1	15.2	8.9	25.3	10.1	8.9	12.7

(単位:%)

	避難所の設備が障害に対応しているか不安	避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい	薬や医療的ケアを確保できるか不安	特になし	その他	無回答
全体(n=676)	29.7	25.0	51.9	15.7	4.0	2.4
身体障害者手帳(n=420)	35.5	22.6	48.1	16.0	3.3	2.6
愛の手帳(n=77)	41.6	50.6	49.4	7.8	1.3	0.0
精神障害者保健福祉手帳(n=130)	19.2	31.5	60.8	16.9	6.9	1.5
発達障害の診断を受けている(n=25)	28.0	52.0	48.0	12.0	8.0	0.0
高次脳機能障害の診断を受けている(n=8)	37.5	37.5	62.5	0.0	0.0	12.5
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=79)	27.8	26.6	65.8	16.5	2.5	1.3

問22 あなたは、災害のときにどのような支援が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

災害のときに必要な支援については、身体障害者手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者、高次脳機能障害の診断を受けている方及び難病（特定疾患）の診断を受けている方では「薬や医療的ケアの確保」が最も多くなっており、いずれも50%以上となっています。

また、愛の手帳所持者では「障害に対応した避難所の確保」が64.9%と最も多く、発達障害の診断を受けている方では「見守りや安否の確認」が56.0%と最も多くなっています。

次いで多い回答は、身体障害者手帳所持者及び愛の手帳所持者では「避難のための介助や支援」でそれぞれ41.0%、55.8%となっており、精神障害者保健福祉手帳所持者では「障害に対応した避難所の確保」が33.8%となっています。

(単位：%)

	障害に応じた災害情報の伝達	見守りや安否の確認	避難のための介助や支援	自宅や避難所での介助や支援	障害に対応した避難所の確保	薬や医療的ケアの確保	特にない	その他	無回答
全体(n=676)	28.6	28.1	34.6	34.2	37.0	60.8	10.1	1.6	2.8
身体障害者手帳(n=420)	29.5	26.2	41.0	36.0	40.2	59.3	11.0	1.2	3.1
愛の手帳(n=77)	41.6	50.6	55.8	53.2	64.9	46.8	2.6	1.3	1.3
精神障害者保健福祉手帳(n=130)	31.5	33.1	23.1	29.2	33.8	68.5	7.7	3.8	1.5
発達障害の診断を受けている(n=25)	36.0	56.0	44.0	48.0	44.0	48.0	12.0	4.0	0.0
高次脳機能障害の診断を受けている(n=8)	37.5	50.0	37.5	50.0	50.0	75.0	0.0	0.0	12.5
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=79)	19.0	22.8	29.1	34.2	29.1	72.2	15.2	0.0	2.5

【前回調査との比較】 あなたは、災害のときにどのような支援が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

前回(令和2年2月)の調査結果と比較すると、全体では、「見守りや安否の確認」では25.2%から28.1%と2.9ポイント増加しており、「自宅や避難所での介助や支援」では32.3%から34.2%と1.9ポイント増加しています。

特に、「見守りや安否の確認」では、高次脳機能障害の診断を受けている方で25.0%から50.0%と25.0ポイント増加し、愛の手帳所持者では44.8%から50.6%と5.8ポイント増加しており、「自宅や避難所での介助や支援」では、愛の手帳所持者では44.8%から53.2%と8.4ポイント増加し、身体障害者手帳所持者では、31.8%から36.0%と4.2ポイント増加しています。

(単位:%)

		障害に 応じた 災害 情報 の伝達	見守り や安 否の 確認	避難 のた めの 介助 や支 援	自宅 や 避難 所 で の 介 助 や 支 援	障害 に 対 応 し た 避 難 所 の 確 保	薬 や 医 療 的 ケ ア の 確 保	特 に な い	そ の 他	無 回 答
全体	今回(n=676)	28.6	28.1	34.6	34.2	37.0	60.8	10.1	1.6	2.8
	前回(n=824)	34.3	25.2	33.7	32.3	41.1	59.7	9.6	0.7	3.8
	今回-前回	-5.7	2.9	0.9	1.9	-4.1	1.1	0.5	0.9	-1.0
身体障害者手帳	今回(n=420)	29.5	26.2	41.0	36.0	40.2	59.3	11.0	1.2	3.1
	前回(n=559)	31.7	22.0	33.1	31.8	41.9	56.9	8.9	0.9	3.9
	今回-前回	-2.2	4.2	7.9	4.2	-1.7	2.4	2.1	0.3	-0.8
愛の手帳	今回(n=77)	41.6	50.6	55.8	53.2	64.9	46.8	2.6	1.3	1.3
	今回(n=125)	51.2	44.8	63.2	44.8	63.2	53.6	6.4	0.8	4.0
	今回-前回	-9.6	5.8	-7.4	8.4	1.7	-6.8	-3.8	0.5	-2.7
精神障害者保健 福祉手帳	今回(n=130)	31.5	33.1	23.1	29.2	33.8	68.5	7.7	3.8	1.5
	前回(n=148)	38.5	30.4	29.1	34.5	33.1	70.9	10.8	0.0	4.7
	今回-前回	-7.0	2.7	-6.0	-5.3	0.7	-2.4	-3.1	3.8	-3.2
発達障害の診断 を受けている	今回(n=25)	36.0	56.0	44.0	48.0	44.0	48.0	12.0	4.0	0.0
	前回(n=26)	57.7	50.0	61.5	53.8	61.5	76.9	0.0	0.0	3.8
	今回-前回	-21.7	6.0	-17.5	-5.8	-17.5	-28.9	12.0	4.0	-3.8
高次脳機能障害 の診断を受けて いる	今回(n=8)	37.5	50.0	37.5	50.0	50.0	75.0	0.0	0.0	12.5
	前回(n=8)	37.5	25.0	75.0	75.0	50.0	50.0	0.0	0.0	12.5
	今回-前回	0.0	25.0	-37.5	-25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
難病(特定疾患) の診断を受けて いる	今回(n=79)	19.0	22.8	29.1	34.2	29.1	72.2	15.2	0.0	2.5
	前回(n=80)	27.5	23.8	30.0	35.0	35.0	75.0	5.0	0.0	2.5
	今回-前回	-8.5	-1.0	-0.9	-0.8	-5.9	-2.8	10.2	0.0	0.0

3-6 す 住まいについて

問23 あなたの住まいをお聞きます。(○はひとつ)

住まいの状況については、障害の種類に関わらず「持ち家（一戸建て）」が最も多くなっており、全体では49.4%となっています。

次いで多い住まいについて見ると、身体障害者手帳所持者及び難病（特定疾患）の診断を受けている方では「持ち家（集合住宅）」がそれぞれ16.7%、17.7%となっており、愛の手帳所持者では「グループホームなど」が14.3%、精神障害者保健福祉手帳所持者及び発達障害の診断を受けている方では「民間賃貸住宅（集合住宅）」がそれぞれ24.6%、28.0%となっています。

なお、高次脳機能障害の診断を受けている方では、「持ち家（集合住宅）」と「公営住宅（都営・市営）」がともに12.5%となっています。

(単位:%)

	持ち家（一戸建て）	持ち家（集合住宅）	民間賃貸住宅（一戸建て）	民間賃貸住宅（集合住宅）	公営住宅（都営・市営）	公社・公団賃貸住宅	グループホーム	入所施設	その他	無回答
全体(n=676)	49.4	14.8	1.9	14.3	7.0	2.8	2.2	4.6	1.6	1.3
身体障害者手帳(n=420)	52.4	16.7	1.9	12.4	6.0	3.3	0.2	4.8	0.7	1.7
愛の手帳(n=77)	53.2	7.8	1.3	7.8	5.2	2.6	14.3	5.2	2.6	0.0
精神障害者保健福祉手帳(n=130)	35.4	10.0	3.1	24.6	13.1	1.5	3.8	3.8	3.1	1.5
発達障害の診断を受けている(n=25)	48.0	4.0	4.0	28.0	4.0	8.0	4.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害の診断を受けている(n=8)	50.0	12.5	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=79)	51.9	17.7	0.0	13.9	10.1	1.3	0.0	1.3	2.5	1.3

問24 あなたには、住宅に関して困っていることがありますか。(○はいくつでも)

住宅に関して困っていることについて、高次脳機能障害の診断を受けている方を除いて「特になく、満足している」が最も多くなっており、それぞれ30%以上となっています。
 高次脳機能障害の診断を受けている方では「階段の昇り降り」が50.0%と最も多くなっています。
 次に多い回答は、身体障害者手帳所持者及び難病(特定疾患)の診断を受けている方では「階段の昇り降り」がそれぞれ27.9%、22.8%となっており、愛の手帳所持者では「建物の老朽化」が22.1%、発達障害の診断を受けている方では「家賃など住宅費の負担」が24.0%となっています。
 また、精神障害者保健福祉手帳所持者では「建物の老朽化」と「家賃など住宅費の負担」がともに23.8%となっています。

(単位:%)

	階段の昇り降り	玄関・出入口の段差	入口や廊下が狭い	風呂が使いにくい	トイレが使いにくい	建物の老朽化
全体(n=676)	21.3	12.0	5.3	9.5	4.4	19.2
身体障害者手帳(n=420)	27.9	16.9	6.2	12.4	5.5	18.1
愛の手帳(n=77)	9.1	5.2	5.2	5.2	5.2	22.1
精神障害者保健福祉手帳(n=130)	13.1	4.6	6.9	8.5	3.8	23.8
発達障害の診断を受けている(n=25)	8.0	0.0	4.0	8.0	4.0	16.0
高次脳機能障害の診断を受けている(n=8)	50.0	12.5	0.0	37.5	12.5	0.0
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=79)	22.8	11.4	2.5	3.8	2.5	19.0

(単位:%)

	家賃など住宅費の負担	住宅を借りるのが難しい	特になく満足している	その他	無回答
全体(n=676)	16.1	3.6	38.6	5.0	5.5
身体障害者手帳(n=420)	14.0	2.1	35.7	2.6	6.4
愛の手帳(n=77)	14.3	3.9	51.9	5.2	6.5
精神障害者保健福祉手帳(n=130)	23.8	10.0	34.6	10.8	1.5
発達障害の診断を受けている(n=25)	24.0	16.0	44.0	16.0	0.0
高次脳機能障害の診断を受けている(n=8)	0.0	0.0	25.0	0.0	12.5
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=79)	17.7	2.5	40.5	5.1	5.1

問25 あなたは、住宅に関して行政が今後どのような取り組みをする必要があると思いますか。
(〇はいくつでも)

住宅に関して行政が今後取り組む必要があることについては、身体障害者手帳所持者及び難病(特定疾患)の診断を受けている方では、「住宅改修費の助成を充実する」がそれぞれ39.8%、43.0%と最も多くなっており、愛の手帳所持者では「グループホームの整備を促進する」が50.6%、精神障害者保健福祉手帳所持者及び発達障害の診断を受けている方では「家賃の助成をする」がそれぞれ43.1%、40.0%と最も多くなっています。

また、高次脳機能障害の診断を受けている方では「住宅改修費の助成を充実する」と「障害者向け住宅の整備を促進する」がともに37.5%と最も多くなっています。

(単位:%)

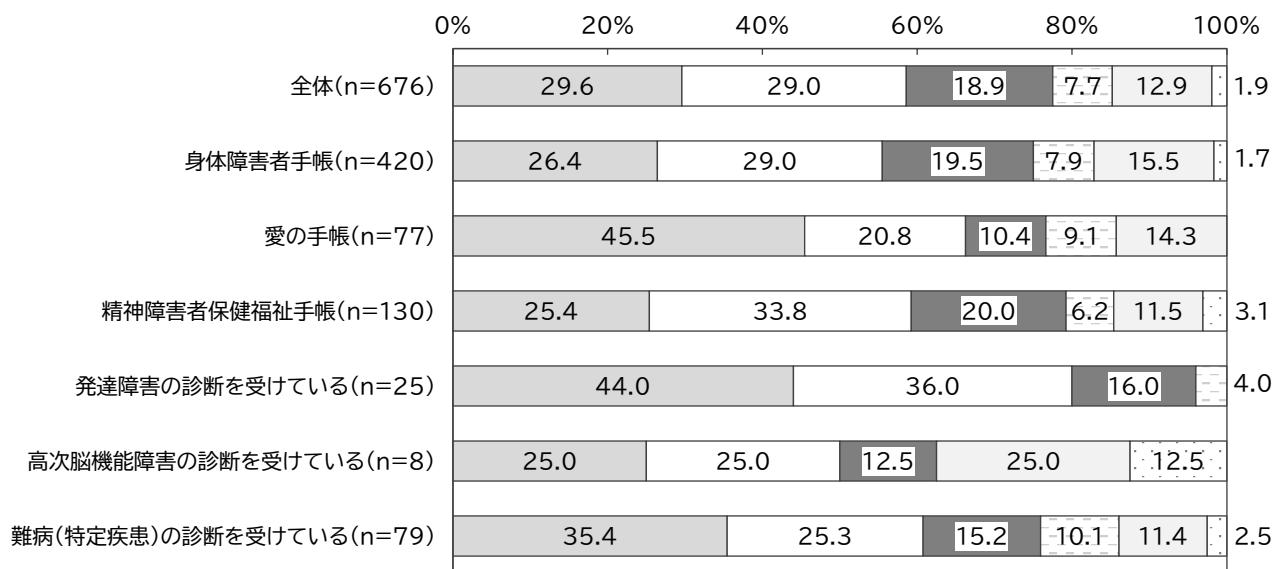
	住宅改修費の助成を充実する	公営住宅を障害者が利用しやすくする	公営住宅の入居の優先枠を拡充する	障害者向け住宅の整備を促進する	単身者向け住宅の整備を促進する	グループホームの整備を促進する	家賃の助成をする	特にない	その他	無回答
全体(n=676)	36.2	18.6	16.9	22.2	10.9	12.3	26.2	23.5	2.5	7.1
身体障害者手帳(n=420)	39.8	18.1	15.5	22.4	9.3	7.6	21.2	26.2	1.7	8.6
愛の手帳(n=77)	22.1	11.7	11.7	32.5	6.5	50.6	24.7	6.5	5.2	6.5
精神障害者保健福祉手帳(n=130)	32.3	29.2	28.5	23.1	23.1	14.6	43.1	19.2	3.8	2.3
発達障害の診断を受けている(n=25)	24.0	28.0	36.0	36.0	24.0	32.0	40.0	12.0	8.0	0.0
高次脳機能障害の診断を受けている(n=8)	37.5	25.0	12.5	37.5	12.5	25.0	12.5	25.0	0.0	12.5
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=79)	43.0	17.7	12.7	21.5	3.8	2.5	31.6	27.8	0.0	6.3

3-7 外出について

問26 あなたは普段、どのくらいの頻度で外出していますか。(○はひとつ)

外出の頻度について、「週に1～2日くらい」以上外出している人は、どの障害種別でも60%以上となっており、特に、発達障害の診断を受けている方では96.0%と、障害種別の中で最も多くなっています。

なお、「ほとんど毎日」外出している人は、愛の手帳所持者で45.5%、発達障害の診断を受けている方で44.0%と、他の障害種別と比較して多くなっています。



ほとんど毎日
 週に3～5日くらい
 週に1～2日くらい
 月に1～3日くらい
 あまり外出しない
 無回答

問27 あなたは普段、どのような目的で外出していますか。(〇はいくつでも)

外出の目的については、全体では「買い物」が63.9%と最も多くなっており、次いで、「通院」が60.2%となっています。

障害種別ごとに見ると、高次脳機能障害の診断を受けている方では「施設への入所」が62.5%、難病(特定疾患)の障害の診断を受けている方では「通院」が72.2%と最も多くなっていますが、他の障害種別では「買い物」が最も多くなっています。

(単位:%)

	通勤	通学	施設への通所	通院	訓練・リハビリ	買い物	趣味活動遊び
全体(n=676)	20.4	1.3	14.6	60.2	10.8	63.9	23.1
身体障害者手帳(n=420)	14.5	0.2	11.2	58.3	14.8	61.0	20.5
愛の手帳(n=77)	28.6	3.9	46.8	46.8	2.6	53.2	29.9
精神障害者保健福祉手帳(n=130)	23.1	1.5	20.8	70.0	5.4	73.1	25.4
発達障害の診断を受けている(n=25)	36.0	8.0	44.0	76.0	8.0	84.0	52.0
高次脳機能障害の診断を受けている(n=8)	12.5	0.0	62.5	50.0	50.0	12.5	25.0
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=79)	43.0	1.3	3.8	72.2	11.4	70.9	20.3

(単位:%)

	スポーツ・運動・レクリエーション	人との交流(人づきあい)	旅行	あまり外出しない	その他	無回答
全体(n=676)	11.2	17.3	8.7	12.3	6.7	1.5
身体障害者手帳(n=420)	11.4	18.3	9.0	16.0	6.7	1.2
愛の手帳(n=77)	13.0	7.8	6.5	10.4	7.8	1.3
精神障害者保健福祉手帳(n=130)	8.5	15.4	6.9	7.7	6.2	1.5
発達障害の診断を受けている(n=25)	4.0	20.0	0.0	0.0	4.0	0.0
高次脳機能障害の診断を受けている(n=8)	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	12.5
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=79)	10.1	24.1	8.9	10.1	3.8	1.3

問28 あなたは普段、どのような移動手段を利用していますか（○はいくつでも）

普段の移動手段については、障害の種別に関わらず「徒歩」が最も多くなっており、いずれも40%以上となっており、特に、発達障害の診断を受けている方では88.0%と、他の障害種別と比較して多くなっています。

なお、高次脳機能障害の診断を受けている方では、「徒歩」と同じ割合で「自動車（自分以外が運転）」が62.5%と最も多くなっています。

次いで多い回答は、身体障害者手帳所持者及び精神障害者保健福祉手帳所持者、発達障害の診断を受けている方、高次脳機能障害の診断を受けている方では「路線バス」がそれぞれ39.3%、57.7%、56.0%、37.5%となっており、愛の手帳所持者及び難病（特定疾患）の診断を受けている方では「自動車（自分以外が運転）」がそれぞれ50.6%、44.3%となっています。

（単位：%）

	徒歩	車いす	電動車いす	自転車	オートバイ	自動車（自分で運転）	自動車（自分以外が運転）	電車
全体(n=676)	53.3	9.6	1.6	12.4	3.1	24.9	31.5	36.8
身体障害者手帳(n=420)	46.4	15.0	2.6	9.3	3.3	26.9	30.7	31.0
愛の手帳(n=77)	55.8	6.5	0.0	9.1	0.0	2.6	50.6	37.7
精神障害者保健福祉手帳(n=130)	65.4	2.3	0.8	19.2	2.3	13.1	19.2	49.2
発達障害の診断を受けている(n=25)	88.0	0.0	0.0	16.0	0.0	8.0	28.0	64.0
高次脳機能障害の診断を受けている(n=8)	62.5	25.0	0.0	12.5	0.0	0.0	62.5	37.5
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=79)	50.6	11.4	3.8	13.9	5.1	44.3	44.3	36.7

（単位：%）

	路線バス	一般のタクシー	リフト付きタクシー	市のリフト付き自動車（わか）（ま号）	あまり外出しない	その他	無回答
全体(n=676)	42.0	18.5	1.3	0.3	8.0	2.7	1.6
身体障害者手帳(n=420)	39.3	22.1	1.9	0.5	8.8	3.3	1.4
愛の手帳(n=77)	39.0	9.1	2.6	0.0	9.1	0.0	1.3
精神障害者保健福祉手帳(n=130)	57.7	16.2	0.8	0.8	6.9	1.5	1.5
発達障害の診断を受けている(n=25)	56.0	24.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0
高次脳機能障害の診断を受けている(n=8)	37.5	12.5	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=79)	31.6	16.5	2.5	0.0	6.3	2.5	0.0

問29 あなたは、外出するとき、どのようなことで困っていますか。(〇はいくつでも)

外出時に困ることについては、「特にない」を除くと、全体では、「困ったときどうすればいいか不安」が19.1%と最も多く、次いで、「歩道や道路の段差の幅」が18.2%となっています。

障害種別ごとに見ると、身体障害者手帳所持者及び高次脳機能障害の診断を受けている方では「歩道や道路の段差の幅」がそれぞれ26.0%、50.0%と最も多くなっており、愛の手帳所持者及び精神障害者保健福祉手帳所持者、発達障害の診断を受けている方では「困ったときどうすればいいか不安」がそれぞれ31.2%、33.1%、52.0%と最も多くなっています。

また、難病（特定疾患）の診断を受けている方では、「建物の段差・階段・設備」が25.0%で最も多くなっています。

(単位:%)

	付き添ってくれる人がいない	歩道や道路の段差の幅	横断用の信号の時間が短い	音響式信号機の設置が十分でない	建物の段差・階段・設備	駅での移動や乗り替え	駅での券売機の利用	バスやタクシーの乗り降り	電車やバス内などでのアナウンスがわかりにくい	公共交通機関が少ない	トイレの利用
全体(n=676)	9.5	18.2	7.8	2.4	17.8	15.2	4.1	8.6	5.8	4.1	17.5
身体障害者手帳(n=420)	10.0	26.0	9.8	3.6	25.2	18.3	4.5	11.4	6.2	3.8	19.5
愛の手帳(n=77)	14.3	6.5	2.6	0.0	6.5	14.3	10.4	6.5	6.5	3.9	14.3
精神障害者保健福祉手帳(n=130)	10.0	7.7	4.6	0.8	7.7	13.8	3.8	2.3	4.6	5.4	14.6
発達障害の診断を受けている(n=25)	8.0	12.0	8.0	0.0	8.0	24.0	8.0	12.0	20.0	4.0	16.0
高次脳機能障害の診断を受けている(n=8)	0.0	50.0	12.5	0.0	25.0	25.0	0.0	12.5	12.5	0.0	25.0
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=79)	7.6	19.0	10.1	1.3	22.8	15.2	1.3	11.4	3.8	1.3	17.7

(単位:%)

	休憩場所がない	障害者用駐車場が少ない	交通費の負担	発作など突然の心身の変化	確保等が難しい	多動やこだわりのため、安全	周囲の目が気になる	困ったときどうすればいいか不安	特にない	その他	無回答
全体(n=676)	12.9	11.4	17.6	11.4	4.0	7.8	19.1	26.3	4.6	4.4	
身体障害者手帳(n=420)	13.1	15.7	14.8	7.6	1.4	3.1	14.5	23.3	4.0	4.5	
愛の手帳(n=77)	11.7	7.8	13.0	15.6	16.9	15.6	31.2	26.0	6.5	6.5	
精神障害者保健福祉手帳(n=130)	16.2	2.3	30.8	24.6	6.9	19.2	33.1	24.6	5.4	2.3	
発達障害の診断を受けている(n=25)	24.0	0.0	40.0	32.0	20.0	40.0	52.0	12.0	0.0	0.0	
高次脳機能障害の診断を受けている(n=8)	0.0	12.5	12.5	25.0	0.0	12.5	12.5	12.5	0.0	25.0	
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=79)	12.7	7.6	21.5	10.1	2.5	5.1	19.0	32.9	6.3	2.5	

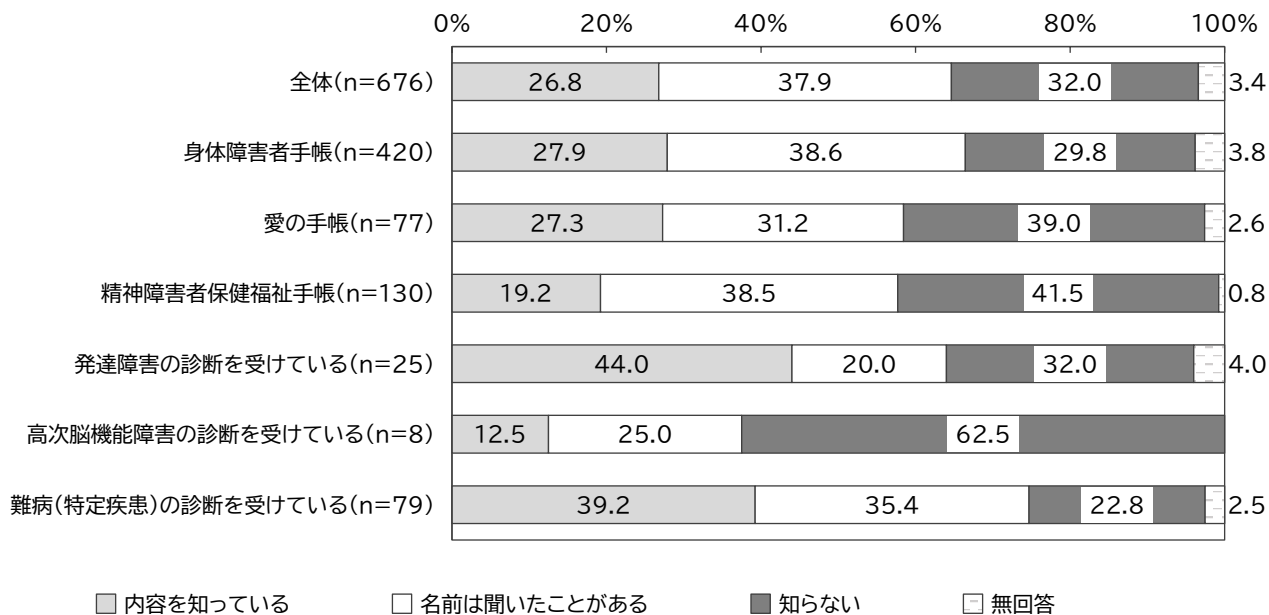
3-8 権利擁護について

問30 あなたは次のような権利擁護の取り組みを知っていますか。(〇はひとつ)

①成年後見制度

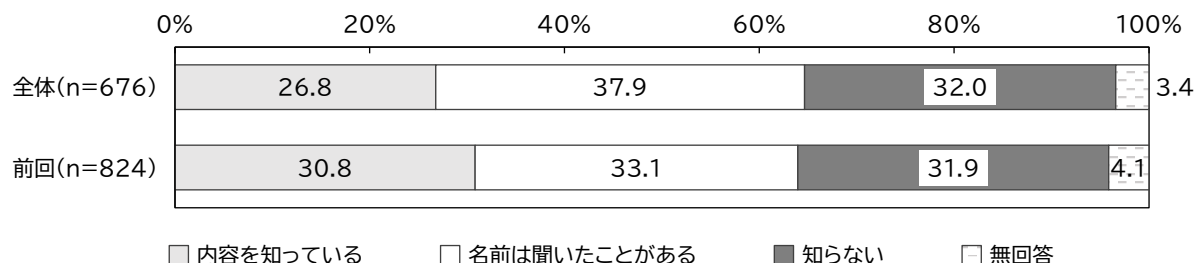
成年後見制度の認知度について、全体では「内容を知っている」が26.8%、「名前は聞いたことがある」が37.9%、「知らない」が32.0%となっています。

なお、高次脳機能障害の診断を受けている方では「知らない」が62.5%と他の障害種別と比較して多くなっています。



【前回調査との比較】

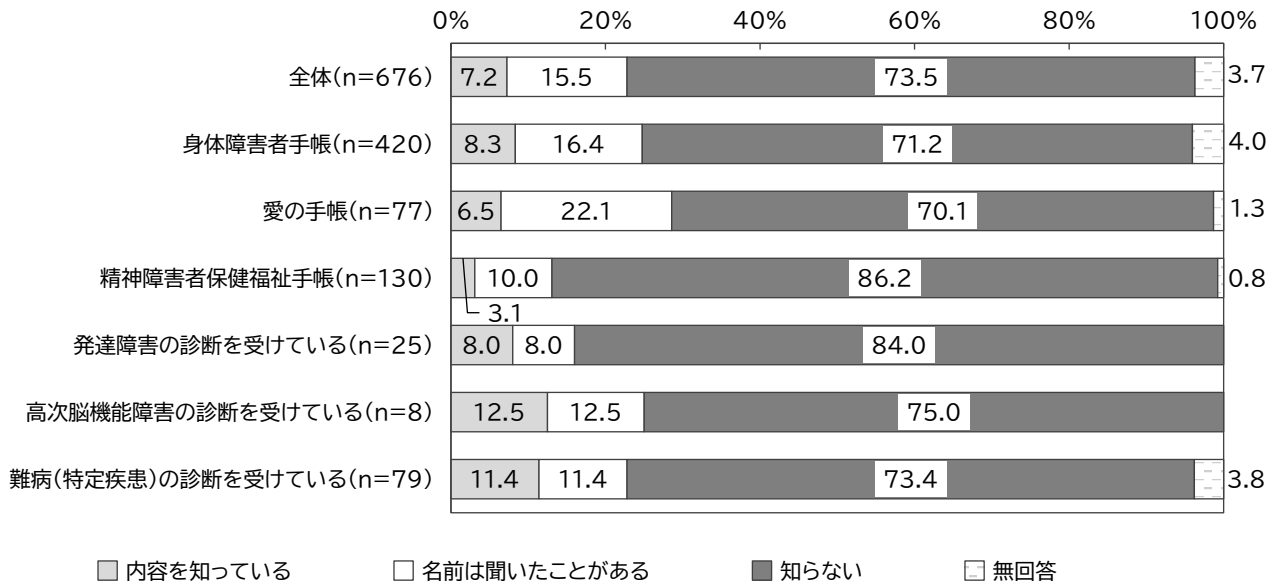
前回(令和2年2月)の調査結果と比較すると、成年後見制度について知っている人(「内容を知っている」「名前は聞いたことがある」の合計。以下、同じ。)は、63.9%から64.7%と0.8ポイント増加しています。



②地域福祉権利擁護事業

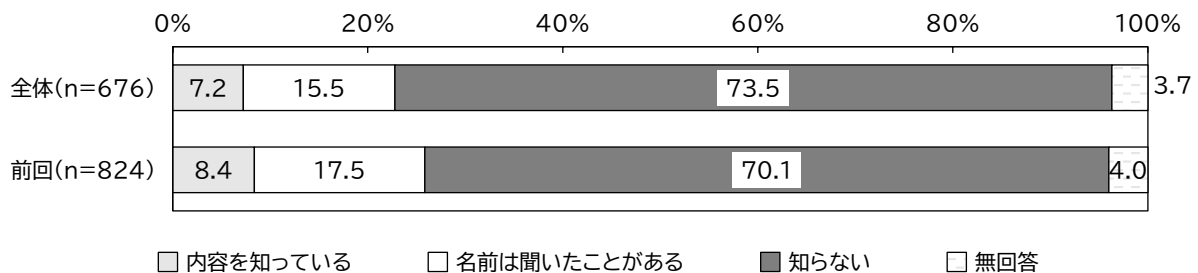
地域福祉権利擁護事業の認知度について、全体では「内容を知っている」が7.2%、「名前は聞いたことがある」が15.5%、「知らない」が73.5%、「名前は聞いたことがある」が15.5%、「知らない」が73.5%となっています。

なお、どの障害種別でも「知らない」が70%以上となっています。



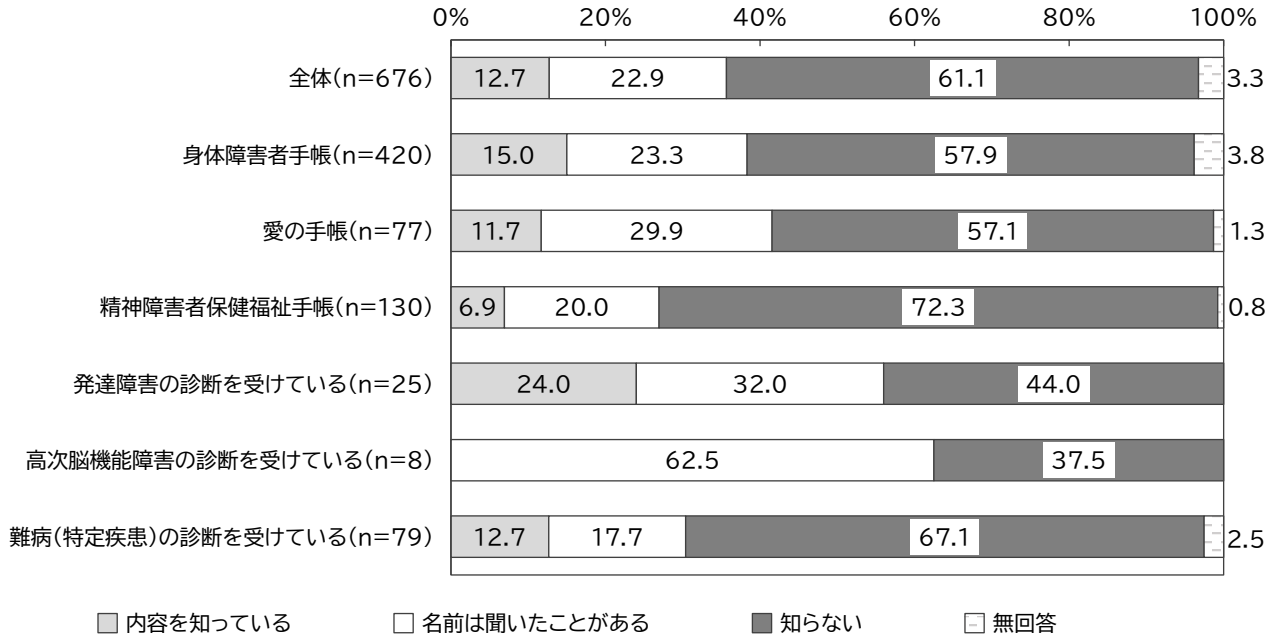
【前回調査との比較】

前回(令和2年2月)の調査結果と比較すると、地域福祉権利擁護事業について知っている人は、25.9%から22.7%と3.2ポイント減少しています。



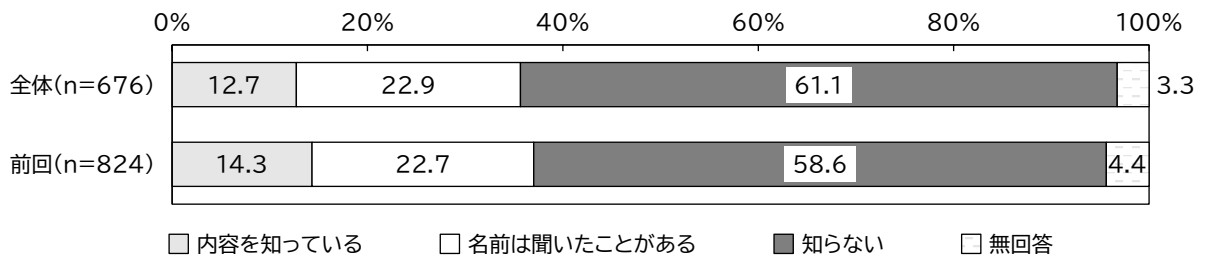
③ 障害を理由とする差別の解消に関する法律(差別解消法)

障害を理由とする差別の解消に関する法律(差別解消法)の認知度について、全体では「内容を知っている」が12.7%、「名前は聞いたことがある」が22.9%、「知らない」が61.1%となっています。
 なお、発達障害の診断を受けている方及び高次脳機能障害の診断を受けている方を除いて、「知らない」が50%以上となっています。



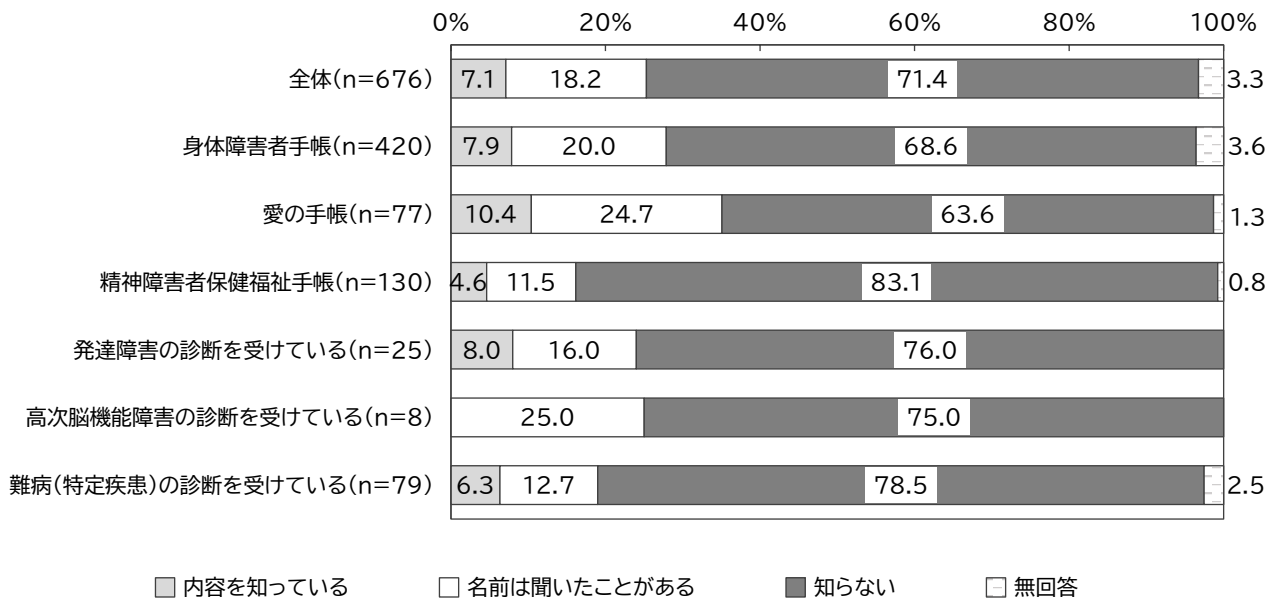
【前回調査との比較】

前回(令和2年2月)の調査結果と比較すると、障害を理由とする差別の解消に関する法律(差別解消法)知っている人は37.0%から35.6%と1.4ポイント減少しています。



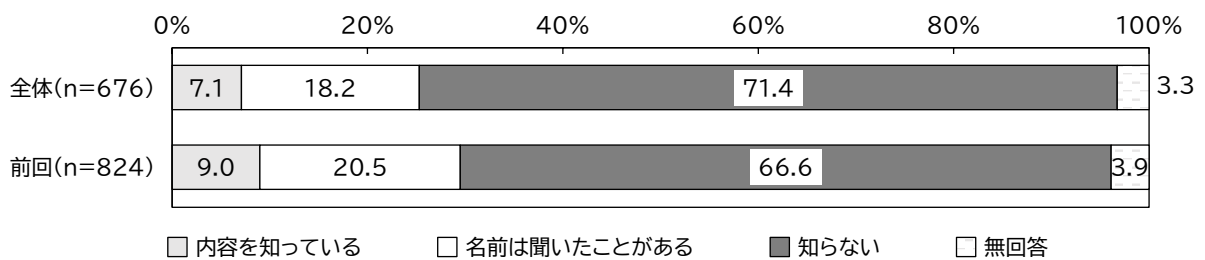
④ 障害のある人もない人も共に安心して暮らせる八王子づくり条例(差別禁止条例)

障害のある人もない人も共に安心して暮らせる八王子づくり条例(差別禁止条例)の認知度について、全体では「内容を知っている」が7.1%、「名前は聞いたことがある」が18.2%、「知らない」が71.4%となっています。



【前回調査との比較】

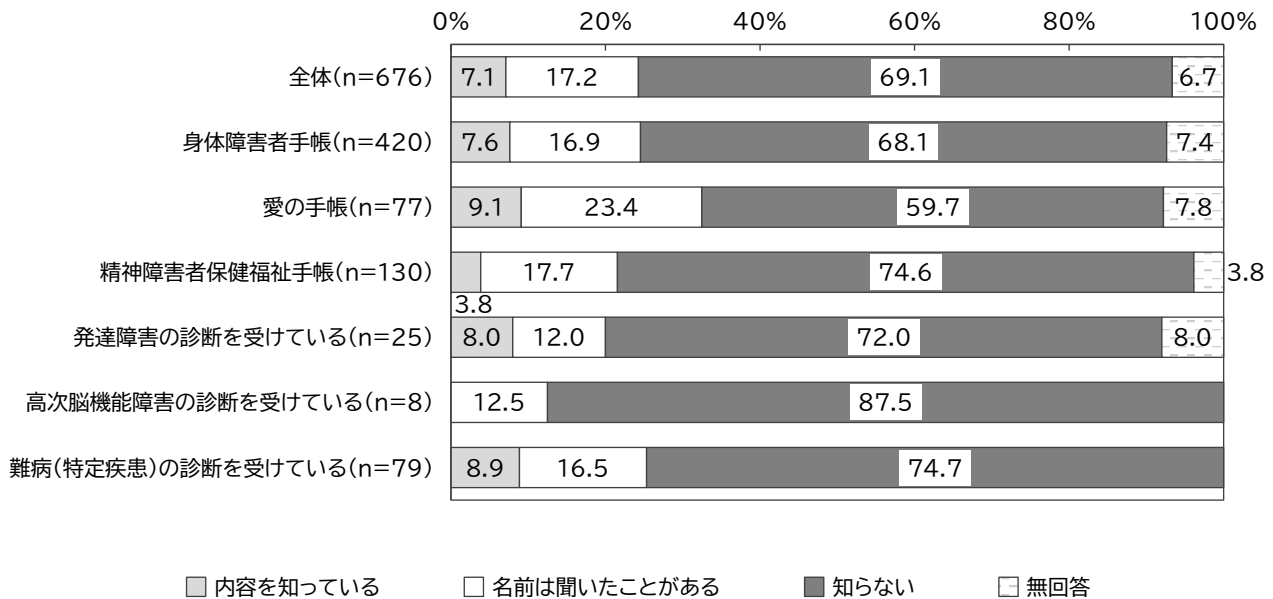
前回(令和2年2月)の調査結果と比較すると、障害のある人もない人も共に安心して暮らせる八王子づくり条例(差別禁止条例)について知っている人は、29.5%から25.3%と4.2ポイント減少しています。



⑤八王子市障害者虐待防止センター

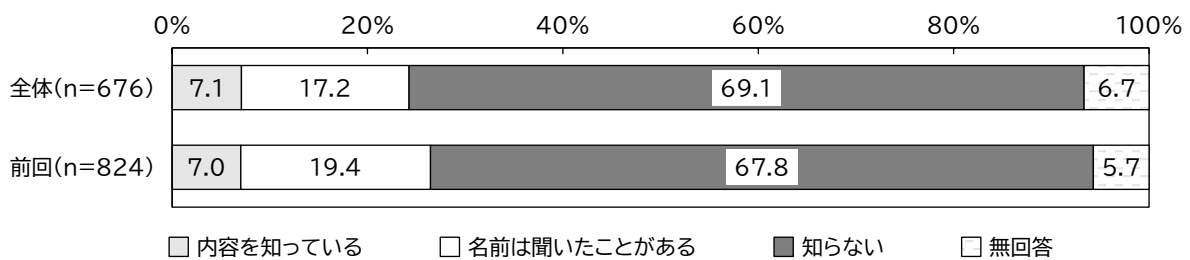
八王子市障害者虐待防止センターの認知度について、全体では「内容を知っている」が7.1%、「名前を聞いたことがある」が17.2%、「知らない」が69.1%となっています。

なお、愛の手帳所持者では「知らない」が59.7%と他の障害種別よりも少なくなっています。



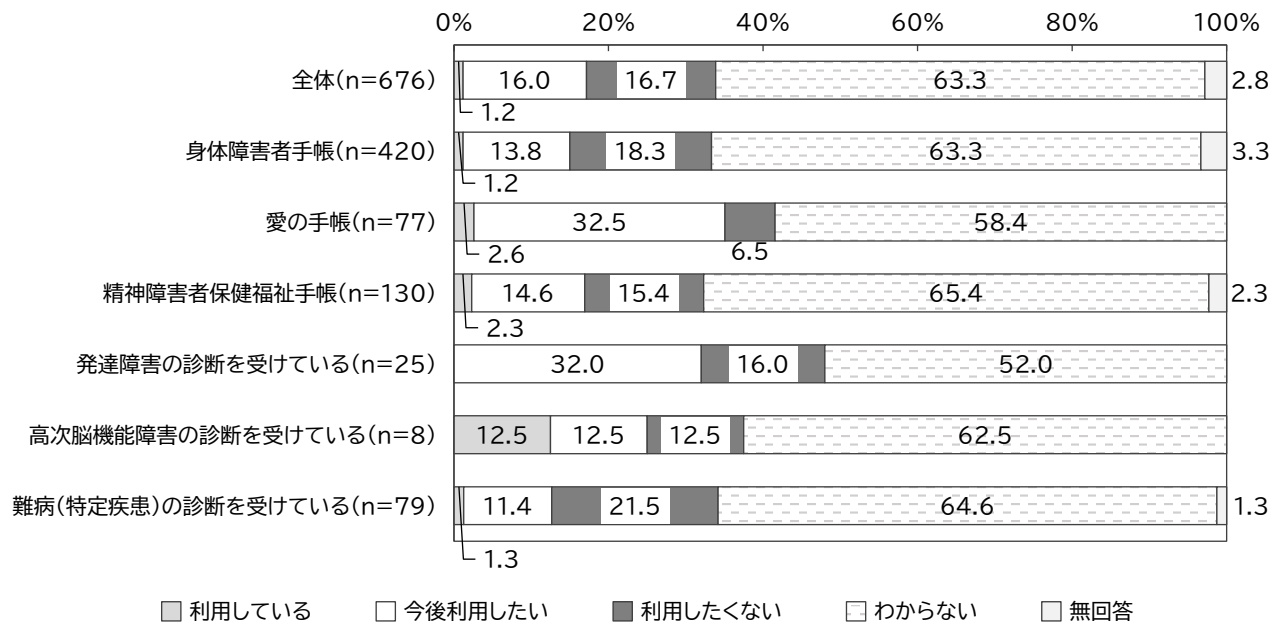
【前回調査との比較】

前回(令和2年2月)の調査結果と比較すると、八王子市障害者虐待防止センターについて知っている人は、26.4%から24.3%と2.1ポイント減少しています。



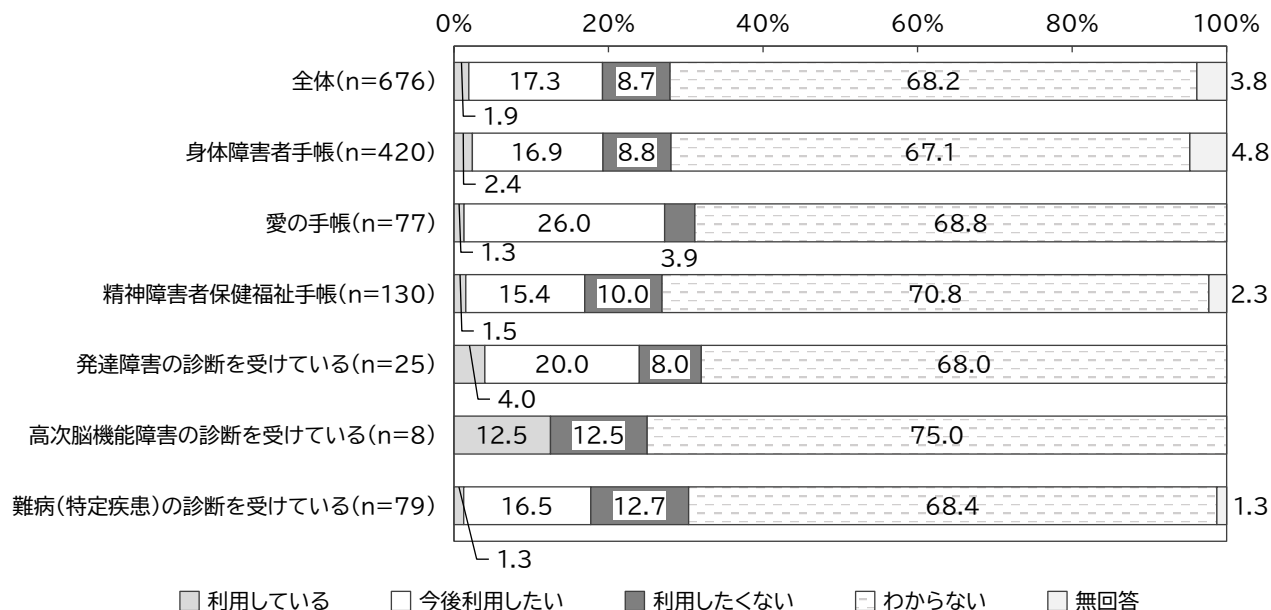
問31 あなたは今後、成年後見制度を利用したいと思いますか。また、利用していない場合は、今後利用したいと思いますか。(〇はひとつ)

成年後見制度の利用意向について、全体では「利用している」が1.2%、「今後利用したい」が16.0%、「利用したくない」が16.7%、「わからない」が63.3%となっています。
 なお、どの障害種別でも「わからない」が50%以上となっています。



問32 あなたは今後、地域福祉権利擁護事業を利用したいと思いますか。また、利用していない場合は、今後利用したいと思いますか。(〇はひとつ)

地域福祉権利擁護事業の利用意向について、全体では、「利用している」が1.9%、「今後利用したい」が17.3%、「利用したくない」が8.7%、「わからない」が68.2%となっています。
 なお、どの障害種別でも「わからない」が60%以上となっており、愛の手帳所持者では「今後利用したい」が26.0%と他の障害種別よりも多くなっています。



問33 あなたはこれまでに、障害があるためにあきらめたり、できなかったりしたことがありますか。
(〇はいくつでも)

これまでに、障害が理由であきらめたり、できなかったことについては、「特にない」を除くと、全体では、「旅行や外出」が33.9%と最も多く、次いで、「スポーツ・運動・レクリエーション」が26.9%となっています。

障害種別ごとに見ると、身体障害者手帳所持者では「旅行や外出」が39.0%、愛の手帳所持者及び発達障害の診断を受けている方では「結婚」でそれぞれ35.1%、48.0%と最も多くなっています。

また、精神障害者保健福祉手帳所持者では「就職」が44.6%、高次脳機能障害の診断を受けている方及び難病（特定疾患）の診断を受けている方では「スポーツ・運動・レクリエーション」がそれぞれ50.0%、36.7%と最も多くなっています。

(単位:%)

	進学	就職	恋愛	結婚	出産・育児	人づきあい	旅行や外出
全体(n=676)	6.7	21.4	11.2	14.5	7.2	18.0	33.9
身体障害者手帳(n=420)	5.0	15.2	5.0	7.4	3.3	14.3	39.0
愛の手帳(n=77)	24.7	32.5	33.8	35.1	16.9	23.4	29.9
精神障害者保健福祉手帳(n=130)	7.7	44.6	24.6	34.6	18.5	36.2	33.8
発達障害の診断を受けている(n=25)	8.0	36.0	48.0	48.0	32.0	44.0	32.0
高次脳機能障害の診断を受けている(n=8)	12.5	37.5	25.0	37.5	12.5	37.5	37.5
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=79)	5.1	15.2	10.1	10.1	6.3	21.5	35.4

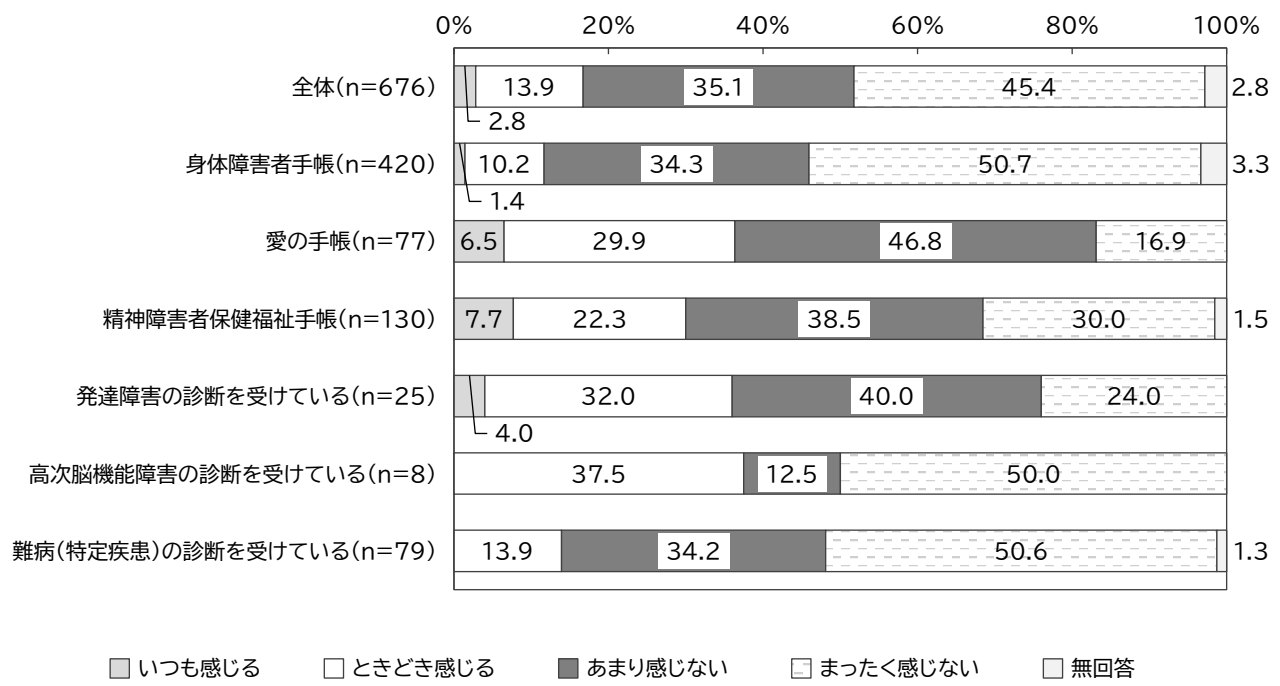
(単位:%)

	おしゃれ	趣味活動・遊び	スポーツ・運動・レクリエーション	特にない	その他	無回答
全体(n=676)	9.5	20.7	26.9	30.5	3.4	4.1
身体障害者手帳(n=420)	7.6	21.7	32.1	31.9	2.1	4.3
愛の手帳(n=77)	10.4	26.0	18.2	23.4	5.2	7.8
精神障害者保健福祉手帳(n=130)	19.2	23.8	17.7	16.9	4.6	0.8
発達障害の診断を受けている(n=25)	16.0	24.0	16.0	32.0	0.0	0.0
高次脳機能障害の診断を受けている(n=8)	25.0	50.0	50.0	12.5	12.5	0.0
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=79)	15.2	22.8	36.7	34.2	5.1	2.5

問34 あなたや家族の方は、あなたの障害のことで差別や人権侵害を受けていると感じることがありますか。
(○はひとつ)

全体では、差別や人権侵害を受けていると感じている人(「いつも感じる」、「ときどき感じる」の合計。以下、同じ。)の割合が16.7%、感じていない人(「あまり感じない」、「まったく感じない」の合計。以下、同じ。)の割合が80.5%となっています。

障害種別ごとに見ると、感じていない人の割合は、高次脳機能障害の診断を受けている方で37.5%と最も多く、次いで、愛の手帳所持者で36.4%となっています。



問35 問34で「1 いつも感じる」、「2 ときどき感じる」と回答した方にお聞きします。
 差別や人権侵害を受けていると感じるのはどのようなときですか。具体的にお書きください。

差別や人権侵害を受けていると感じているときについて、85名の方から回答がありました。各意見を
 内容ごとに分類した結果を以下に示します。

なお、お一人の回答者が複数のご意見を述べられた場合は、それぞれで集計したため、類型回答数
 は102件となり、回答者数より多くなっています。

主な意見	件数
1.日常生活で他者とかかわるとき	21
2.公共交通機関を利用するとき	13
3.家族・親族とかかわるとき	12
4.施設を利用するとき	9
5.保険や制度を利用するとき	7
6.お店などを利用するとき	7
7.仕事をする、しようとするとき	5
8.学校生活をするとき	5
9.病院で受診するとき	4
10.近隣とかかわるとき	1
11.ネットに書き込まれたとき	1
12.言いたくない(理解してもらえない)	8
13.その他	9
合計	102

問36 あなたは、障害による差別や人権侵害をなくすために、どのようなことが必要だと思いますか。具体的にお書きください。

障害による差別や人権侵害をなくすために必要なことについては、244名の方から回答がありました。各意見を内容ごとに分類した結果を以下に示します。

なお、お一人の回答者が複数のご意見を述べられた場合は、それぞれで集計したため、類型回答数は256件となり、回答者数より多くなっています。

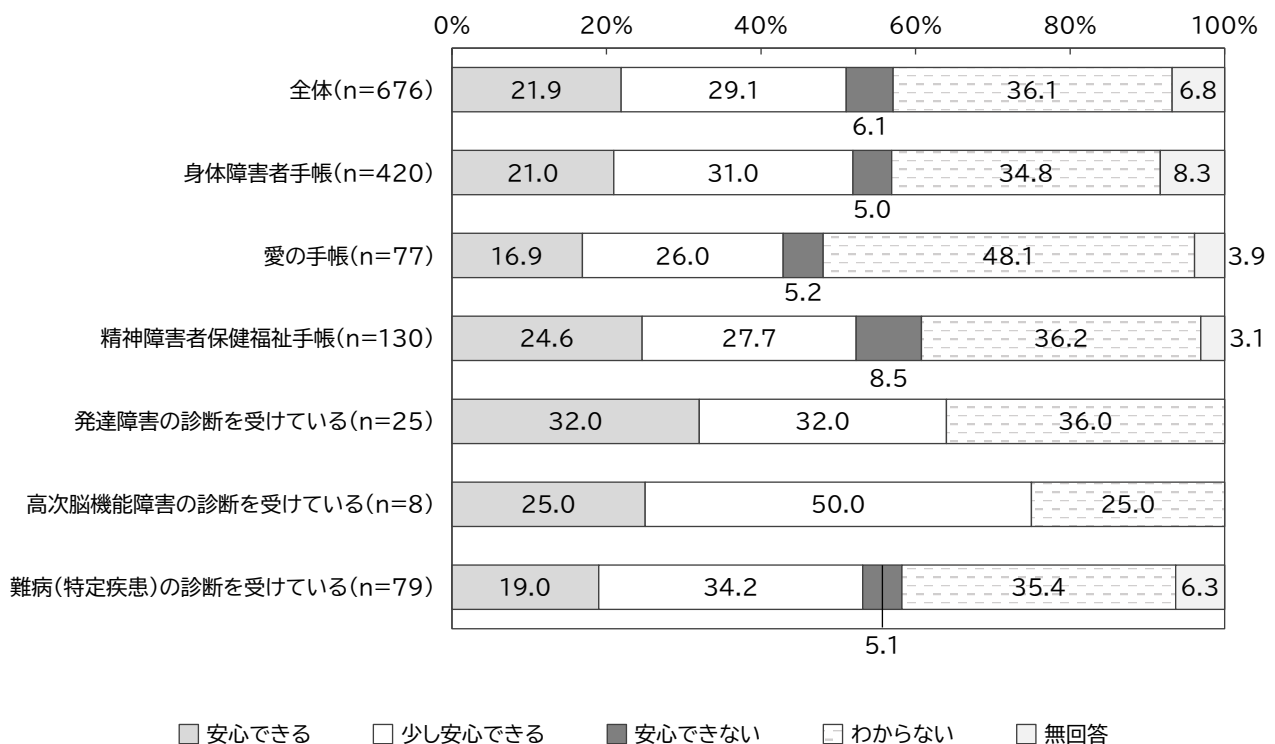
主な意見	件数
1.理解することが必要	43
2.思いやり・やさしさ・心のゆとりが必要	31
3.小さい頃からの交流と教育が必要	30
4.法律・制度・行政・福祉サービスの改善・充実が必要	27
5.知る、知ってもらうことが必要	19
6.広報・啓蒙活動が必要	16
7.交流する、交流の場をつくる必要がある	13
8.自身の行動も必要	8
9.共生があたりまえになる必要がある	8
10.障害という表現の改善が必要	8
11.労働環境など、社会的居場所が必要	6
12.相談窓口や支援者が必要	3
13.暮らしやすい街づくりが必要	2
14.無理・なくならない・難しい・今のまま	15
15.よくわからない	8
16.その他	19
合計	256

問37 あなたが差別を受けたときや虐待があったときは、市や相談支援事業者に相談などをすることができます。この制度があることで、あなたは安心して暮らすことができますか。(〇はひとつ)

全体では、差別を受けたときや虐待があったときに、市や相談支援事業者に相談などをすることで「安心できる」が21.9%、「少し安心できる」が29.1%、「安心できない」が6.1%、「わからない」が36.1%となっています。

なお、愛の手帳所持者では42.9%と半数以下となっていますが、他の障害種別では5割以上となっています。

また、「わからない」と回答した人が、高次脳機能障害の診断を受けている方では25.0%と障害種別の中では最も少なくなっていますが、他の障害種別ではいずれも30%以上となっており、愛の手帳所持者では48.1%と障害種別の中で最も多くなっています。



3-9 就労について

問38 あなたは平日の日中、主にどのように過ごしていますか。(〇はひとつ)

平日の日中の過ごし方について、身体障害者手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者、高次脳機能障害の診断を受けている方及び難病（特定疾患）の診断を受けている方では「就労や通所などはしていない」が最も多くなっており、それぞれ51.7%、33.8%、37.5%、39.2%となっています。

なお、愛の手帳所持者及び発達障害の診断を受けている方では「福祉的就労をしている」が最も多く、それぞれ27.3%、28.0%となっています。

(単位:%)

	一般就労をしている(正職員)	一般就労をしている(パート・アルバイト)	福祉的就労をしている	自宅で働いている(収入のある仕事)	福祉的就労以外の通所施設(日中活動の場)に通っている	学校・大学に通っている	職業訓練中	就職活動中	就労や通所などはしていない	その他	無回答
全体(n=676)	11.2	9.5	6.4	2.4	5.9	1.0	0.7	0.7	43.0	12.3	6.8
身体障害者手帳(n=420)	9.8	8.1	1.4	2.4	4.3	0.2	0.2	0.2	51.7	13.8	7.9
愛の手帳(n=77)	14.3	6.5	27.3	0.0	26.0	3.9	0.0	0.0	13.0	6.5	2.6
精神障害者保健福祉手帳(n=130)	6.9	11.5	15.4	2.3	6.9	0.8	3.1	3.1	33.8	11.5	4.6
発達障害の診断を受けている(n=25)	20.0	12.0	28.0	0.0	12.0	8.0	4.0	0.0	8.0	8.0	0.0
高次脳機能障害の診断を受けている(n=8)	0.0	12.5	0.0	0.0	12.5	0.0	12.5	0.0	37.5	12.5	12.5
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=79)	24.1	16.5	1.3	5.1	1.3	0.0	0.0	0.0	39.2	10.1	2.5

問39 問38で「働いている(1~4)」と回答した方にお聞きます。
 あなたが仕事をする上で困っていることは何ですか。(〇はいくつでも)

仕事をする上で困っていることについては、「特にない」を除くと、全体では、「給与・工賃などが少ない」が25.6%と最も多くなっており、次いで、「身体的な負担が大きい」と「精神的な負担が大きい」がともに20.6%となっています。

障害種別ごとに見ると、身体障害者手帳所持者及び愛の手帳所持者では「給与・工賃などが少ない」がそれぞれ23.1%、37.8%と最も多くなっており、精神障害者保健福祉手帳所持者では「精神的な負担が大きい」が38.3%、発達障害の診断を受けている方及び難病(特定疾患)の診断を受けている方では「身体的な負担が大きい」がそれぞれ33.3%、27.0%と最も多くなっています。

(単位:%)

	身体的な負担が大きい	精神的な負担が大きい	仕事は自分には合わない	職場の障害理解が不十分	職場の人間関係	職場の設備が障害に対応していない
全体(n=199)	20.6	20.6	5.5	5.5	12.6	7.5
身体障害者手帳(n=91)	20.9	15.4	5.5	3.3	11.0	11.0
愛の手帳(n=37)	5.4	8.1	5.4	2.7	10.8	0.0
精神障害者保健福祉手帳(n=47)	29.8	38.3	8.5	10.6	17.0	8.5
発達障害の診断を受けている(n=15)	33.3	26.7	0.0	6.7	26.7	0.0
高次脳機能障害の診断を受けている(n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=37)	27.0	24.3	8.1	8.1	16.2	8.1

(単位:%)

	職場の情報保障(手話・点字など)が不十分	給与・工賃などが少ない	特にな	その他	無回答
全体(n=199)	2.5	25.6	46.2	4.0	3.0
身体障害者手帳(n=91)	3.3	23.1	46.2	3.3	3.3
愛の手帳(n=37)	2.7	37.8	48.6	2.7	0.0
精神障害者保健福祉手帳(n=47)	4.3	31.9	29.8	8.5	4.3
発達障害の診断を受けている(n=15)	0.0	26.7	33.3	13.3	6.7
高次脳機能障害の診断を受けている(n=1)	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=37)	2.7	18.9	51.4	2.7	2.7

問40 問38で「9 就労や通所などはしていない」と回答した方にお聞きします。
 あなたが働いていない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

働いていない理由について、身体障害者手帳所持者では「高齢のため」が59.9%と最も多くなっており、愛の手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者、高次脳機能障害の診断を受けている方及び難病(特定疾患)の診断を受けている方では「障害や病気のため」が最も多く、いずれも50%以上となっています。

また、発達障害の診断を受けている方では「働く自信がないから」が100.0%となっています。

(単位:%)

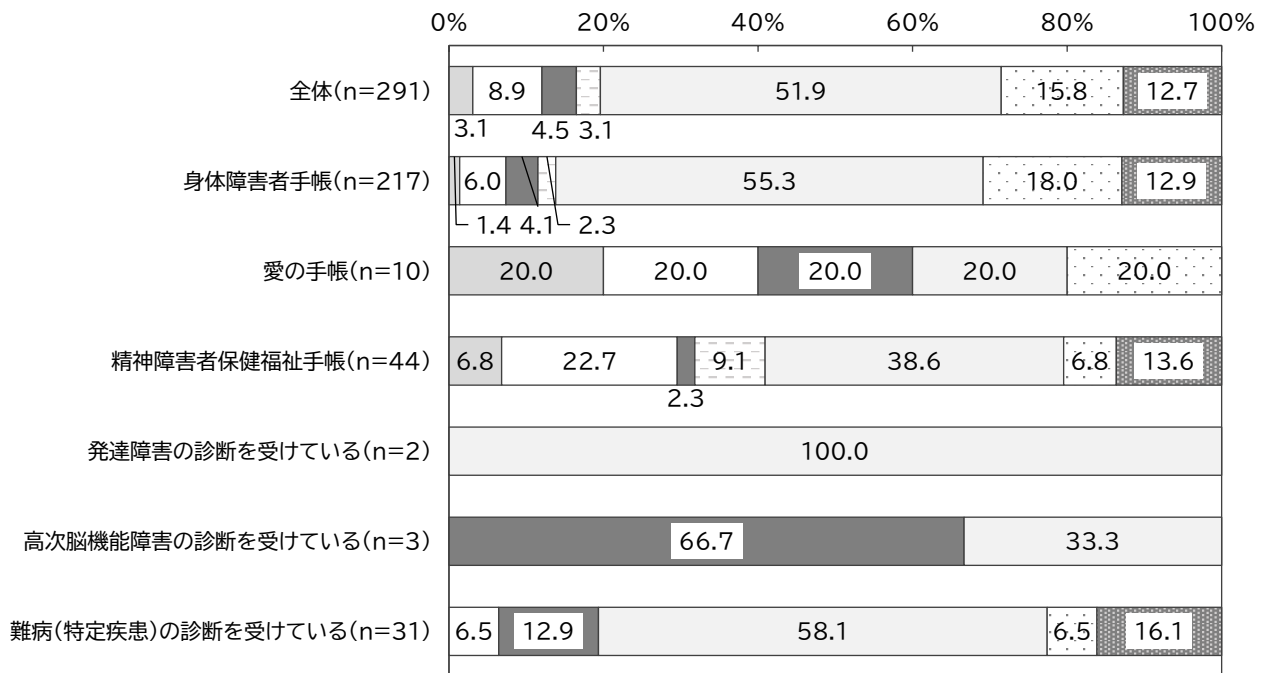
	障害や病気の状態のため	高齢のため	働く自信がないから	自分に合った仕事が見つからないから	希望に合った求人が見つからないから	通勤・通所が困難だから
全体(n=291)	43.0	51.5	12.4	5.5	5.5	8.9
身体障害者手帳(n=217)	40.1	59.9	9.2	3.2	4.1	9.2
愛の手帳(n=10)	50.0	0.0	0.0	10.0	10.0	20.0
精神障害者保健福祉手帳(n=44)	61.4	13.6	29.5	15.9	6.8	9.1
発達障害の診断を受けている(n=2)	0.0	0.0	100.0	50.0	0.0	0.0
高次脳機能障害の診断を受けている(n=3)	100.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=31)	64.5	41.9	16.1	0.0	3.2	19.4

(単位:%)

	利用できる日中活動の場がないから	のんびり過ごしたいから	働く必要がないから	特に理由はない	その他	無回答
全体(n=291)	4.8	11.3	14.4	7.2	5.2	3.4
身体障害者手帳(n=217)	4.6	12.0	15.2	8.3	4.1	3.2
愛の手帳(n=10)	30.0	0.0	0.0	10.0	30.0	0.0
精神障害者保健福祉手帳(n=44)	2.3	9.1	9.1	2.3	9.1	6.8
発達障害の診断を受けている(n=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害の診断を受けている(n=3)	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=31)	6.5	16.1	12.9	6.5	6.5	3.2

問41 問38で「9 就労や通所などはしていない」と回答した方にお聞きします。
 あなたは今後の就労について主にどのように考えますか。(〇はひとつ)

今後の就労についての考えは、「無回答」、「その他」を除くと、全体では、「働きたいと思わない」が51.9%と最も多く、次いで、「一般就労をしたい(パート・アルバイト)」が8.9%となっています。障害種別ごとに見ると、高次脳機能障害の診断を受けている方では、「自宅で働きたい」が66.7%で最も多くなっており、愛の手帳所持者では、「一般就労をしたい(正職員)」、「一般就労をしたい(パート・アルバイト)」、「自宅で働きたい」、「働きたいと思わない」がいずれも20.0%となっていますが、他の障害種別では、いずれも「働きたいと思わない」が最も多くなっており、特に、身体障害者手帳所持者では55.3%、発達障害の診断を受けている方では100.0%、難病(特定疾患)の診断を受けている方では58.1%となっています。



- 一般就労をしたい(正職員)
- 一般就労をしたい(パート・アルバイト)
- 自宅で働きたい
- 福祉的就労をしたい
- 働きたいと思わない
- その他
- 無回答

問42 障害者が一般就労するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

障害者が一般就労するために必要なことについて、身体障害者手帳所持者及び愛の手帳所持者では「障害特性に合った職業・雇用の拡大」がそれぞれ36.7%、54.5%と最も多く、精神障害者保健福祉手帳所持者では「職場での良好な人間関係」が50.0%、発達障害の診断を受けている方では「職場の障害理解の促進」が84.0%、高次脳機能障害の診断を受けている方では「働く能力を身につけるための職業訓練」が62.5%となっています。

また、難病(特定疾患)の診断を受けている方では「障害に対応した柔軟な勤務形態」が51.9%と最も多くなっています。

(単位:%)

	就労のための総合的な相談支援	働く能力を身につけるための職業訓練	職場を理解するための就労体験	障害特性に合った職業・雇用の拡大	障害者向けの求人情報の提供	企業の障害者雇用への理解促進	職場の障害理解の促進	職場環境のバリアフリー化
全体(n=676)	38.6	28.4	20.7	40.2	30.2	35.7	34.6	21.3
身体障害者手帳(n=420)	35.2	27.1	15.5	36.7	26.7	31.9	28.8	23.6
愛の手帳(n=77)	45.5	32.5	36.4	54.5	35.1	45.5	51.9	24.7
精神障害者保健福祉手帳(n=130)	47.7	31.5	31.5	47.7	38.5	44.6	48.5	16.9
発達障害の診断を受けている(n=25)	52.0	36.0	36.0	76.0	40.0	64.0	84.0	24.0
高次脳機能障害の診断を受けている(n=8)	37.5	62.5	37.5	25.0	25.0	50.0	37.5	25.0
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=79)	36.7	25.3	17.7	41.8	27.8	35.4	40.5	22.8

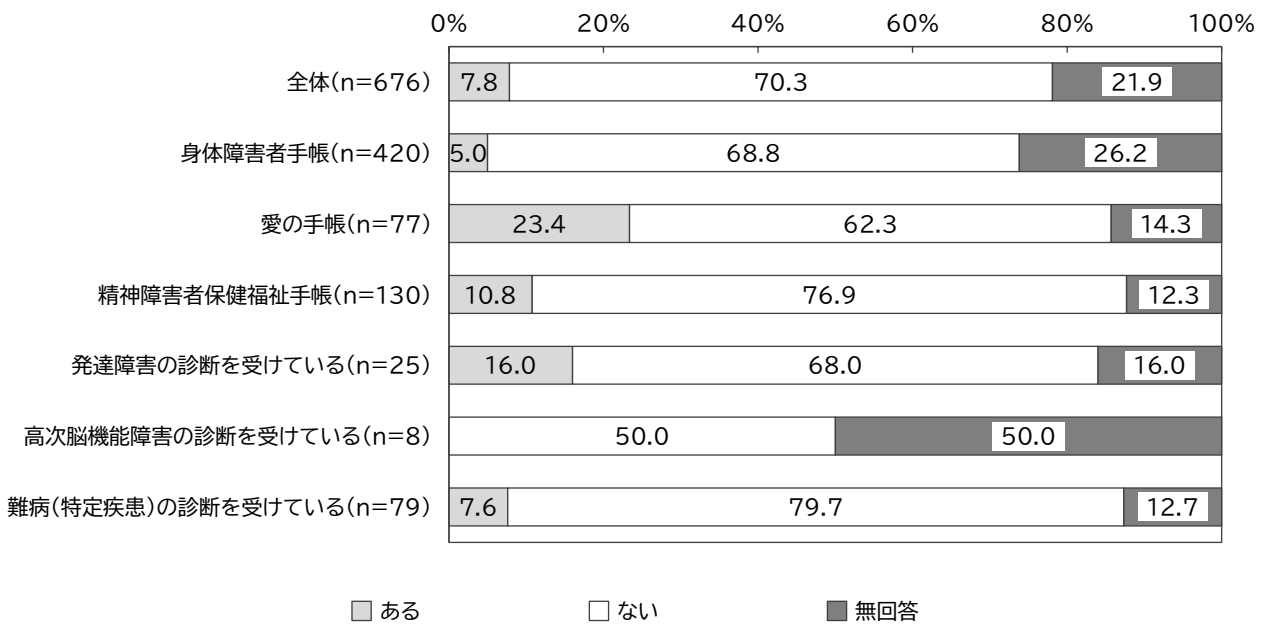
(単位:%)

	障害に対応した柔軟な勤務形態	職場に定着するための支援(ジョブコーチなど)	通勤手段や通勤支援の確保	職場での良好な人間関係	働く時間以外の楽しみ	特にない	その他	無回答
全体(n=676)	39.8	18.6	24.0	32.2	18.6	12.9	3.7	13.9
身体障害者手帳(n=420)	35.0	12.1	24.3	26.4	14.8	16.9	2.1	14.8
愛の手帳(n=77)	44.2	33.8	24.7	41.6	24.7	6.5	7.8	14.3
精神障害者保健福祉手帳(n=130)	49.2	36.2	25.4	50.0	28.5	9.2	6.9	4.6
発達障害の診断を受けている(n=25)	68.0	56.0	36.0	68.0	28.0	0.0	16.0	4.0
高次脳機能障害の診断を受けている(n=8)	50.0	37.5	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	12.5
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=79)	51.9	13.9	22.8	30.4	16.5	10.1	1.3	13.9

3-10 切れ目ない支援について

問43 八王子市では、乳幼児期から就学、進学、就労などライフステージの節目で困ることのないよう、子どもの成長や発達を記録・保存する「マイ・ファイル」を作成し、活用していきます。ライフステージの節目において、情報が引き継がれないことで困ったことはありますか。(〇はひとつ)

ライフステージの節目において、自身の情報が引き継がれないことで困ったことがあると回答した人は、全体では7.8%となっており、特に、愛の手帳所持者では23.4%と他の障害種別より多くなっています。



問44 問43で「ある」と回答した方にお聞きします。困ったのはいつですか。(〇はいくつでも)

情報が引き継がれないことで困った時期については、全体では「就労するとき」が50.9%と最も多くなっており、次いで、「保育園等から小学校へ入学するとき」が28.3%となっています。

なお、難病(特定疾患)の診断を受けている方では、「保育園等に入園するとき」が「就労するとき」と同じ割合で最も多くなっています。

(単位:%)

	保育園等に入園するとき	保育園等から小学校へ入学するとき	小学校から中学校へ進学するとき	中学校から高等学校へ進学するとき	高等学校から大学等へ進学するとき	就労するとき	無回答
全体(n=53)	26.4	28.3	22.6	13.2	11.3	50.9	7.5
身体障害者手帳(n=21)	28.6	19.0	23.8	23.8	9.5	38.1	19.0
愛の手帳(n=18)	44.4	50.0	22.2	11.1	0.0	55.6	0.0
精神障害者保健福祉手帳(n=14)	7.1	21.4	28.6	7.1	28.6	57.1	0.0
発達障害の診断を受けている(n=4)	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0	50.0	0.0
高次脳機能障害の診断を受けている(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=6)	50.0	33.3	16.7	16.7	0.0	50.0	0.0

3-11 施策し さ くについて

問45 あなたは今後、行政こ ん ご ぎ ょう せいにどのような施策し さ く ち ら ち らに力いを入れてほしいと思おもいますか。(〇はいくつでも)

今後行政こ ん ご ぎ ょう せいに力ち ら ち らを入れてほしい施策し さ くについて、障害し ゃ う がいの種別し ゅ べ つに関わらず「年金や手当など経済的支援か か ね ん き ん て あ て け い ざ い て き し え んの充実じ ゅ う じ つ」が最も多も っ とくなっており、いずれも50%以上い じ ゃ うとなっています。

次いで多い回答お っ かい とうは、愛の手帳所持者あ い て ち ょ う し ゃ じ し ゃ、精神障害者保健福祉手帳所持者せ い し ん し ゃ う がい し ゃ ほ け ん ふ く し て ち ょ う し ゃ じ し ゃ お よ及び発達障害は つ た つ し ゃ う がいの診断し ん だ んを受けている方うでは「障害し ゃ う がいに対する理解り かいの促進そ く し ん」でそれぞれ54.5%、54.6%、68.0%となっており、身体障害者手帳所持者て ち ょ う し ゃ じ し ゃ お よ及び難病なん び ゃ う（特定疾患と く て い し つ かん）の診断し ん だ んを受けている方うでは「保健・医療ほ けん い り ゃ うの充実じ ゅ う じ つ」でそれぞれ37.9%、50.6%となっています。

また、高次脳機能障害こう じ の う き の う し ゃ う がいの診断し ん だ んを受けている方うでは「障害し ゃ う がいに対する理解り かいの促進そ く し ん」と「保健・医療ほ けん い り ゃ うの充実じ ゅ う じ つ」がともに37.5%となっています。

(単位:%)

	障害に対する理解の促進	保健・医療の充実	教育・育成の充実	雇用・就労支援の充実	相談支援体制の充実	訪問系サービスの充実	日中活動系サービスの充実
全体(n=676)	41.4	39.5	14.5	25.3	25.9	15.2	10.8
身体障害者手帳(n=420)	37.6	37.9	12.4	20.0	23.3	17.6	7.4
愛の手帳(n=77)	54.5	36.4	14.3	28.6	36.4	13.0	28.6
精神障害者保健福祉手帳(n=130)	54.6	39.2	20.0	36.2	32.3	13.8	17.7
発達障害の診断を受けている(n=25)	68.0	44.0	28.0	52.0	44.0	12.0	28.0
高次脳機能障害の診断を受けている(n=8)	37.5	37.5	0.0	12.5	25.0	12.5	12.5
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=79)	36.7	50.6	11.4	25.3	24.1	12.7	6.3

(単位:%)

	移動支援の充実(通勤・通学を含む)	短期入所の充実	緊急一時保護の充実	コミュニケーション支援の充実 や情報保障の確保	福祉機器・補装具などの充実	グループホームの整備	入所施設の充実
全体(n=676)	16.9	10.7	14.1	10.9	15.1	12.7	20.0
身体障害者手帳(n=420)	16.2	10.7	12.4	7.9	20.5	8.6	21.0
愛の手帳(n=77)	35.1	33.8	36.4	23.4	9.1	49.4	49.4
精神障害者保健福祉手帳(n=130)	13.1	8.5	15.4	14.6	7.7	12.3	11.5
発達障害の診断を受けている(n=25)	24.0	20.0	28.0	36.0	4.0	24.0	24.0
高次脳機能障害の診断を受けている(n=8)	12.5	37.5	12.5	0.0	37.5	12.5	37.5
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=79)	16.5	5.1	10.1	5.1	15.2	2.5	17.7

(単位:%)

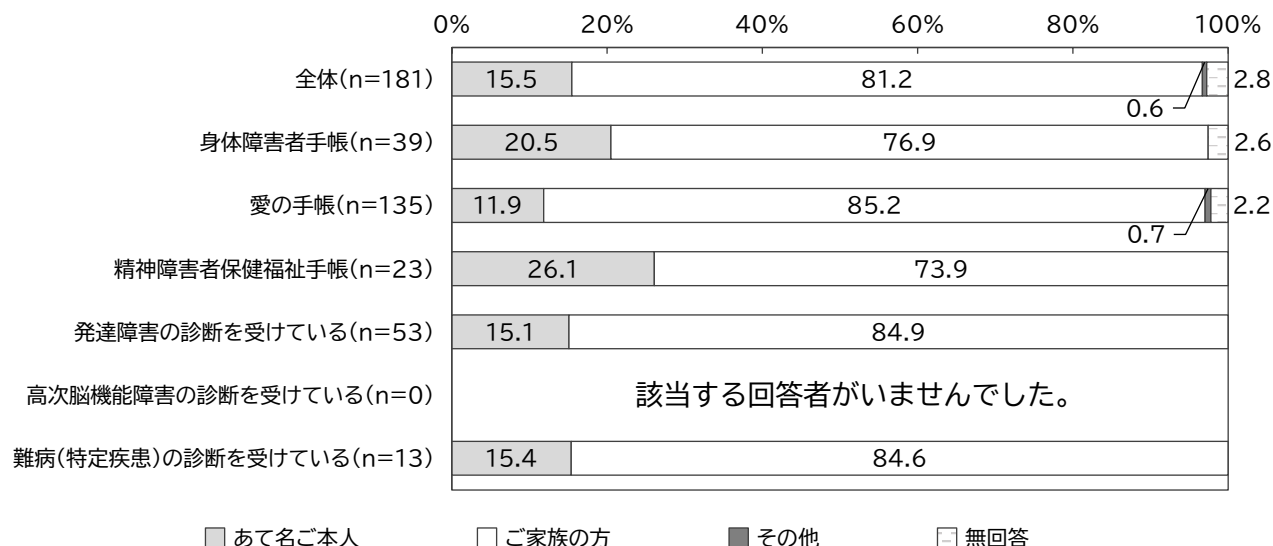
	障害者向けの住まいの確保	建物・道路などのバリアフリー化	趣味やスポーツ・レクリエーション活動の充実	年金や手当などの経済的支援の充実	特になし	その他	無回答
全体(n=676)	19.7	19.5	10.9	56.5	7.1	3.0	8.1
身体障害者手帳(n=420)	17.1	23.8	9.5	55.7	7.4	2.6	9.5
愛の手帳(n=77)	32.5	14.3	20.8	53.2	6.5	1.3	1.3
精神障害者保健福祉手帳(n=130)	27.7	11.5	13.8	65.4	7.7	5.4	4.6
発達障害の診断を受けている(n=25)	64.0	12.0	24.0	80.0	4.0	8.0	0.0
高次脳機能障害の診断を受けている(n=8)	12.5	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	12.5
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=79)	8.9	21.5	6.3	51.9	6.3	2.5	7.6

4 調査結果 (18歳未満とその保護者)

4-1 本人について

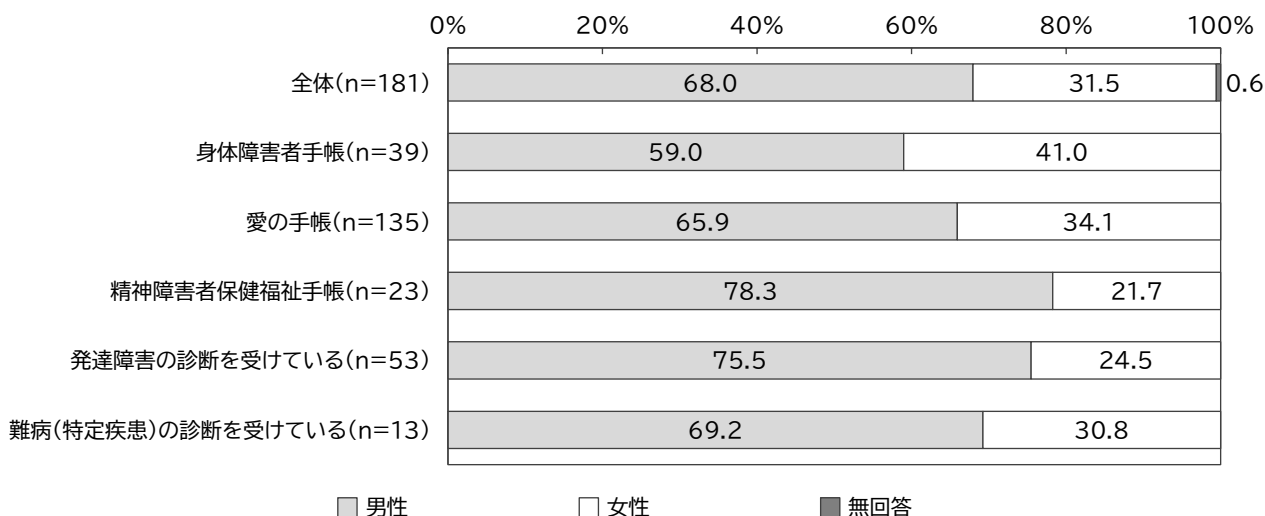
問1 この調査票にご回答いただくのはどなたですか。(〇はひとつ)

調査票の回答者は、全体では「あて名ご本人」が15.5%、「ご家族の方」が81.2%となっています。身体障害者手帳所持者及び精神障害者保健福祉手帳所持者では、「ご家族の方」がそれぞれ76.9%、73.9%となっていますが、他の障害種別では、「ご家族の方」が80%以上となっています。



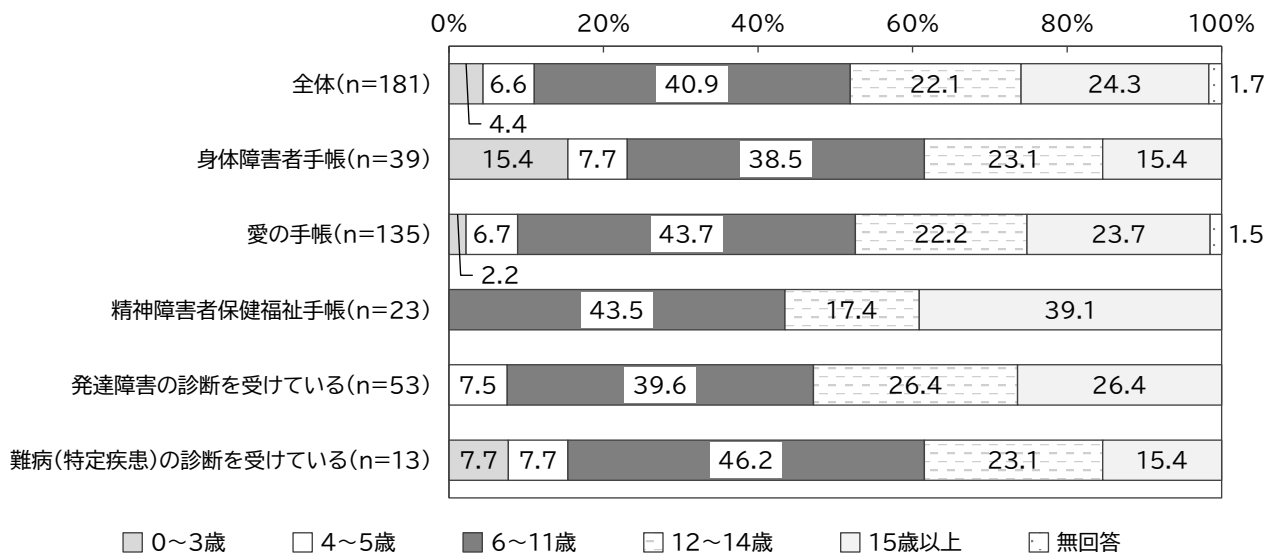
問2 あなたの性別をお聞きます。(〇はひとつ)

回答者の性別は、全体では「男性」が68.0%、「女性」が31.5%となっています。「男性」は、障害種別に関わらず過半数を占めており、精神障害者保健福祉手帳所持者では78.3%、発達障害の診断を受けている方では75.5%と他の障害種別と比べて多くなっています。一方で、「女性」は、身体障害者手帳所持者で41.0%と、他の障害種別と比べて多くなっています。



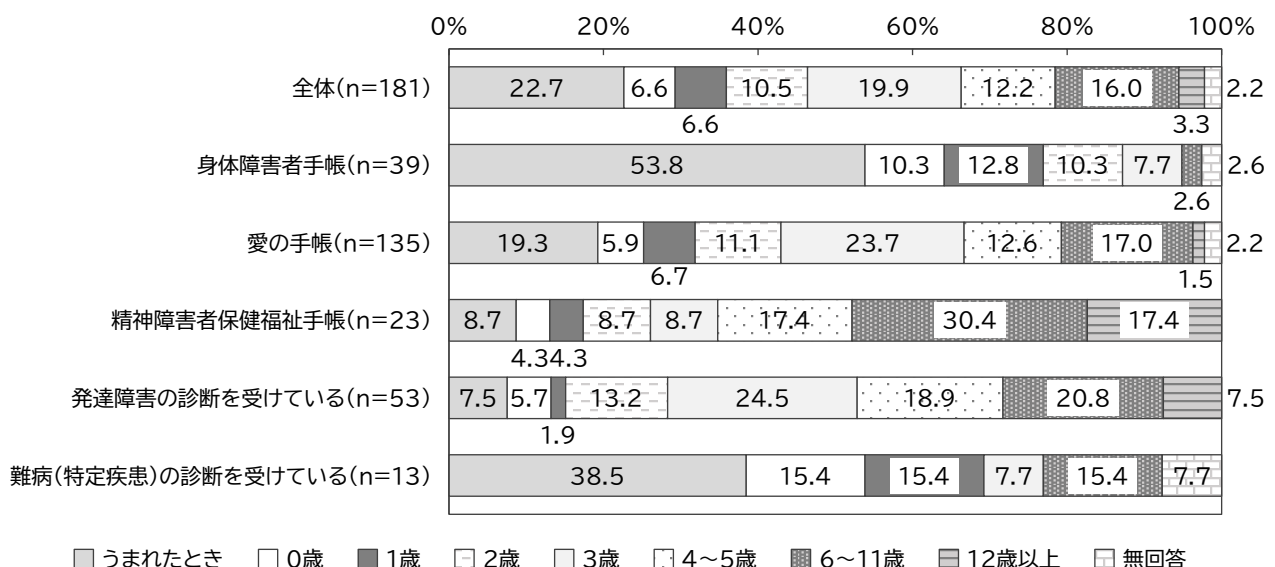
問3 あなたの年齢をお聞きます。令和5年（2023年）1月1日現在の満年齢でお答えください。
 (〇はひとつ)

回答者の年齢は、全体では「0～3歳」が4.4%、「4～5歳」が6.6%、「6～11歳」が40.9%、「12～14歳」が22.1%、「15歳以上」が24.3%となっています。
 なお、全ての障害種別では「6～11歳」が最も多く、30%以上となっています。次いで多い回答は、身体障害者手帳所持者及び難病（特定疾患）の診断を受けている方では「12～14歳」となっており、愛の手帳所持者及び発達障害の診断を受けている方では「12～14歳」と「15歳以上」がそれぞれ26.4%となっています。



問4 あなたが障害（難病（特定疾患）を含みます）を受けたのは、満何歳のころですか。(〇はひとつ)

障害を受けた時期は、身体障害者手帳所持者及び難病（特定疾患）の方では「うまれたとき」が、それぞれ53.8%、38.5%と最も多く、精神障害者保健福祉手帳所持者では「6～11歳」が30.4%と最も多く、愛の手帳所持者及び発達障害の診断を受けている方では「3歳」が、それぞれ23.7%、24.5%と最も多くなっています。



問5 あなたが持っている手帳をお聞きします。手帳をお持ちの方は、カッコ内の等級・程度にも○をつけてください。また、発達障害等の診断を受けているかどうかもお答えください。(○はいくつでも)

回答者の障害種別は、全体では「身体障害者手帳」が21.5%「愛の手帳」が74.6%、「精神障害者保健福祉手帳」が12.7%、「発達障害の診断を受けている」が29.3%、「難病(特定疾患)の診断を受けている」が7.2%、「高次脳機能障害の診断を受けている」と「手帳は持っていない」がともに0.0%となっています。

他の手帳の所持や診断の有無については、身体障害者手帳所持者では「愛の手帳」が46.2%、「難病(特定疾患)の診断を受けている」が17.9%となっており、愛の手帳所持者では「発達障害の診断を受けている」が28.9%、「身体障害者手帳」が13.3%、「精神障害者保健福祉手帳所持者では「発達障害の診断を受けている」が60.9%、「難病(特定疾患)の診断を受けている」が8.7%となっています。

また、発達障害の診断を受けている方では「愛の手帳」が73.6%、「精神障害者保健福祉手帳」が26.4%となっており、難病(特定疾患)の診断を受けている方では「愛の手帳」が69.2%、「身体障害者手帳」が53.8%となっています。

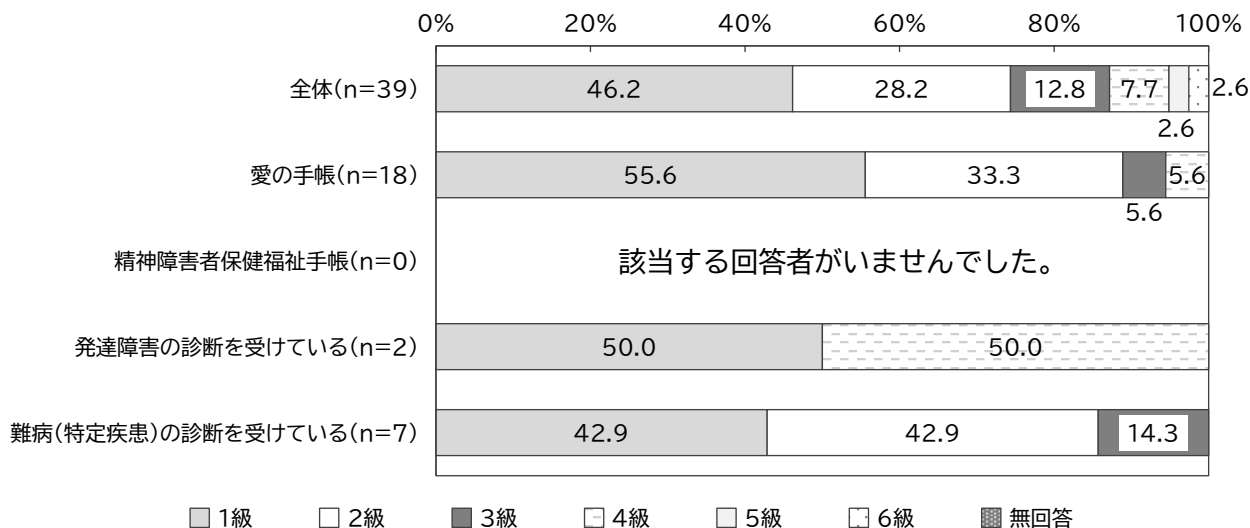
(単位:%)

	身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	発達障害の診断を受けている	高次脳機能障害の診断を受けている	難病(特定疾患)の診断を受けている	手帳は持っていない	無回答
全体(n=181)	21.5	74.6	12.7	29.3	0.0	7.2	0.0	1.1
身体障害者手帳(n=39)	100.0	46.2	0.0	5.1	0.0	17.9	0.0	0.0
愛の手帳(n=135)	13.3	100.0	0.7	28.9	0.0	6.7	0.0	0.0
精神障害者保健福祉手帳(n=23)	0.0	4.3	100.0	60.9	0.0	8.7	0.0	0.0
発達障害の診断を受けている(n=53)	3.8	73.6	26.4	100.0	0.0	1.9	0.0	0.0
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=13)	53.8	69.2	15.4	7.7	0.0	100.0	0.0	0.0

① 身体障害者手帳の等級

身体障害者手帳所持者の等級は、「1級」が46.2%と最も多く、次いで、「2級」が28.2%、「3級」が12.8%となっています。

このうち、発達障害の診断を受けている方では「1級」と「4級」がそれぞれ50.0%となっており、難病（特定疾患）の診断を受けている方では「1級」と「2級」がそれぞれ42.9%となっています。

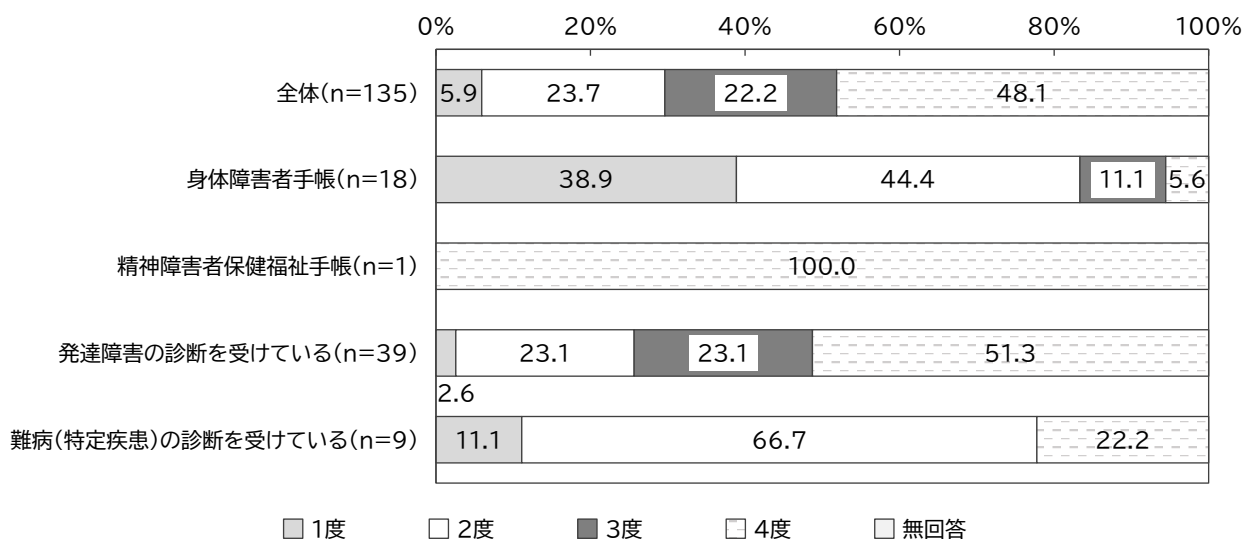


② 愛の手帳の程度

愛の手帳所持者の程度は、「4度」が48.1%と最も多く、次いで、「2度」が23.7%、「3度」が22.2%となっています。

このうち、身体障害者手帳所持者では「2度」が44.4%と最も多くなっており、次いで、「1度」が38.9%となっています。

また、発達障害の診断を受けている方では「4度」が51.3%で最も多く、難病（特定疾患）を受けている方では「2度」が66.7%で最も多くなっています。

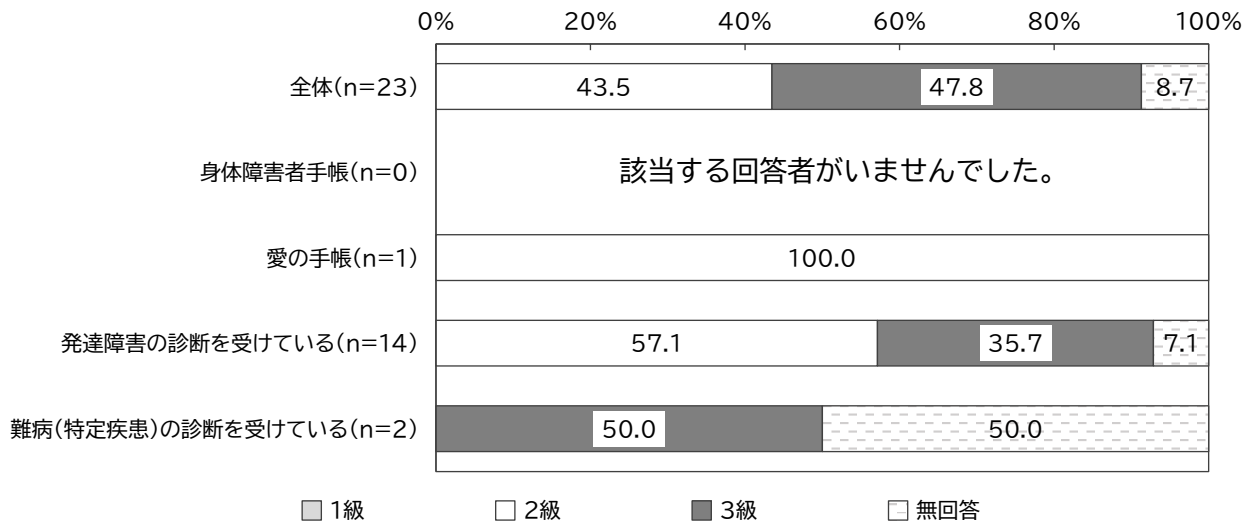


③精神障害者保健福祉手帳の等級

精神障害者保健福祉手帳の等級は、「3級」が47.8%と最も多く、次いで、「2級」が43.5%となっています。

このうち、発達障害の診断を受けている方では、「2級」が57.1%と最も多く、回答者が1人の愛の手帳所持者でも「2級」が100.0%と多くなっています。

また、難病（特定疾患）の診断を受けている方では「3級」が50.0%となっています。



問6 身体障害者手帳をお持ちの方にお聞きします。障害の種類は何ですか。(〇はいくつでも)

身体障害者手帳所持者の障害の種類は、「肢体不自由」が66.7%と最も多く、次いで、「聴覚・平衡機能障害」が20.5%となっています。

また、愛の手帳所持者及び発達障害の診断を受けている方では「肢体不自由」がともに100.0%となっており、難病（特定疾患）を受けている方では「内部障害」が28.6%となっています。

(単位:%)

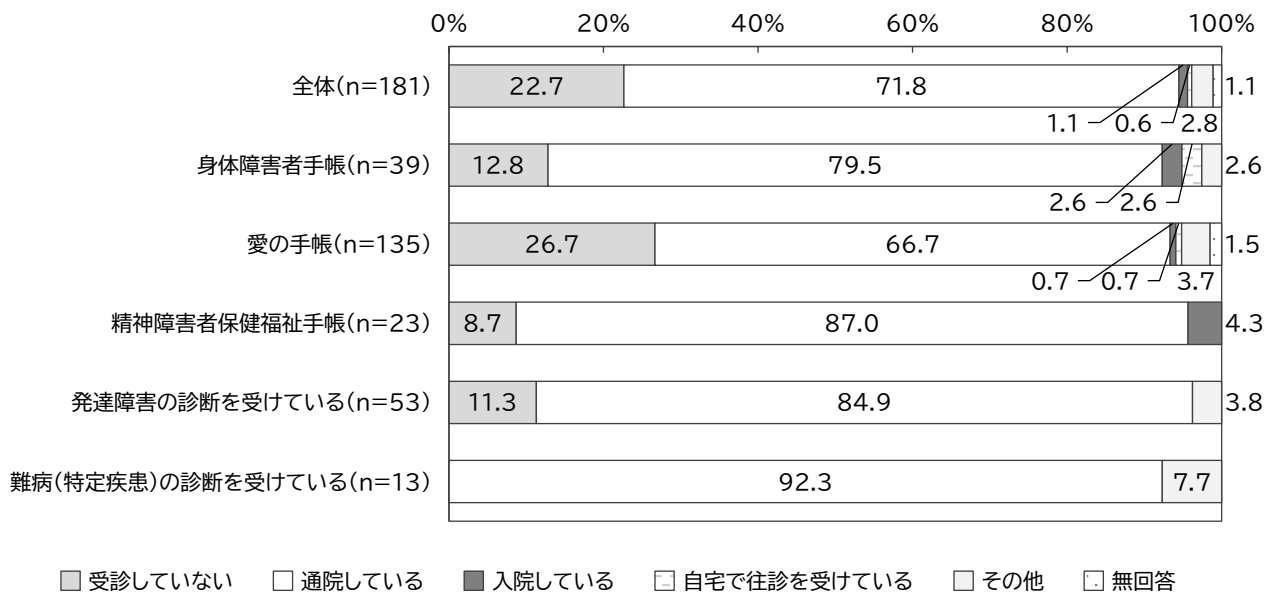
	視覚障害	聴覚・平衡機能障害	音声・言語・そしゃく機能障害	肢体不自由	内部障害	無回答
全体(n=39)	5.1	20.5	2.6	66.7	17.9	0.0
身体障害者手帳(n=39)	5.1	20.5	2.6	66.7	17.9	0.0
愛の手帳(n=18)	5.6	11.1	5.6	100.0	5.6	0.0
精神障害者保健福祉手帳(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発達障害の診断を受けている(n=2)	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=7)	14.3	14.3	14.3	85.7	28.6	0.0

4-2 医療について

問7 あなたは現在、障害に関することで医療機関を受診していますか。(〇はひとつ)

現在、医師の治療を受けている人(「通院している」、「入院している」、「自宅で往診を受けている」の合計)は、身体障害者手帳所持者で84.7%、愛の手帳所持者で68.1%、精神障害者保健福祉手帳所持者で91.3%、発達障害の診断を受けている方で84.9%、難病(特定疾患)の診断を受けている方で92.3%となっています。

また、愛の手帳所持者では「受診していない」が26.7%となっており、他の障害種別と比較して割合が高くなっています。



問8 あなたには、医療に関して困っていることがありますか。(○はいくつでも)

医療に関して困っていることについては、「特にない」を除くと、全体では、「医療機関が家の近くがない」が26.5%と最も多く、次いで、「気軽に相談できる場がない」が18.8%となっています。

障害種別ごとに見ると、難病（特定疾患）の診断を受けている方では「障害についての専門の医療機関がない」が38.5%と最も多くなっていますが、他の障害種別では「医療機関が家の近くがない」が最も多くなっており、愛の手帳所持者で23.0%となっている以外は、いずれも30%以上となっています。

(単位:%)

	医療機関が家の近くがない	障害についての専門の医療機関がない	休日や夜間に対応してくれる医療機関がない	通院のための介助者が確保しにくい	通院のための交通機関が整備されていない	医療機関がバリアフリー化されていない	気軽に相談できる場がない
全体(n=181)	26.5	15.5	7.7	7.2	6.1	3.3	18.8
身体障害者手帳(n=39)	38.5	12.8	12.8	17.9	17.9	10.3	15.4
愛の手帳(n=135)	23.0	16.3	8.1	5.2	3.7	3.7	20.7
精神障害者保健福祉手帳(n=23)	34.8	13.0	4.3	13.0	8.7	0.0	17.4
発達障害の診断を受けている(n=53)	30.2	7.5	7.5	1.9	0.0	3.8	22.6
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=13)	30.8	38.5	7.7	23.1	7.7	23.1	23.1

(単位:%)

	治療の説明が十分理解できない	医療費の負担が大きい	障害が理由で医療拒否されたことがある	特にない	その他	無回答
全体(n=181)	5.5	2.8	6.1	42.0	10.5	1.7
身体障害者手帳(n=39)	5.1	5.1	5.1	35.9	12.8	0.0
愛の手帳(n=135)	6.7	2.2	7.4	40.7	12.6	1.5
精神障害者保健福祉手帳(n=23)	4.3	4.3	4.3	43.5	4.3	4.3
発達障害の診断を受けている(n=53)	5.7	1.9	5.7	39.6	11.3	1.9
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=13)	7.7	7.7	23.1	23.1	15.4	0.0

【前回調査との比較】 あなたには、医療に関して困っていることがありますか。(〇はいくつでも)

前回(令和2年2月)の調査結果と比較すると、全体では「気軽に相談できる場がない」が15.9%から18.8%と2.9ポイント増加し、「障害についての専門の医療機関がない」が12.9%から15.5%と2.6ポイント増加しています。

特に、「気軽に相談できる場がない」では、難病(特定疾患)の診断を受けている方で8.8ポイント、愛の手帳所持者で5.1ポイント増加し、「障害についての専門の医療機関がない」では、難病(特定疾患)の診断を受けている方で24.2ポイント、精神障害者保健福祉手帳所持者で6.7ポイント増加しています。

(単位:%)

		医療機関が家の近くにない	障害についての専門の医療機関がない	休日や夜間に対応してくれる医療機関がない	通院のための介助者が確保しにくい	通院のための交通機関が整備されていない	医療機関がバリアフリー化されていない	気軽に相談できる場がない
全体	今回(n=181)	26.5	15.5	7.7	7.2	6.1	3.3	18.8
	前回(n=232)	29.3	12.9	9.1	9.9	9.5	2.2	15.9
	今回-前回	-2.8	2.6	-1.4	-2.7	-3.4	1.1	2.9
身体障害者手帳	今回(n=39)	38.5	12.8	12.8	17.9	17.9	10.3	15.4
	前回(n=86)	40.7	14.0	11.6	14.0	16.3	5.8	14.0
	今回-前回	-2.2	-1.2	1.2	3.9	1.6	4.5	1.4
愛の手帳	今回(n=135)	23.0	16.3	8.1	5.2	3.7	3.7	20.7
	前回(n=192)	25.5	12.0	9.4	10.4	9.4	2.1	15.6
	今回-前回	-2.5	4.3	-1.3	-5.2	-5.7	1.6	5.1
精神障害者保健福祉手帳	今回(n=23)	34.8	13.0	4.3	13.0	8.7	0.0	17.4
	前回(n=16)	37.5	6.3	0.0	6.3	0.0	0.0	25.0
	今回-前回	-2.7	6.7	4.3	6.7	8.7	0.0	-7.6
発達障害の診断を受けている	今回(n=53)	30.2	7.5	7.5	1.9	0.0	3.8	22.6
	前回(n=61)	23.0	6.6	1.6	6.6	3.3	0.0	21.3
	今回-前回	7.2	0.9	5.9	-4.7	-3.3	3.8	1.3
難病(特定疾患)の診断を受けている	今回(n=13)	30.8	38.5	7.7	23.1	7.7	23.1	23.1
	前回(n=14)	42.9	14.3	0.0	7.1	14.3	7.1	14.3
	今回-前回	-12.1	24.2	7.7	16.0	-6.6	16.0	8.8

(単位:%)

		治療の説明が十分理解できない	医療費の負担が大きい	障害が理由で医療拒否されたことがある	特にない	その他	無回答
全体	今回(n=181)	5.5	2.8	6.1	42.0	10.5	1.7
	前回(n=232)	4.7	10.8	9.9	33.6	9.5	3.9
	今回-前回	0.8	-8.0	-3.8	8.4	1.0	-2.2
身体障害者手帳	今回(n=39)	5.1	5.1	5.1	35.9	12.8	0.0
	前回(n=86)	4.7	10.5	9.3	27.9	9.3	2.3
	今回-前回	0.4	-5.4	-4.2	8.0	3.5	-2.3
愛の手帳	今回(n=135)	6.7	2.2	7.4	40.7	12.6	1.5
	前回(n=192)	5.2	10.4	10.4	34.9	10.4	3.6
	今回-前回	1.5	-8.2	-3.0	5.8	2.2	-2.1
精神障害者保健福祉手帳	今回(n=23)	4.3	4.3	4.3	43.5	4.3	4.3
	前回(n=16)	0.0	25.0	6.3	25.0	12.5	0.0
	今回-前回	4.3	-20.7	-2.0	18.5	-8.2	4.3
発達障害の診断を受けている	今回(n=53)	5.7	1.9	5.7	39.6	11.3	1.9
	前回(n=61)	3.3	4.9	13.1	31.1	14.8	3.3
	今回-前回	2.4	-3.0	-7.4	8.5	-3.5	-1.4
難病(特定疾患)の診断を受けている	今回(n=13)	7.7	7.7	23.1	23.1	15.4	0.0
	前回(n=14)	7.1	7.1	0.0	28.6	14.3	0.0
	今回-前回	0.6	0.6	23.1	-5.5	1.1	0.0

4-3 家族・介助について

問9 あなたを介助しているのは、主にどなたですか。(〇はいくつでも)

主な介助者については、障害種別に関わらず「母親」が最も多くなっており、次いで、「介助は必要としていない」となっています。

また、難病(特定疾患)の診断を受けている方で「母親」が92.3%、精神障害者保健福祉手帳所持者で「介助は必要としていない」が34.8%と他の障害種別の割合と比較して高くなっています。

(単位:%)

	母親	父親	兄弟姉妹	その他親族	ホームヘルパー	施設などの職員	介助は必要としていない	その他	無回答
全体(n=181)	77.9	7.2	1.1	1.1	0.0	1.1	15.5	0.0	3.9
身体障害者手帳(n=39)	84.6	7.7	0.0	0.0	0.0	2.6	10.3	0.0	0.0
愛の手帳(n=135)	81.5	7.4	1.5	1.5	0.0	1.5	10.4	0.0	5.2
精神障害者保健福祉手帳(n=23)	65.2	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	34.8	0.0	0.0
発達障害の診断を受けている(n=53)	73.6	9.4	1.9	3.8	0.0	0.0	20.8	0.0	3.8
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=13)	92.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0

問10 問9で「家族などが介助している(1~4)」と回答した方にお聞きします。介助者の方は、どのようなことで困っていますか。(〇はいくつでも)

介助者が困っていることについては、全体では「将来の見通しに不安がある」が79.2%と最も多くなっており、次いで、「緊急時の対応に不安がある」が50.7%、「精神的な負担が大きい」が48.6%となっています。

障害種別ごとに見ると、身体障害者手帳所持者では「緊急時の対応に不安がある」と「将来の見通しに不安がある」がともに61.8%と最も多くなっており、愛の手帳所持者及び精神障害者保健福祉手帳所持者、発達障害の診断を受けている方、難病(特定疾患)の診断を受けている方でも「将来の見通しに不安がある」が最も多くなっており、いずれも80%以上となっています。

(単位:%)

	介助者自身の健康に不安がある	身体的な負担が大きい	精神的な負担が大きい	経済的な負担が大きい	かわりの介助を頼める人がいない	緊急時の対応に不安がある	長期の旅行や外出ができない	将来の見通しに不安がある	特になし	その他	無回答
全体(n=144)	20.1	27.1	48.6	27.1	32.6	50.7	18.8	79.2	6.9	2.8	2.1
身体障害者手帳(n=34)	29.4	44.1	32.4	29.4	41.2	61.8	23.5	61.8	8.8	5.9	5.9
愛の手帳(n=112)	18.8	26.8	45.5	27.7	33.0	53.6	19.6	82.1	6.3	3.6	0.9
精神障害者保健福祉手帳(n=15)	20.0	13.3	86.7	20.0	26.7	33.3	20.0	93.3	0.0	0.0	0.0
発達障害の診断を受けている(n=40)	20.0	27.5	67.5	27.5	37.5	57.5	22.5	92.5	0.0	0.0	0.0
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=12)	25.0	50.0	50.0	16.7	50.0	58.3	25.0	83.3	0.0	8.3	8.3

問11 問9で「家族などが介助している（1～4）」と回答した方にお聞きします。
 主な介助者の方が何らかの理由で介助できない場合、どのようにしたいと思いますか。
 （〇はいくつでも）

主な介助者の介助ができない場合の対応として、身体障害者手帳所持者及び愛の手帳所持者、発達障害の診断を受けている方では、「同居の家族に介助してほしい」が最も多くなっており、それぞれ52.9%、59.8%、55.0%となっています。

また、精神障害者保健福祉手帳所持者では「ショートステイを利用したい」が40.0%と最も多く、難病（特定疾患）の診断を受けている方では「同居の家族に介助してほしい」、「ショートステイを利用したい」がともに41.7%と最も多くなっています。

（単位：%）

	同居の家族に介助してほしい	別居の親族に介助してほしい	ホームヘルパーを利用したい	ショートステイを利用したい	民間の有償介助サービスを利用したい	施設に入所したい	病院に入院したい	わからない	その他	無回答
全体(n=144)	56.9	13.2	21.5	32.6	8.3	15.3	5.6	16.7	0.7	4.2
身体障害者手帳(n=34)	52.9	8.8	29.4	35.3	8.8	5.9	14.7	11.8	0.0	5.9
愛の手帳(n=112)	59.8	13.4	18.8	32.1	8.0	17.0	3.6	16.1	0.9	4.5
精神障害者保健福祉手帳(n=15)	33.3	20.0	33.3	40.0	13.3	20.0	13.3	20.0	0.0	6.7
発達障害の診断を受けている(n=40)	55.0	7.5	20.0	42.5	7.5	25.0	2.5	22.5	0.0	0.0
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=12)	41.7	16.7	25.0	41.7	25.0	16.7	25.0	8.3	0.0	8.3

4-4 日常生活について

問12 あなたは普段、自由時間に何をして過ごしていますか。(〇はいくつでも)

自由時間の過ごし方については、精神障害者保健福祉手帳所持者では「趣味活動・遊び」が73.9%と最も多くなっていますが、身体障害者手帳所持者、愛の手帳所持者、発達障害の診断を受けている方及び難病（特定疾患）の診断を受けている方では「家族との団らん」が最も多くなっており、いずれも60.0%以上となっています。

次いで多い回答は、精神障害者保健福祉手帳所持者では「家族との団らん」が60.9%となっており、身体障害者手帳所持者、愛の手帳所持者、発達障害の診断を受けている方及び難病（特定疾患）の診断を受けている方では「趣味活動・遊び」がそれぞれ50.0%以上となっています。

(単位:%)

	家族との団らん	友人・知人との交流	趣味活動・遊び	スポーツ・運動・レクリエーション	買い物	地域の活動
全体(n=181)	69.6	24.3	65.2	15.5	19.9	2.2
身体障害者手帳(n=39)	82.1	30.8	59.0	12.8	15.4	0.0
愛の手帳(n=135)	68.9	20.0	62.2	15.6	20.0	3.0
精神障害者保健福祉手帳(n=23)	60.9	34.8	73.9	13.0	26.1	0.0
発達障害の診断を受けている(n=53)	69.8	22.6	67.9	11.3	20.8	1.9
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=13)	76.9	53.8	61.5	30.8	23.1	0.0

(単位:%)

	障害者団体などの活動	テレビ・ラジオ	特にない	その他	無回答
全体(n=181)	5.0	45.9	1.7	12.2	0.0
身体障害者手帳(n=39)	5.1	56.4	5.1	5.1	0.0
愛の手帳(n=135)	6.7	44.4	1.5	14.1	0.0
精神障害者保健福祉手帳(n=23)	0.0	47.8	4.3	13.0	0.0
発達障害の診断を受けている(n=53)	3.8	45.3	0.0	18.9	0.0
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=13)	7.7	61.5	7.7	0.0	0.0

問13 あなたには、日常生活で困っていることはありますか。(〇はいくつでも)

日常生活で困っていることについて、身体障害者手帳所持者では「身の回りのことが十分できない」が53.8%と最も多く、次いで、「将来に不安がある」が51.3%となっています。

愛の手帳所持者及び発達障害の診断を受けている方では「将来に不安がある」がそれぞれ62.2%、62.3%と最も多くなっており、次いで、「本人の成長や発達に不安がある」がそれぞれ52.6%、54.7%となっています。

精神障害者保健福祉手帳所持者では、「将来に不安がある」が56.5%と最も多くなっており、次いで、「本人の成長や発達に不安がある」、「教育・療育について困っている」がともに43.5%となっています。

難病(特定疾患)の診断を受けている方では、「身の回りのことが十分できない」が76.9%と最も多くなっており、次いで、「本人の成長や発達に不安がある」、「将来に不安がある」がともに53.8%となっています。

(単位:%)

	身の回りのことが十分でない	健康状態に不安がある	本人の成長や発達に不安がある	住まいについて困っている	外出について困っている	緊急時の対応に不安がある	教育・療育について困っている	余暇活動や遊ぶことが十分でない
全体(n=181)	43.1	12.2	47.5	8.3	20.4	39.8	24.3	13.3
身体障害者手帳(n=39)	53.8	10.3	41.0	20.5	25.6	48.7	20.5	12.8
愛の手帳(n=135)	49.6	9.6	52.6	8.1	23.7	44.4	21.5	15.6
精神障害者保健福祉手帳(n=23)	26.1	21.7	43.5	8.7	17.4	13.0	43.5	0.0
発達障害の診断を受けている(n=53)	43.4	9.4	54.7	5.7	24.5	30.2	30.2	9.4
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=13)	76.9	23.1	53.8	38.5	38.5	46.2	30.8	15.4

(単位:%)

	スポーツ・運動・レクリエーションが十分でない	経済的に不安がある	将来に不安がある	いどうしてよいかわからない	特にな	その他	無回答
全体(n=181)	19.9	26.0	58.0	29.8	12.7	2.8	0.6
身体障害者手帳(n=39)	28.2	23.1	51.3	12.8	12.8	2.6	2.6
愛の手帳(n=135)	20.7	26.7	62.2	31.9	11.9	3.0	0.0
精神障害者保健福祉手帳(n=23)	17.4	21.7	56.5	39.1	8.7	0.0	0.0
発達障害の診断を受けている(n=53)	18.9	24.5	62.3	39.6	5.7	1.9	0.0
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=13)	15.4	7.7	53.8	15.4	15.4	7.7	0.0

【前回調査との比較】 あなたには、日常生活で困っていることはありますか。(〇はいくつでも)

前回(令和2年2月)の調査結果と比較すると、全体では「どうしてよいかわからないことがある」が25.9%から29.8%と3.9ポイント増加し、「外出について困っている」が6.5%から8.3%と1.8ポイント増加しています。

特に、「どうしてよいかわからないことがある」では、発達障害の診断を受けている方で5.2ポイント、愛の手帳所持者で4.8ポイント増加し、「外出について困っている」では、難病(特定疾患)の診断を受けている方で24.2ポイント、精神障害者保健福祉手帳所持者で8.7ポイント増加しています。

(単位:%)

		身の回りのことが十分でない	健康状態に不安がある	住まいについて困っている	外出について困っている	緊急時の対応に不安がある	就労について困っている	利用できる日中活動の場がないので困っている
全体	全体(n=181)	43.1	12.2	47.5	8.3	20.4	39.8	24.3
	前回(n=232)	44	17.7	46.1	6.5	29.7	44.4	24.6
	今回-前回	-0.9	-5.5	1.4	1.8	-9.3	-4.6	-0.3
身体障害者手帳	今回(n=39)	53.8	10.3	41.0	20.5	25.6	48.7	20.5
	前回(n=86)	57	25.6	44.2	15.1	32.6	48.8	18.6
	今回-前回	-3.2	-15.3	-3.2	5.4	-7.0	-0.1	1.9
愛の手帳	今回(n=135)	49.6	9.6	52.6	8.1	23.7	44.4	21.5
	前回(n=192)	44.8	16.1	46.9	7.3	31.8	45.8	25
	今回-前回	4.8	-6.5	5.7	0.8	-8.1	-1.4	-3.5
精神障害者保健福祉手帳	今回(n=23)	26.1	21.7	43.5	8.7	17.4	13.0	43.5
	前回(n=16)	62.5	31.3	31.3	0	25	50	31.3
	今回-前回	-36.4	-9.6	12.2	8.7	-7.6	-37.0	12.2
発達障害の診断を受けている	今回(n=53)	43.4	9.4	54.7	5.7	24.5	30.2	30.2
	前回(n=61)	54.1	14.8	65.6	3.3	29.5	55.7	31.1
	今回-前回	-10.7	-5.4	-10.9	2.4	-5.0	-25.5	-0.9
難病(特定疾患)の診断を受けている	今回(n=13)	76.9	23.1	53.8	38.5	38.5	46.2	30.8
	前回(n=14)	57.1	21.4	64.3	14.3	35.7	57.1	28.6
	今回-前回	19.8	1.7	-10.5	24.2	2.8	-10.9	2.2

(単位:%)

		スポーツ・運動・レクリエーションが十分でない	経済的に不安がある	将来に不安がある	どうしてよいかわからないことがある	特にない	その他
全体	全体(n=181)	19.9	26.0	58.0	29.8	12.7	2.8
	前回(n=232)	24.6	24.6	64.2	25.9	4.3	4.7
	今回-前回	-4.7	1.4	-6.2	3.9	8.4	-1.9
身体障害者手帳	今回(n=39)	28.2	23.1	51.3	12.8	12.8	2.6
	前回(n=86)	32.6	25.6	59.3	19.8	3.5	4.7
	今回-前回	-4.4	-2.5	-8.0	-7.0	9.3	-2.1
愛の手帳	今回(n=135)	20.7	26.7	62.2	31.9	11.9	3.0
	前回(n=192)	20.3	25	64.6	27.1	4.7	4.2
	今回-前回	0.4	1.7	-2.4	4.8	7.2	-1.2
精神障害者保健福祉手帳	今回(n=23)	17.4	21.7	56.5	39.1	8.7	0.0
	前回(n=16)	16.2	50.7	59.5	41.9	7.4	0.0
	今回-前回	1.2	-29.0	-3.0	-2.8	1.3	0.0
発達障害の診断を受けている	今回(n=53)	18.9	24.5	62.3	39.6	5.7	1.9
	前回(n=61)	21.3	23	67.2	34.4	1.6	3.3
	今回-前回	-2.4	1.5	-4.9	5.2	4.1	-1.4
難病(特定疾患)の診断を受けている	今回(n=13)	15.4	7.7	53.8	15.4	15.4	7.7
	前回(n=14)	21.4	14.3	50	21.4	0	7.1
	今回-前回	-6.0	-6.6	3.8	-6.0	15.4	0.6

問14 あなたやご家族の方は、普段困ったときに誰に相談していますか。(〇はいくつでも)

困ったときの相談相手については、身体障害者手帳所持者では「医療関係者」が74.4%と最も多くなっており、それ以外の障害種別では「同居の家族」がいずれも70%以上で最も多くなっています。次いで多い回答は、身体障害者手帳所持者では「同居の家族」が64.1%となっており、愛の手帳所持者、発達障害の診断を受けている方及び難病(特定疾患)の診断を受けている方では「学校・幼稚園・保育所の教職員」がそれぞれ53.3%、66.0%、69.2%となっており、精神障害者保健福祉手帳所持者では「医療関係者」が60.9%となっています。

(単位:%)

	同居の家族	別居の家族・親族	友人・知人(障害者)	友人・知人(健常者)	近所の人	市のケースワーカー	ホームヘルパー	職員 学校・幼稚園・保育所の教	福祉施設の職員	医療関係者
全体(n=181)	74.0	28.2	12.7	23.2	0.6	0.6	1.1	49.2	22.1	45.3
身体障害者手帳(n=39)	64.1	15.4	10.3	15.4	2.6	0.0	2.6	41.0	15.4	74.4
愛の手帳(n=135)	75.6	31.1	15.6	22.2	0.7	0.7	0.7	53.3	24.4	39.3
精神障害者保健福祉手帳(n=23)	82.6	30.4	8.7	39.1	0.0	0.0	4.3	43.5	17.4	60.9
発達障害の診断を受けている(n=53)	73.6	24.5	11.3	26.4	0.0	0.0	1.9	66.0	20.8	56.6
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=13)	92.3	30.8	23.1	30.8	7.7	0.0	7.7	69.2	23.1	69.2

(単位:%)

	民生委員・児童委員	知的障害者相談員・ 身体障害者相談委員	相談支援事業所	保健所・保健センター	難病相談・支援センター	障害者団体・患者会	特にいない	その他	無回答
全体(n=181)	0.0	2.8	7.2	3.3	0.0	3.3	7.2	5.5	0.0
身体障害者手帳(n=39)	0.0	10.3	7.7	2.6	0.0	5.1	5.1	7.7	0.0
愛の手帳(n=135)	0.0	3.0	9.6	1.5	0.0	4.4	8.1	3.0	0.0
精神障害者保健福祉手帳(n=23)	0.0	0.0	0.0	13.0	0.0	0.0	4.3	17.4	0.0
発達障害の診断を受けている(n=53)	0.0	0.0	3.8	9.4	0.0	3.8	7.5	11.3	0.0
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=13)	0.0	15.4	7.7	7.7	0.0	7.7	0.0	7.7	0.0

問15 あなたは、福祉サービスなどの情報を主にどこから入手していますか。(〇はいくつでも)

福祉サービスに関する情報の入手先については、全体では「学校・幼稚園・保育所」が30.9%と最も多く、次いで、「医療機関」が28.2%となっています。

障害種別ごとにみると、身体障害者手帳所持者及び精神障害者保健福祉手帳所持者では「医療機関」がそれぞれ48.7%、43.5%と最も多くなっています。

また、愛の手帳所持者及び発達障害の診断を受けている方では「学校・幼稚園・保育所」がそれぞれ35.6%、32.1%と最も多くなっています。

難病(特定疾患)の診断を受けている方では「友人や知人」が46.2%と最も多くなっています。

(単位:%)

	広報「はちおうじ」	東京都広報	市のパンフレットなど	市のホームページ	その他のホームページ	テレビ・ラジオ	新聞・書籍	SNS(ツイッターやフェイスブックなど)	学校・幼稚園・保育所	市役所
全体(n=181)	27.6	3.9	7.7	20.4	8.8	3.9	3.3	19.9	30.9	18.8
身体障害者手帳(n=39)	28.2	5.1	10.3	15.4	15.4	7.7	7.7	23.1	28.2	28.2
愛の手帳(n=135)	25.9	4.4	8.1	21.5	5.9	3.0	2.2	17.8	35.6	18.5
精神障害者保健福祉手帳(n=23)	26.1	4.3	4.3	17.4	13.0	8.7	8.7	17.4	21.7	13.0
発達障害の診断を受けている(n=53)	24.5	1.9	7.5	22.6	11.3	3.8	3.8	24.5	32.1	22.6
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=13)	23.1	7.7	7.7	15.4	7.7	7.7	7.7	15.4	30.8	15.4

(単位:%)

	医療機関	福祉施設	相談支援事業所	保健所・保健センター	難病相談・支援センター	障害者団体・患者会	友人や知人	特にない	その他	無回答
全体(n=181)	28.2	9.9	7.2	4.4	0.6	4.4	22.7	13.3	4.4	0.6
身体障害者手帳(n=39)	48.7	2.6	10.3	10.3	0.0	7.7	23.1	2.6	5.1	0.0
愛の手帳(n=135)	22.2	11.9	9.6	0.7	0.0	4.4	25.9	13.3	5.2	0.7
精神障害者保健福祉手帳(n=23)	43.5	4.3	0.0	13.0	4.3	4.3	21.7	21.7	0.0	0.0
発達障害の診断を受けている(n=53)	24.5	3.8	5.7	5.7	1.9	5.7	20.8	15.1	3.8	0.0
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=13)	23.1	0.0	0.0	7.7	0.0	7.7	46.2	15.4	15.4	0.0

問16 あなたには、サービス利用に関して困っていることがありますか。(〇はいくつでも)

サービス利用に関して困っていることについては、難病（特定疾患）の診断を受けている方では「サービス利用の手引きが大変」が 61.5%と最も多くなっており、それ以外の障害種別では、「サービスに関する情報が少ない」が最も多くなっています。

次いで多い回答は、身体障害者手帳所持者及び愛の手帳所持者では「サービス利用の手引きが大変」がそれぞれ 48.7%、31.1%となっており、精神障害者保健福祉手帳所持者及び発達障害の診断を受けている方では「希望に合った事業者が見つからない」がそれぞれ 30.4%、26.4%、難病（特定疾患）の診断を受けている方では「サービスに関する情報が少ない」が 46.2%となっています。

(単位:%)

	サービスに関する情報が少ない	サービス利用の手引きが大変	利用したいサービスを 利用できない	利用できる回数や日数が少ない	希望に合った事業者が見つからない	サービスの質が良くない
全体(n=181)	45.9	32.0	22.1	17.7	26.0	6.6
身体障害者手帳(n=39)	53.8	48.7	25.6	20.5	25.6	5.1
愛の手帳(n=135)	45.2	31.1	24.4	21.5	26.7	8.9
精神障害者保健福祉手帳(n=23)	39.1	26.1	21.7	4.3	30.4	0.0
発達障害の診断を受けている(n=53)	45.3	24.5	17.0	9.4	26.4	7.5
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=13)	46.2	61.5	38.5	15.4	30.8	7.7

(単位:%)

	自分に必要なサービスがない	誰に相談すればよいか わからない	特になし	その他	無回答
全体(n=181)	8.3	26.5	25.4	5.0	1.7
身体障害者手帳(n=39)	5.1	33.3	20.5	2.6	2.6
愛の手帳(n=135)	8.1	23.7	25.2	6.7	2.2
精神障害者保健福祉手帳(n=23)	13.0	26.1	17.4	0.0	0.0
発達障害の診断を受けている(n=53)	11.3	20.8	24.5	3.8	3.8
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=13)	15.4	23.1	23.1	15.4	0.0

4-5 災害について

問17 あなたは地震などの災害が起きたときのことについて、どのようなことに不安を感じていますか。
(○はいくつでも)

災害が起きたとき不安を感じることは、身体障害者手帳所持者、愛の手帳所持者及び発達障害の診断を受けている方では「ひとりでは避難できない」が最も多くなっており、精神障害者保健福祉手帳所持者では「通学や通所の途中で災害にあった場合の対応がわからない」が最も多くなっています。

また、難病（特定疾患）の診断を受けている方では「ひとりでは避難できない」、「自分では助けを呼ぶことができない」、「避難所の設備が障害に対応しているか不安」、「薬や医療的ケアを確保できるか不安」がそれぞれ69.2%と最も多くなっています。

(単位:%)

	ひとりでは避難できない	自分では助けを呼ぶことができない	近所に助けてくれる人がいないことが不安	自宅や避難所で必要な助や支援を受けられるか不安	災害についての情報を得るのが難しい	通学や通所の途中で災害にあった場合の対応がわからない	避難の仕方や、避難する場所がわからない
全体(n=181)	70.2	55.2	29.8	42.5	36.5	49.2	35.4
身体障害者手帳(n=39)	66.7	53.8	28.2	56.4	35.9	38.5	25.6
愛の手帳(n=135)	77.8	63.7	34.1	44.4	40.0	54.8	41.5
精神障害者保健福祉手帳(n=23)	47.8	34.8	21.7	30.4	26.1	52.2	26.1
発達障害の診断を受けている(n=53)	75.5	66.0	37.7	45.3	49.1	64.2	47.2
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=13)	69.2	69.2	23.1	53.8	38.5	53.8	38.5

(単位:%)

	避難所の設備が障害に対応しているか不安	避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい	薬や医療的ケアを確保できているか不安	特になし	その他	無回答
全体(n=181)	38.1	43.6	28.2	8.3	2.8	0.0
身体障害者手帳(n=39)	64.1	28.2	48.7	17.9	2.6	0.0
愛の手帳(n=135)	40.0	48.1	27.4	5.9	3.7	0.0
精神障害者保健福祉手帳(n=23)	21.7	47.8	26.1	4.3	0.0	0.0
発達障害の診断を受けている(n=53)	35.8	56.6	30.2	3.8	5.7	0.0
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=13)	69.2	53.8	69.2	0.0	15.4	0.0

【前回調査との比較】 あなたは地震などの災害が起きたときのことについて、どのようなことに不安を感じていますか。(〇はいくつでも)

前回(令和2年2月)の調査結果と比較すると、全体では、「避難の仕方や、避難する場所がわからない」が29.3%から35.4%と6.1ポイント増加し、「災害についての情報を得るのが難しい」が32.3%から36.5%と4.2ポイント増加しています。

特に、「避難の仕方や、避難する場所がわからない」では、発達障害の診断を受けている方で9.5ポイント、愛の手帳所持者で8.7ポイント増加し、「災害についての情報を得るのが難しい」では、身体障害者手帳所持者で11.5ポイント増加し、難病(特定疾患)の診断を受けている方で9.9ポイント増加しています。

(単位:%)

		ひとりでは避難できない	自分では助けを呼ぶことができない	近所に助けしてくれる人がいないことが不安	自宅や避難所で必要な介助や支援を受けられるか不安	災害についての情報を得るのが難しい	通学や通所の途中で災害にあった場合の対応がわからない	避難の仕方や、避難する場所がわからない	避難所の設備が障害に対応しているか不安	避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい	薬や医療的ケアを確保できるか不安	特にない	その他	無回答
全体	全体(n=181)	70.2	55.2	29.8	42.5	36.5	49.2	35.4	38.1	43.6	28.2	8.3	2.8	0.0
	前回(n=232)	77.2	54.3	28.9	53.0	32.3	47.0	29.3	45.7	52.2	38.4	3.4	2.2	1.3
	今回-前回	-7.0	0.9	0.9	-10.5	4.2	2.2	6.1	-7.6	-8.6	-10.2	4.9	0.6	-1.3
身体障害者手帳	今回(n=39)	66.7	53.8	28.2	56.4	35.9	38.5	25.6	64.1	28.2	48.7	17.9	2.6	0.0
	前回(n=86)	80.2	58.1	31.4	70.9	24.4	33.7	25.6	59.3	52.3	64	2.3	2.3	0
	今回-前回	-13.5	-4.3	-3.2	-14.5	11.5	4.8	0.0	4.8	-24.1	-15.3	15.6	0.3	0.0
愛の手帳	今回(n=135)	77.8	63.7	34.1	44.4	40.0	54.8	41.5	40.0	48.1	27.4	5.9	3.7	0.0
	前回(n=192)	81.3	60.4	30.2	54.2	32.8	49.0	32.8	45.3	55.2	36.5	3.1	2.1	1.6
	今回-前回	-3.5	3.3	3.9	-9.8	7.2	5.8	8.7	-5.3	-7.1	-9.1	2.8	1.6	-1.6
精神障害者保健福祉手帳	今回(n=23)	47.8	34.8	21.7	30.4	26.1	52.2	26.1	21.7	47.8	26.1	4.3	0.0	0.0
	前回(n=16)	62.5	50.0	43.8	43.8	50.0	50.0	25.0	43.8	62.5	31.3	0.0	0.0	6.3
	今回-前回	-14.7	-15.2	-22.1	-13.4	-23.9	2.2	1.1	-22.1	-14.7	-5.2	4.3	0.0	-6.3
発達障害の診断を受けている	今回(n=53)	75.5	66.0	37.7	45.3	49.1	64.2	47.2	35.8	56.6	30.2	3.8	5.7	0.0
	前回(n=61)	82.0	63.9	31.1	55.7	47.5	67.2	37.7	54.1	67.2	32.8	1.6	0.0	3.3
	今回-前回	-6.5	2.1	6.6	-10.4	1.6	-3.0	9.5	-18.3	-10.6	-2.6	2.2	5.7	-3.3
難病(特定疾患)の診断を受けている	今回(n=13)	69.2	69.2	23.1	53.8	38.5	53.8	38.5	69.2	53.8	69.2	0.0	15.4	0.0
	前回(n=14)	100	64.3	42.9	85.7	28.6	42.9	35.7	64.3	57.1	78.6	0.0	0.0	0.0
	今回-前回	-30.8	4.9	-19.8	-31.9	9.9	10.9	2.8	-6.0	-6.6	3.8	-6.0	15.4	0.6

問18 あなたは、災害のときにどのような支援が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

災害のときに必要な支援については、身体障害者手帳所持者では「避難のための介助や支援」が64.1%と最も多く、愛の手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び発達障害の診断を受けている方では「障害に対応した避難所の確保」が最も多く、それぞれ59.3%、56.5%、66.0%となっています。

また、難病(特定疾患)の診断を受けている方では「薬や医療的ケアの確保」が76.9%と最も多くなっています。

(単位:%)

	伝達障害に 応じた災害情報の	見守りや 安否の確認	避難のための 介助や支援	自宅や 避難所での 介助や 支援	障害に 対応した 避難所の 確保	薬や 医療的 ケアの 確保	特 に な い	そ の 他	無 回 答
全体(n=181)	43.6	49.7	51.4	50.8	56.4	36.5	6.6	3.3	0.6
身体障害者手帳(n=39)	48.7	41.0	64.1	56.4	56.4	51.3	15.4	2.6	0.0
愛の手帳(n=135)	46.7	53.3	54.8	54.8	59.3	36.3	5.2	3.7	0.0
精神障害者保健福祉手帳(n=23)	39.1	47.8	43.5	43.5	56.5	34.8	0.0	4.3	0.0
発達障害の診断を受けている(n=53)	49.1	62.3	49.1	52.8	66.0	35.8	0.0	3.8	0.0
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=13)	46.2	38.5	69.2	61.5	61.5	76.9	7.7	7.7	0.0

4-6 す 住まいについて

問19 あなたのお住まいをお聞きます。(○はひとつ)

住まいの状況について、障害の種別に関わらず「持ち家（一戸建て）」が最も多くなっており、次いで、「持ち家（集合住宅）」が多くなっています。

なお、精神障害者保健福祉手帳所持者では「持ち家（集合住宅）」が26.1%、難病（特定疾患）の診断を受けている方では「公営住宅（都営・市営）」が15.4%と他の障害種別と比較して多くなっています。

(単位：%)

	持ち家（一戸建て）	持ち家（集合住宅）	民間賃貸住宅（一戸建て）	民間賃貸住宅（集合住宅）	公営住宅（都営・市営）	公社・公団賃貸住宅	グループホーム	入所施設	その他	無回答
全体(n=181)	54.1	14.9	4.4	9.4	8.3	5.5	0.0	1.7	0.6	1.1
身体障害者手帳(n=39)	53.8	15.4	0.0	7.7	12.8	5.1	0.0	2.6	2.6	0.0
愛の手帳(n=135)	55.6	12.6	5.2	10.4	8.1	4.4	0.0	2.2	0.0	1.5
精神障害者保健福祉手帳(n=23)	43.5	26.1	4.3	8.7	8.7	8.7	0.0	0.0	0.0	0.0
発達障害の診断を受けている(n=53)	54.7	17.0	3.8	5.7	7.5	11.3	0.0	0.0	0.0	0.0
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=13)	61.5	7.7	0.0	7.7	15.4	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0

問20 あなたには、住宅に関して困っていることがありますか。(〇はいくつでも)

住宅に関して困っていることについて、難病（特定疾患）の診断を受けている方を除いて「特になく、満足している」が最も多くなっており、それぞれ40%以上となっています。

また、難病（特定疾患）の診断を受けている方では「入り口や廊下が狭い」が53.8%となっています。

次いで多い回答は、身体障害者手帳所持者では「階段の昇り降り」、愛の手帳所持者及び発達障害の診断を受けている方では「建物の老朽化」、精神障害者保健福祉手帳所持者では「家賃など住宅費の負担」、難病（特定疾患）の診断を受けている方では「玄関・出入口の段差」、「風呂が使いにくい」、「特になく、満足している」となっています。

(単位:%)

	階段の昇り降り	玄関・出入口の段差	入り口や廊下が狭い	風呂が使いにくい	トイレが使いにくい	建物の老朽化
全体(n=181)	8.3	6.6	8.8	7.7	5.0	10.5
身体障害者手帳(n=39)	33.3	30.8	33.3	20.5	15.4	10.3
愛の手帳(n=135)	7.4	5.9	8.9	8.1	4.4	12.6
精神障害者保健福祉手帳(n=23)	0.0	0.0	4.3	8.7	4.3	8.7
発達障害の診断を受けている(n=53)	1.9	1.9	1.9	1.9	0.0	11.3
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=13)	23.1	38.5	53.8	38.5	30.8	15.4

(単位:%)

	家賃など住宅費の負担	住宅を借りるのが難しい	特になく、満足している	その他	無回答
全体(n=181)	11.6	2.8	60.8	8.8	2.8
身体障害者手帳(n=39)	10.3	0.0	46.2	7.7	0.0
愛の手帳(n=135)	10.4	2.2	57.8	10.4	3.7
精神障害者保健福祉手帳(n=23)	21.7	8.7	73.9	4.3	0.0
発達障害の診断を受けている(n=53)	9.4	0.0	66.0	7.5	1.9
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=13)	15.4	7.7	38.5	15.4	0.0

問21 あなたは、住宅に関して行政が今後どのような取り組みをする必要があると思いますか。
(〇はいくつでも)

住宅に関して行政が今後取り組む必要があることについては、身体障害者手帳所持者では「住宅改修費の助成を充実する」が69.2%と最も多く、愛の手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び発達障害の診断を受けている方では「家賃の助成をする」がそれぞれ50.4%、52.2%、47.2%と最も多くなっています。

また、難病（特定疾患）の診断を受けている方では「住宅改修費の助成を充実する」、「グループホームの整備を促進する」、「家賃の助成をする」が最も多く、ともに53.8%となっています。

次いで多い回答は、「特になし」を除くと、いずれの障害種別でも「障害者向け住宅の整備を促進する」となっています。

(単位：%)

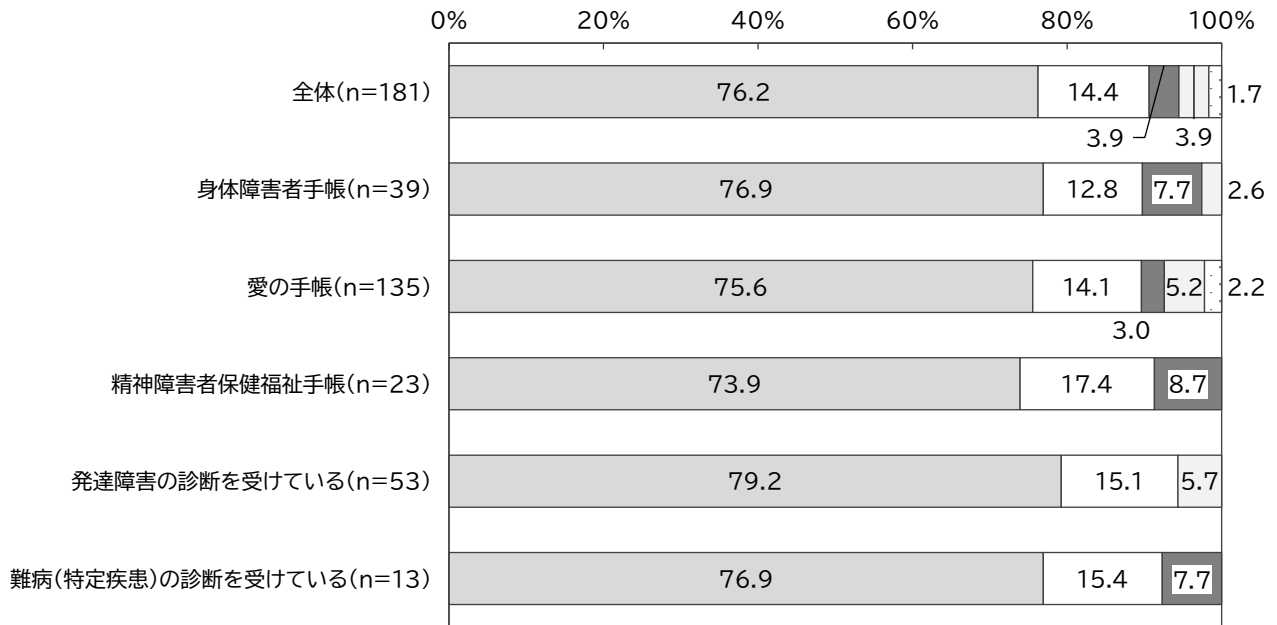
	住宅改修費の助成を充実する	公営住宅を障害者が利用しやすいとする	公営住宅の入居の優先枠を拡充する	障害者向け住宅の整備を促進する	単身者向け住宅の整備を促進する	グループホームの整備を促進する	家賃の助成をする	特になし	その他	無回答
全体(n=181)	35.4	32.6	24.9	42.0	12.2	37.0	50.3	18.2	3.3	0.0
身体障害者手帳(n=39)	69.2	25.6	20.5	48.7	7.7	25.6	46.2	10.3	5.1	0.0
愛の手帳(n=135)	34.8	36.3	27.4	45.9	10.4	44.4	50.4	16.3	3.7	0.0
精神障害者保健福祉手帳(n=23)	17.4	21.7	13.0	26.1	21.7	17.4	52.2	30.4	0.0	0.0
発達障害の診断を受けている(n=53)	30.2	37.7	26.4	39.6	17.0	39.6	47.2	15.1	5.7	0.0
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=13)	53.8	30.8	23.1	46.2	0.0	53.8	53.8	23.1	7.7	0.0

4-7 外出について

問22 あなたは普段、どのくらいの頻度で外出していますか。(〇はひとつ)

外出の頻度について、「週に1~2日くらい」以上外出している人はどの障害種別でも90%以上となっています。

また、「ほとんど毎日」外出している人は、発達障害の診断を受けている方で79.2%と障害種別の中で最も多くなっています。



ほとんど毎日
 週に3~5日くらい
 週に1~2日くらい
 月に1~3日くらい
 あまり外出しない
 無回答

問23 あなたは普段、どのような目的で外出していますか。(〇はいくつでも)

外出の目的については、障害の種別に関わらず「通学・通園」が最も多くなっており、どの障害種別でも80%以上となっています。

次いで多い回答は、身体障害者手帳所持者及び難病(特定疾患)の診断を受けている方では「通院」がそれぞれ53.8%、69.2%となっており、精神障害者保健福祉手帳所持者では「趣味活動・遊び」が56.5%、愛の手帳所持者及び発達障害の診断を受けている方では「買い物」がそれぞれ51.9%、50.9%となっています。

(単位:%)

	通学・通園	施設への通所	通院	訓練・リハビリ	買い物	趣味活動・遊び
全体(n=181)	89.5	35.4	33.7	20.4	49.7	40.3
身体障害者手帳(n=39)	87.2	17.9	53.8	46.2	46.2	35.9
愛の手帳(n=135)	87.4	39.3	31.9	21.5	51.9	34.8
精神障害者保健福祉手帳(n=23)	95.7	43.5	43.5	8.7	43.5	56.5
発達障害の診断を受けている(n=53)	92.5	43.4	32.1	13.2	50.9	32.1
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=13)	84.6	38.5	69.2	61.5	38.5	46.2

(単位:%)

	スポーツ・運動・レクリエーション	友達との交流	旅行	あまり外出しない	その他	無回答
全体(n=181)	14.9	18.8	10.5	3.3	3.9	1.1
身体障害者手帳(n=39)	12.8	12.8	12.8	2.6	7.7	0.0
愛の手帳(n=135)	14.8	15.6	10.4	3.7	4.4	1.5
精神障害者保健福祉手帳(n=23)	13.0	43.5	13.0	4.3	4.3	0.0
発達障害の診断を受けている(n=53)	7.5	24.5	11.3	1.9	3.8	0.0
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=13)	38.5	23.1	7.7	0.0	7.7	0.0

問24 あなたは普段、どのような移動手段を利用していますか（〇はいくつでも）

普段の移動手段については、愛の手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び発達障害の診断を受けている方では「徒歩」が最も多くなっており、それぞれ 71.9%、91.3%、84.9%となっています。

また、身体障害者手帳所持者及び難病（特定疾患）の診断を受けている方では「自転車」が最も多くなっており、それぞれ 79.5%、76.9%となっています。

(単位:%)

	徒歩	ベビーカー	車いす	電動車いす	自転車	オートバイ	自動車	電車
全体(n=181)	73.5	7.2	9.9	0.0	16.0	0.0	64.6	34.8
身体障害者手帳(n=39)	51.3	10.3	46.2	0.0	15.4	0.0	79.5	38.5
愛の手帳(n=135)	71.9	7.4	9.6	0.0	13.3	0.0	64.4	31.1
精神障害者保健福祉手帳(n=23)	91.3	0.0	0.0	0.0	21.7	0.0	52.2	43.5
発達障害の診断を受けている(n=53)	84.9	5.7	1.9	0.0	20.8	0.0	62.3	32.1
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=13)	61.5	15.4	46.2	0.0	15.4	0.0	76.9	38.5

(単位:%)

	路線バス	スクールバス	一般のタクシー	リフト付きタクシー	市のリフト付き自動車 (わかこま号)	あまり外出しない	その他	無回答
全体(n=181)	30.4	27.1	7.7	0.6	0.6	1.1	1.7	1.7
身体障害者手帳(n=39)	20.5	33.3	5.1	2.6	2.6	2.6	2.6	0.0
愛の手帳(n=135)	26.7	30.4	8.9	0.7	0.7	1.5	1.5	2.2
精神障害者保健福祉手帳(n=23)	47.8	17.4	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発達障害の診断を受けている(n=53)	39.6	32.1	11.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=13)	30.8	38.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問25 あなたは、外出するとき、どのようなことで困っていますか。(○はいくつでも)

外出時に困ることについては、身体障害者手帳所持者では「建物の段差・階段・設備」が48.7%と最も多くなっており、愛の手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び発達障害の診断を受けている方では「困ったときどうすればいいか不安」がそれぞれ43.0%、39.1%、56.6%と最も多くなっています。

また、難病（特定疾患）の診断を受けている方では「トイレの利用」が61.5%となっています。

次いで多い回答は、身体障害者手帳所持者では「歩道や道路の段差の幅」が43.6%、愛の手帳所持者及び発達障害の診断を受けている方では「多動やこだわりのため、安全確保等が難しい」がそれぞれ34.8%、45.3%、精神障害者保健福祉手帳所持者では「周囲の目が気になる」が30.4%、難病（特定疾患）の診断を受けている方では「障害者用駐車場が少ない」が53.8%となっています。

(単位:%)

	付き添ってくれる人がいない	歩道や道路の段差の幅	横断用の信号の時間が短い	音響式信号機の設置が十分でない	建物の段差・階段・設備	駅での移動や乗り替え	駅での券売機の利用	バスやタクシーの乗り降り	電車やバス内などでのアナウンスがわかりにくい	公共交通機関が少ない	トイレの利用
全体(n=181)	9.4	10.5	6.1	1.1	12.7	16.0	7.2	9.9	12.7	3.9	23.2
身体障害者手帳(n=39)	10.3	43.6	12.8	0.0	48.7	20.5	2.6	20.5	10.3	0.0	38.5
愛の手帳(n=135)	10.4	9.6	5.9	1.5	11.9	17.8	7.4	8.9	12.6	3.0	25.9
精神障害者保健福祉手帳(n=23)	8.7	0.0	4.3	0.0	0.0	8.7	8.7	4.3	8.7	8.7	13.0
発達障害の診断を受けている(n=53)	3.8	1.9	1.9	0.0	3.8	18.9	13.2	7.5	17.0	5.7	18.9
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=13)	23.1	38.5	15.4	0.0	46.2	7.7	0.0	7.7	0.0	7.7	61.5

(単位:%)

	休憩場所が少ない	障害者用駐車場が少ない	交通費の負担	発作など突然の心身の変化	多動やこだわりのため、安全確保等が難しい	周囲の目が気になる	困ったときどうすればいいか不安	特にない	その他	無回答
全体(n=181)	7.7	13.8	10.5	7.2	29.8	23.8	39.2	19.9	6.6	0.6
身体障害者手帳(n=39)	25.6	35.9	12.8	12.8	12.8	20.5	25.6	12.8	2.6	0.0
愛の手帳(n=135)	7.4	14.8	8.9	5.9	34.8	25.2	43.0	20.0	5.9	0.7
精神障害者保健福祉手帳(n=23)	0.0	0.0	26.1	8.7	26.1	30.4	39.1	21.7	13.0	0.0
発達障害の診断を受けている(n=53)	0.0	3.8	11.3	9.4	45.3	28.3	56.6	13.2	5.7	0.0
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=13)	23.1	53.8	7.7	30.8	38.5	23.1	30.8	15.4	0.0	0.0

【前回調査との比較】 あなたは、外出するとき、どのようなことで困っていますか。(〇はいくつでも)

前回(令和2年2月)の調査結果と比較すると、全体では、「多動やこだわりのため、安全確保等が難しい」が23.3%から29.8%と6.5ポイント増加しており、特に、難病(特定疾患)の診断を受けている方で17.1ポイント増加し、愛の手帳所持者で7.7ポイント増加しています。

(単位:%)

		付き添ってくれる人(移動支援するヘルパーを含む)がいない	歩道や道路の段差や幅	横断用の信号の時間が短い	音響式信号機の設置が十分でない	建物の段差・階段・設備	駅での移動や乗り替え	駅での券売機の利用	バスやタクシーの乗り降り	電車やバス内などでのアナウンスがわかりにくい	公共交通機関が少ない	トイレの利用
全体	全体(n=181)	9.4	10.5	6.1	1.1	12.7	16.0	7.2	9.9	12.7	3.9	23.2
	前回(n=232)	19.8	21.1	6.0	0.9	21.1	33.6	11.2	12.9	13.8	3.9	26.3
	今回-前回	-10.4	-10.6	0.1	0.2	-8.4	-17.6	-4.0	-3.0	-1.1	0.0	-3.1
身体障害者手帳	今回(n=39)	10.3	43.6	12.8	0.0	48.7	20.5	2.6	20.5	10.3	0.0	38.5
	前回(n=86)	19.8	47.7	9.3	2.3	48.8	39.5	5.8	20.9	4.7	2.3	41.9
	今回-前回	-9.5	-4.1	3.5	-2.3	-0.1	-19.0	-3.2	-0.4	5.6	-2.3	-3.4
愛の手帳	今回(n=135)	10.4	9.6	5.9	1.5	11.9	17.8	7.4	8.9	12.6	3.0	25.9
	前回(n=192)	21.4	20.3	4.7	0.5	19.3	34.9	12.5	12.5	13.5	4.7	27.6
	今回-前回	-11.0	-10.7	1.2	1.0	-7.4	-17.1	-5.1	-3.6	-0.9	-1.7	-1.7
精神障害者保健福祉手帳	今回(n=23)	8.7	0.0	4.3	0.0	0.0	8.7	8.7	4.3	8.7	8.7	13.0
	前回(n=16)	12.5	0.0	6.3	0.0	0.0	18.8	6.3	6.3	25.0	0.0	12.5
	今回-前回	-3.8	0.0	-2.0	0.0	0.0	-10.1	2.4	-2.0	-16.3	8.7	0.5
発達障害の診断を受けている	今回(n=53)	3.8	1.9	1.9	0.0	3.8	18.9	13.2	7.5	17.0	5.7	18.9
	前回(n=61)	19.7	13.1	3.3	1.6	9.8	29.5	9.8	9.8	21.3	0.0	24.6
	今回-前回	-15.9	-11.2	-1.4	-1.6	-6.0	-10.6	3.4	-2.3	-4.3	5.7	-5.7
難病(特定疾患)の診断を受けている	今回(n=13)	23.1	38.5	15.4	0.0	46.2	7.7	0.0	7.7	0.0	7.7	61.5
	前回(n=14)	7.1	35.7	7.1	7.1	28.6	50.0	0.0	21.4	7.1	0.0	35.7
	今回-前回	16.0	2.8	8.3	-7.1	17.6	-42.3	0.0	-13.7	-7.1	7.7	25.8

(単位:%)

		休憩場所がない	障害者用駐車場が少ない	交通費の負担	発作など突然の心身の変化	多動やこだわりのため、安全確保等が難しい	周囲の目が気になる	困ったときぐずすればいいか不安	特にない	その他	無回答
全体	全体(n=181)	7.7	13.8	10.5	7.2	29.8	23.8	39.2	19.9	6.6	0.6
	前回(n=232)	11.6	15.1	16.8	15.1	23.3	26.3	45.7	12.9	8.2	0.4
	今回-前回	-3.9	-1.3	-6.3	-7.9	6.5	-2.5	-6.5	7.0	-1.6	0.2
身体障害者手帳	今回(n=39)	25.6	35.9	12.8	12.8	12.8	20.5	25.6	12.8	2.6	0.0
	前回(n=86)	20.9	31.4	15.1	25.6	11.6	23.3	26.7	10.5	11.6	0.0
	今回-前回	4.7	4.5	-2.3	-12.8	1.2	-2.8	-1.1	2.3	-9.0	0.0
愛の手帳	今回(n=135)	7.4	14.8	8.9	5.9	34.8	25.2	43.0	20.0	5.9	0.7
	前回(n=192)	9.9	14.6	16.7	14.1	27.1	27.6	48.4	12.0	6.3	0.5
	今回-前回	-2.5	0.2	-7.8	-8.2	7.7	-2.4	-5.4	8.0	-0.4	0.2
精神障害者保健福祉手帳	今回(n=23)	0.0	0.0	26.1	8.7	26.1	30.4	39.1	21.7	13.0	0.0
	前回(n=16)	6.3	0.0	25.0	31.3	25.0	25.0	75.0	6.3	6.3	0.0
	今回-前回	-6.3	0.0	1.1	-22.6	1.1	5.4	-35.9	15.4	6.7	0.0
発達障害の診断を受けている	今回(n=53)	0.0	3.8	11.3	9.4	45.3	28.3	56.6	13.2	5.7	0.0
	前回(n=61)	13.1	6.6	18.0	18.0	41.0	34.4	63.9	4.9	8.2	0.0
	今回-前回	-13.1	-2.8	-6.7	-8.6	4.3	-6.1	-7.3	8.3	-2.5	0.0
難病(特定疾患)の診断を受けている	今回(n=13)	23.1	53.8	7.7	30.8	38.5	23.1	30.8	15.4	0.0	0.0
	前回(n=14)	14.3	21.4	21.4	28.6	21.4	14.3	28.6	7.1	14.3	0.0
	今回-前回	8.8	32.4	-13.7	2.2	17.1	8.8	2.2	8.3	-14.3	0.0

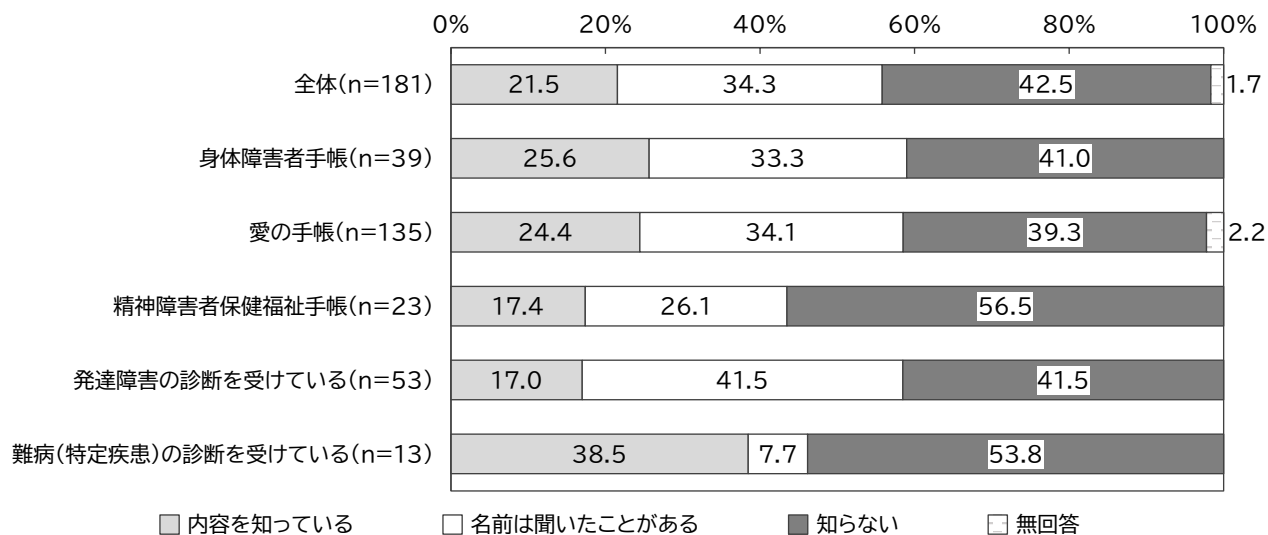
4-8 権利擁護について

問26 あなたは次のような権利擁護の取り組みを知っていますか。(〇はひとつ)

① 成年後見制度

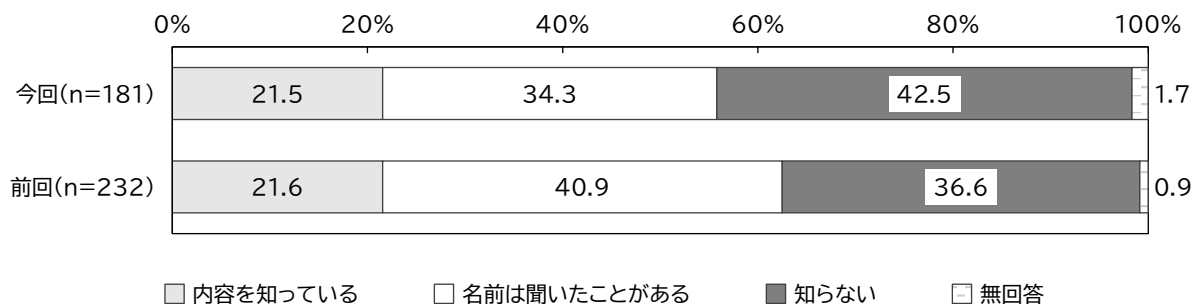
成年後見制度の認知度について、全体では「内容を知っている」が21.5%、「名前は聞いたことがある」が34.3%、「知らない」が42.5%となっています。

なお、「知らない」が精神障害者保健福祉手帳所持者で56.5%、難病（特定疾患）の診断を受けている方で53.8%と他の障害種別と比較して多くなっています。



【前回調査との比較】

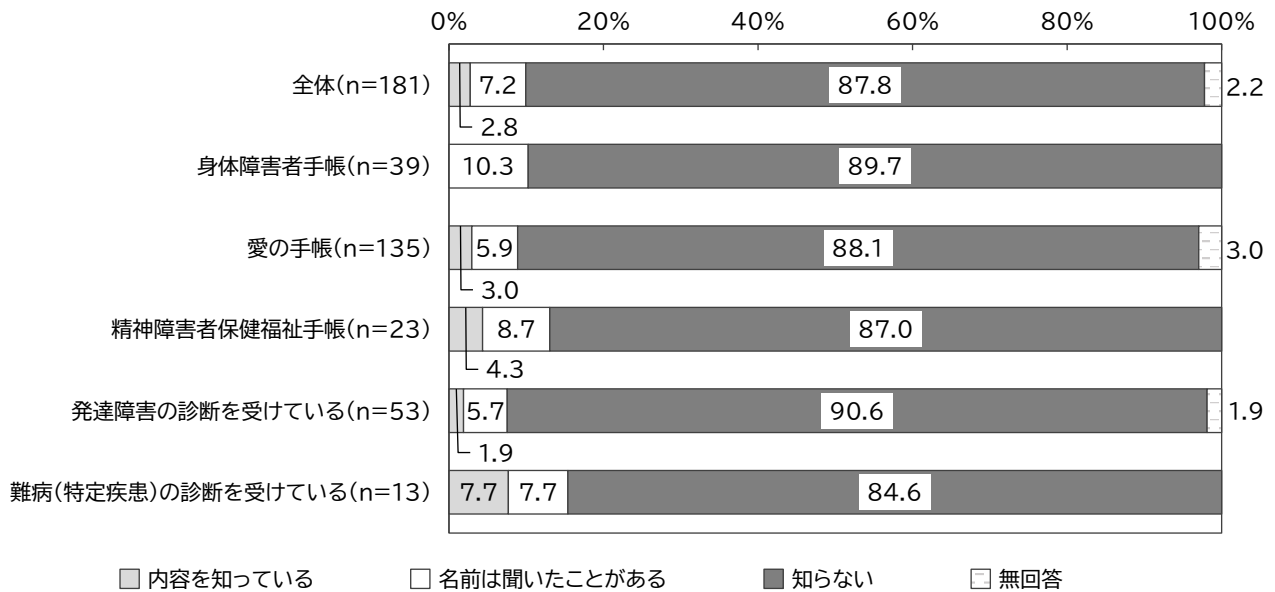
前回（令和2年2月）の調査結果と比較すると、成年後見制度について知っている人（「内容を知っている」「名前は聞いたことがある」の合計。以下、同じ。）は、62.5%から55.8%と6.7ポイント減少しています。



②地域福祉権利擁護事業

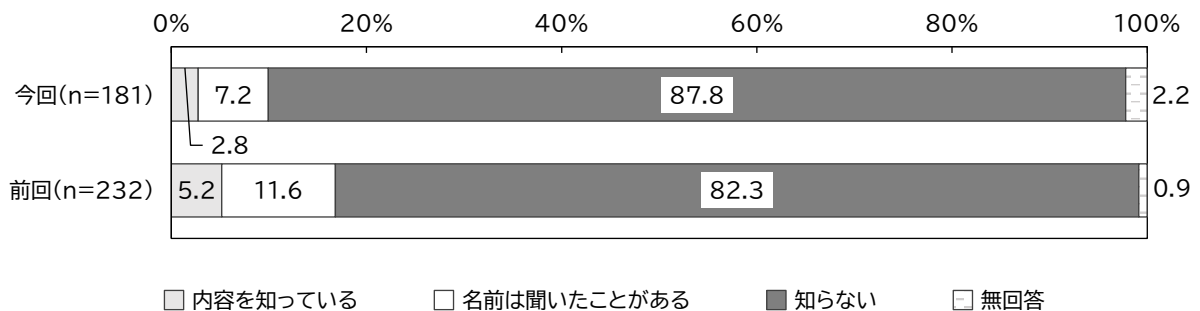
地域福祉権利擁護事業の認知度について、全体では「内容を知っている」が2.8%、「名前は聞いたことがある」が7.2%、「知らない」が87.8%、「名前は聞いたことがある」が7.2%、「知らない」が87.8%となっています。

なお、どの障害種別でも「知らない」が80%以上となっています。



【前回調査との比較】

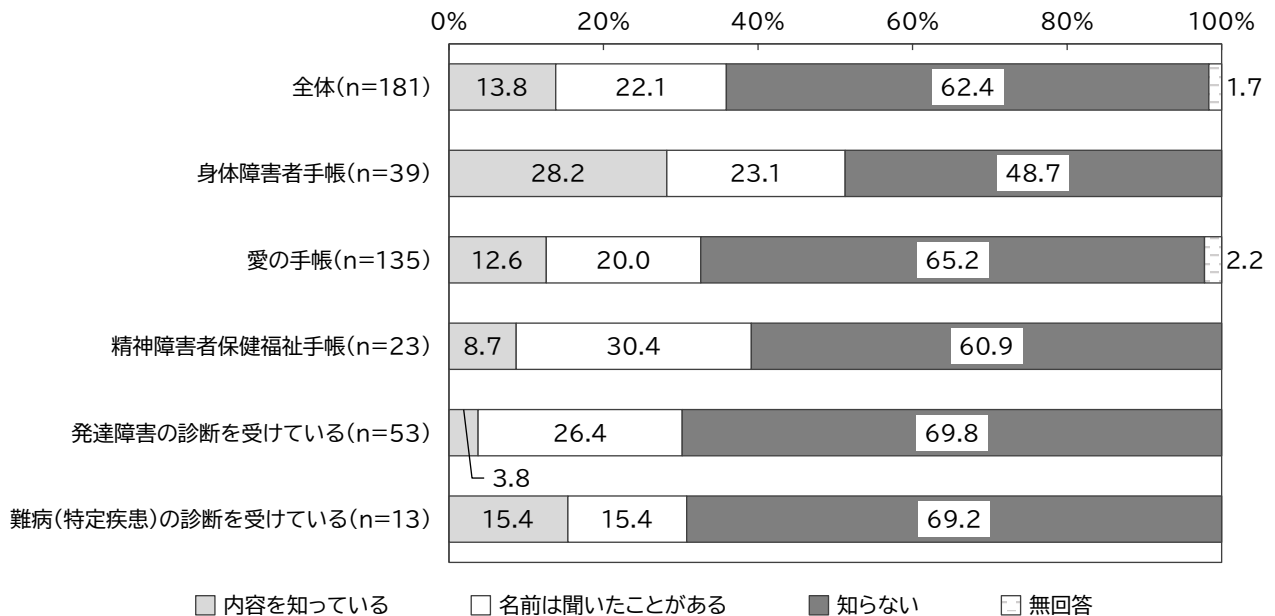
前回(令和2年2月)の調査結果と比較すると、地域福祉権利擁護事業について知っている人は、16.8%から10.0%と6.8ポイント減少しています。



③障害を理由とする差別の解消に関する法律(差別解消法)

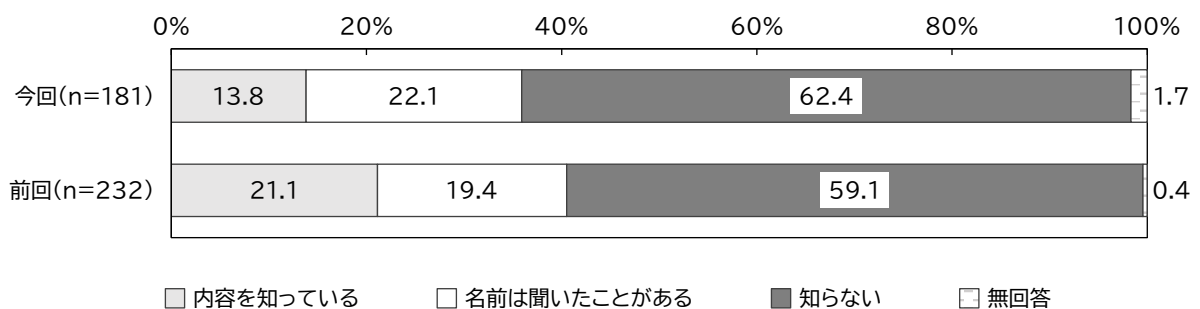
障害を理由とする差別の解消に関する法律(差別解消法)の認知度について、全体では「内容を知っている」が13.8%、「名前は聞いたことがある」が22.1%、「知らない」が62.4%となっています。

なお、身体障害者手帳所持者では「内容を知っている」、「名前は聞いたことがある」の合計が51.3%と、他の障害種別と比較すると多くなっています。



【前回調査との比較】

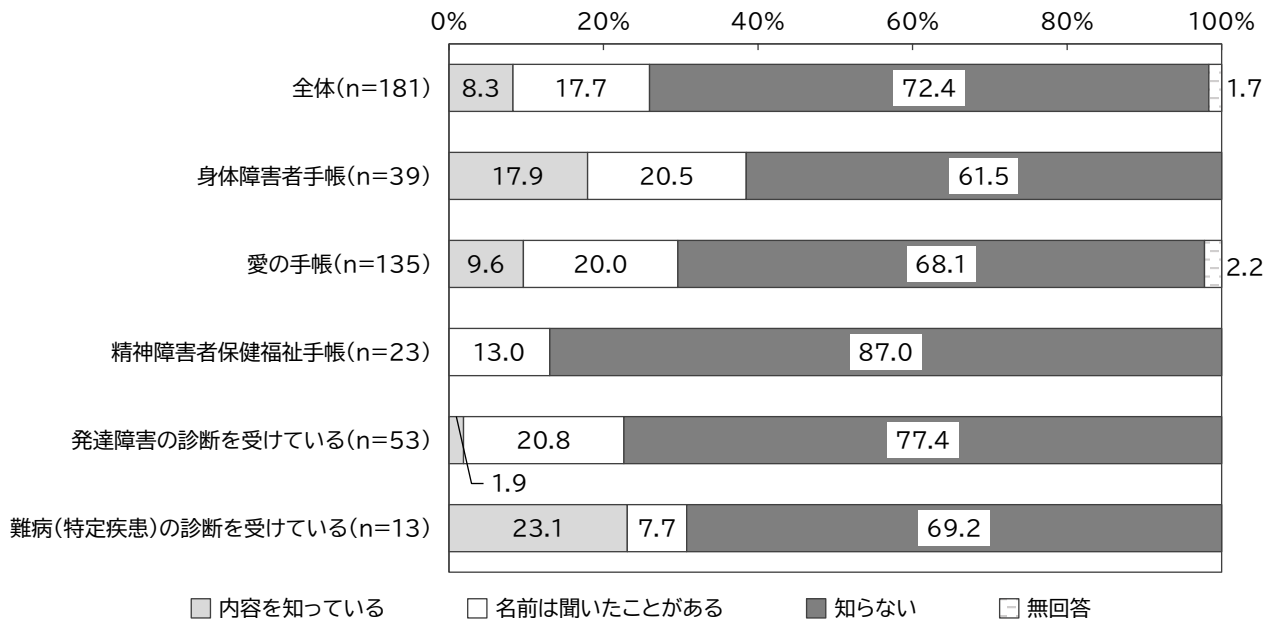
前回(令和2年2月)の調査結果と比較すると、障害を理由とする差別の解消に関する法律(差別解消法)について知っている人は、40.5%から35.9%と4.6ポイント減少しています。



④障害のある人もない人も共に安心して暮らせる八王子づくり条例(差別禁止条例)

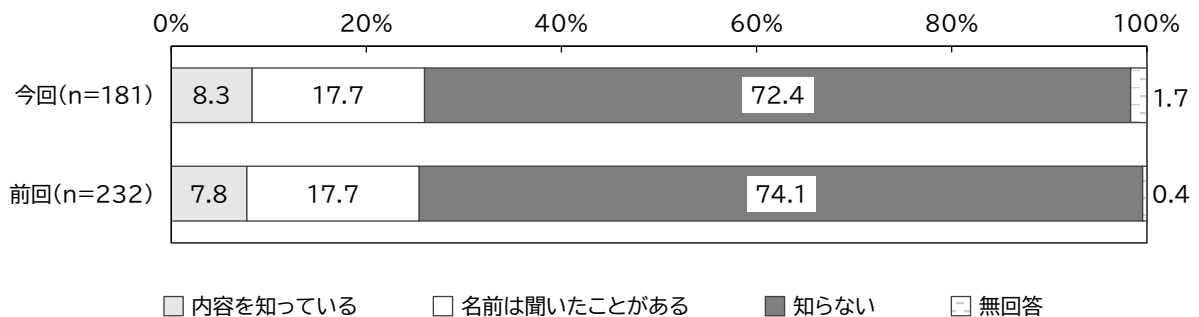
障害のある人もない人も共に安心して暮らせる八王子づくり条例(差別禁止条例)の認知度について、全体では「内容を知っている」が8.3%、「名前は聞いたことがある」が17.7%、「知らない」が72.4%となっています。

なお、精神障害者保健福祉手帳所持者では「知らない」が87.0%と他の障害種別よりも多くなっています。



【前回調査との比較】

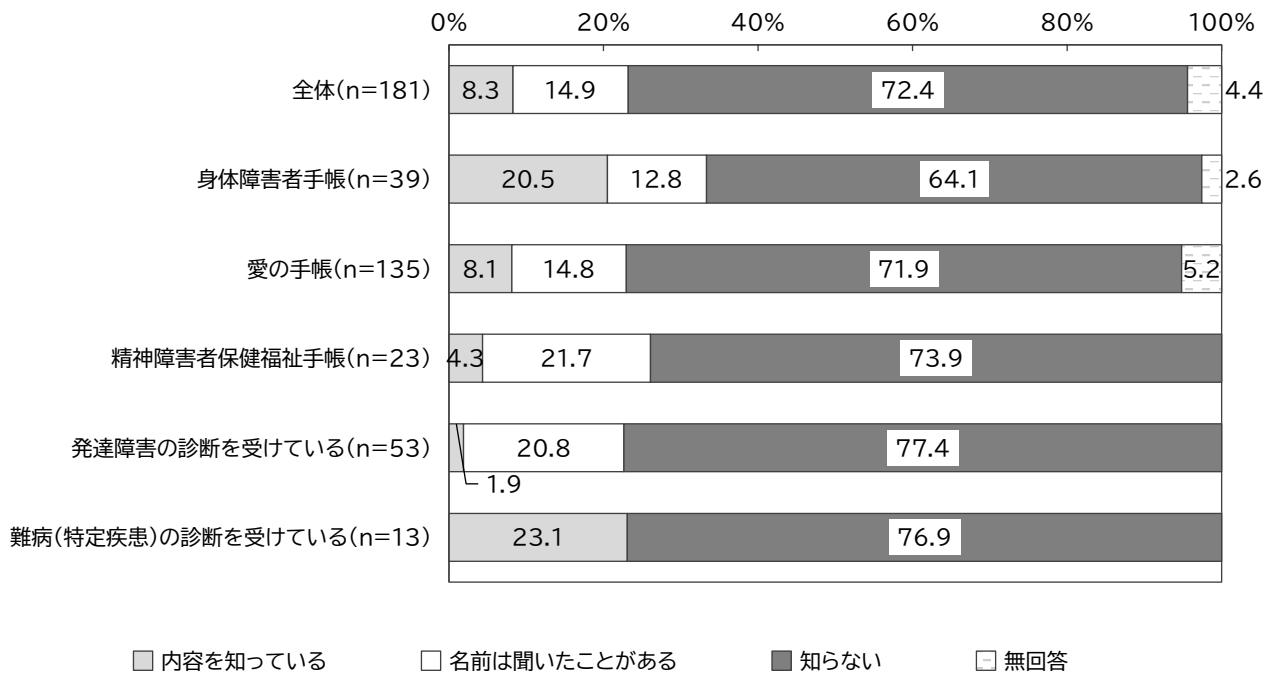
前回(令和2年2月)の調査結果と比較すると、障害のある人もない人も共に安心して暮らせる八王子づくり条例(差別禁止条例)について知っている人は、25.5%から26.0%と0.5ポイント増加しています。



⑤八王子市障害者虐待防止センター

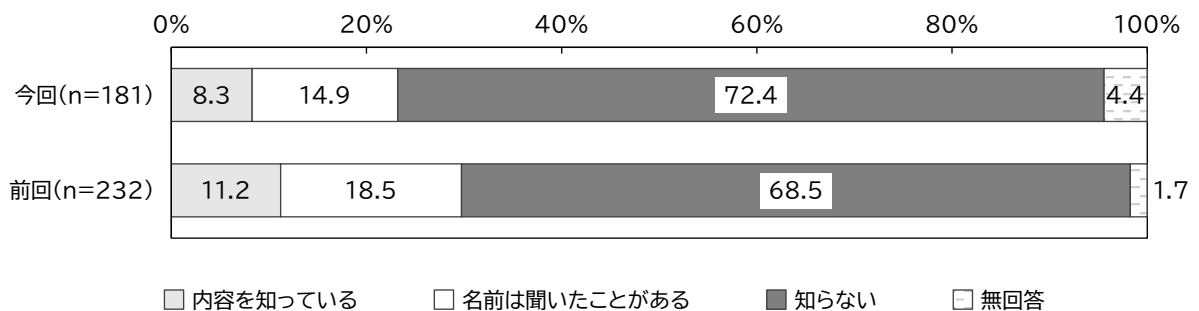
八王子市障害者虐待防止センターの認知度について、全体では「内容を知っている」が8.3%、「名前は聞いたことがある」が14.9%、「知らない」が72.4%となっています。

なお、身体障害者手帳所持者では「知らない」が64.1%と他の障害種別よりも少なくなっています。



【前回調査との比較】

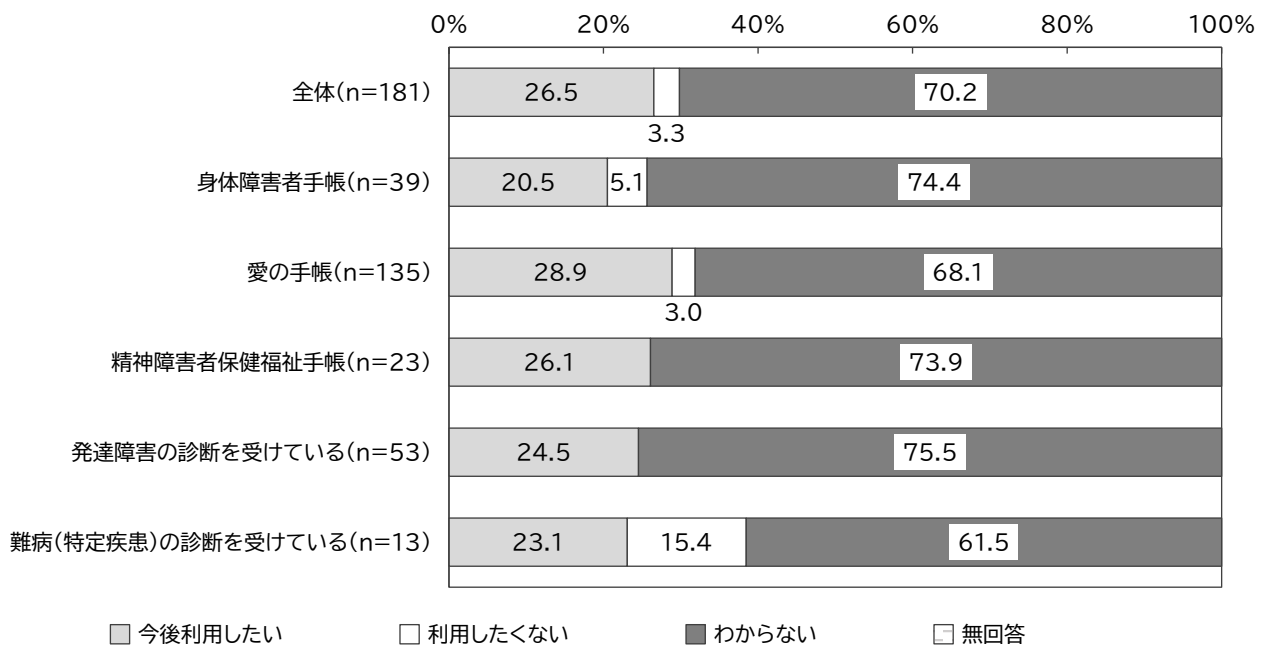
前回(令和2年2月)の調査結果と比較すると、八王子市障害者虐待防止センターについて知っている人は、29.7%から23.2%と6.5ポイント減少しています。



問27 あなたは今後、成年後見制度を利用したいと思いますか。(〇はひとつ)

成年後見制度の利用意向について、全体では「今後利用したい」が26.5%、「利用したくない」が3.3%、「わからない」が70.2%となっています。

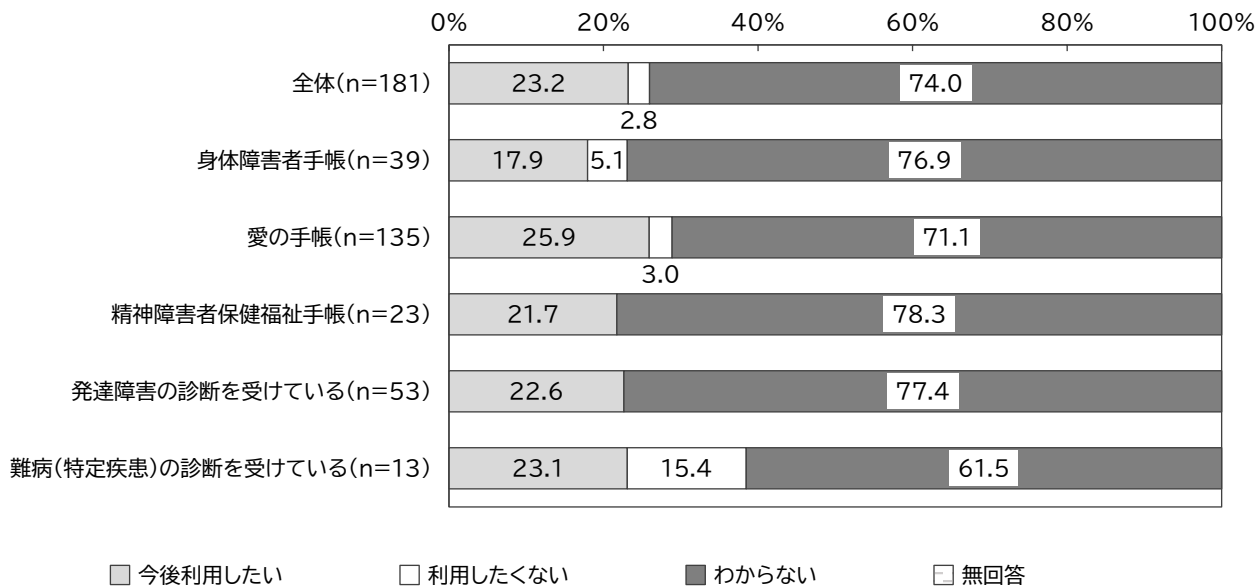
なお、どの障害種別でも「わからない」が60%以上となっています。



問28 あなたは今後、地域福祉権利擁護事業を利用したいと思いますか。(〇はひとつ)

地域福祉権利擁護事業の利用意向について、全体では「今後利用したい」が23.2%、「利用したくない」が2.8%、「わからない」が74.0%となっています。

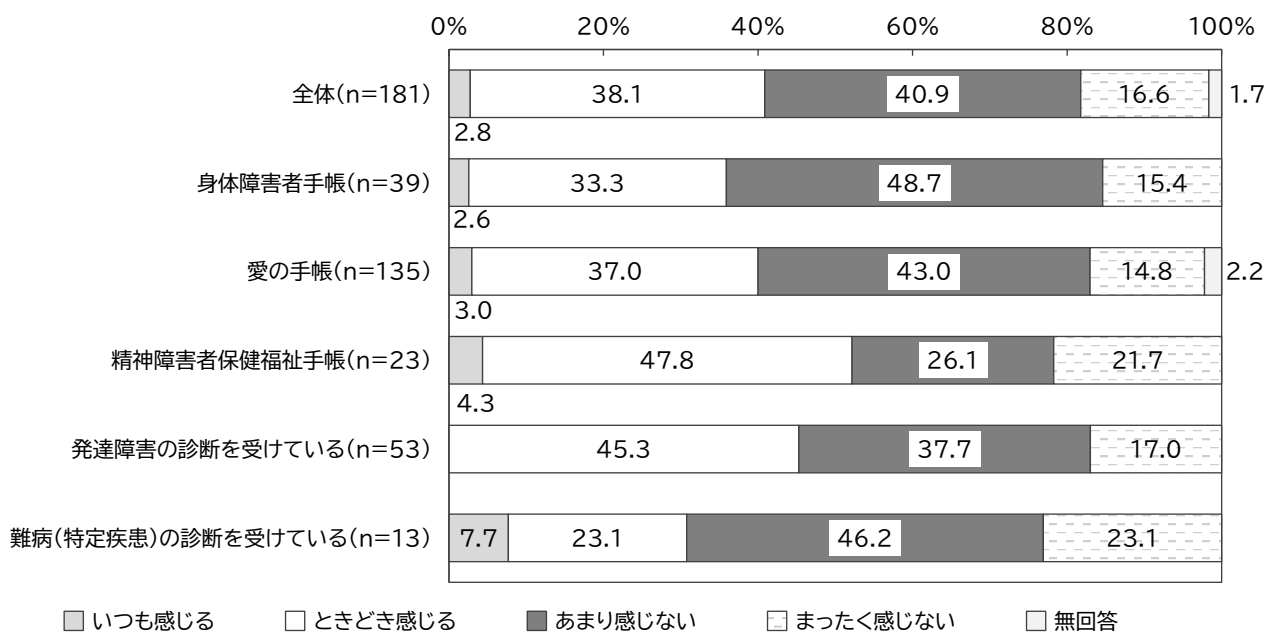
なお、どの障害種別でも「わからない」が60%以上となっており、身体障害者手帳所持者では「今後利用したい」が17.9%と他の障害種別よりも少なくなっています。



問29 あなたやご家族の方は、あなたの障害のことで差別や人権侵害を受けていると感じることがありますか。(〇はひとつ)

障害が原因による差別や人権侵害について、全体では「いつも感じる」が2.8%、「ときどき感じる」が38.1%、「あまり感じない」が40.9%、「まったく感じない」が16.6%となっています。

なお、精神障害者保健福祉手帳所持者では差別や人権侵害を受けていると感じている人(「いつも感じる」と「ときどき感じる」の合計)が52.1%と他の障害種別よりも多くなっています。



問30 問29で「1 いつも感じる」、「2 ときどき感じる」と回答した方にお聞きします。
 差別や人権侵害を受けていると感じるのはどのようなときですか。具体的にお書きください。

差別や人権侵害を受けていると感じているときについて、59名の方から回答がありました。各意見を、
 内容ごとに分類した結果を以下に示します。

なお、お一人の回答者が複数のご意見を述べられた場合は、それぞれで集計したため、類型回答数は
 64件となり、回答者数より多くなっています。

主な意見	件数
1.学校生活をするとき	24
2.日常生活で他者とかかわるとき	20
3.施設を利用するとき	6
4.病院で受診するとき	4
5.近隣とかかわるとき	4
6.公共交通機関を利用するとき	2
7.お店などを利用するとき	2
8.その他	2
合計	64

問31 あなたは、障害による差別や人権侵害をなくすために、どのようなことが必要だと思いますか。
 具体的にお書きください。

障害による差別や人権侵害をなくすために必要なことについては、97名の方から回答がありました。
 各意見を、内容ごとに分類した結果を以下に示します。

なお、お一人の回答者が複数のご意見を述べられた場合は、それぞれで集計したため、類型回答数は
 98件となり、回答者数より多くなっています。

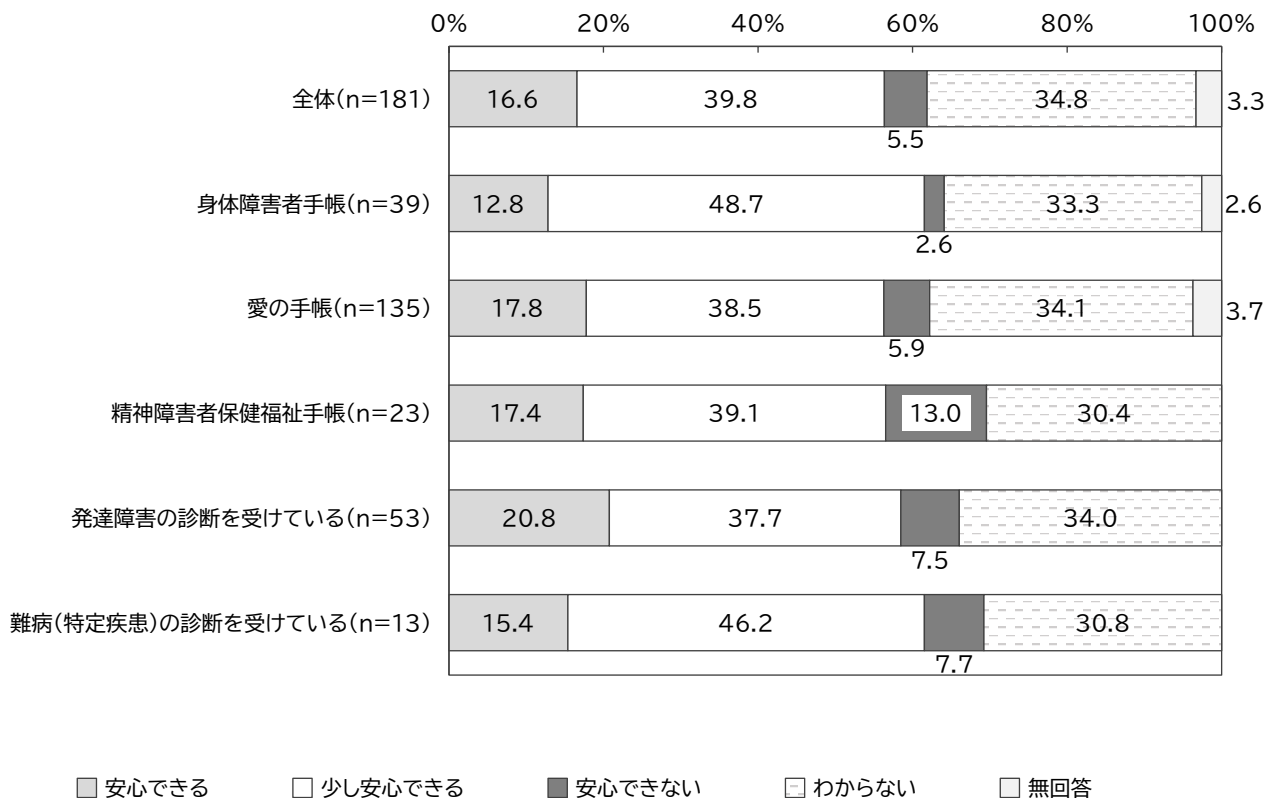
主な意見	件数
1.理解することが必要	25
2.小さい頃からの交流と教育が必要	14
3.知る、知ってもらうことが必要	12
4.交流する、交流の場をつくることが必要	9
5.思いやり・やさしさ・心のゆとりが必要	6
6.障害という表現の改善が必要	6
7.法律・制度・行政・福祉サービスの改善・充実が必要	5
8.広報・啓蒙活動が必要	4
9.相談窓口や支援者が必要	3
10.暮らしやすい街づくりが必要	3
11.共生があたりまえになることが必要	3
12.無理・なくならない・難しい・今のまま	1
13.よくわからない	2
14.その他	5
合計	98

問32 あなたが差別を受けたときや虐待があったときは、市や相談支援事業者に相談などをすることができます。この制度があることで、あなたは安心して暮らすことができますか。(〇はひとつ)

相談制度の安心感について、全体では「安心できる」が16.6%、「少し安心できる」が39.8%、「安心できない」が5.5%、「わからない」が34.8%となっています。

なお、精神障害者保健福祉手帳所持者では「安心できない」が13.0%と他の障害種別よりも多くなっています。

また、「わからない」と回答した人がどの障害種別でも30%以上となっています。



4-9 教育・療育について

問33 あなたは平日の日中、どこに通っていますか。(〇はいくつでも)

平日の日中の通学状況については、身体障害者手帳所持者及び難病(特定疾患)の診断を受けている方では「特別支援学校(小学部)」がそれぞれ23.1%、38.5%と最も多くなっています。

また、愛の手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び発達障害の診断を受けている方では「小学校(特別支援学級)」がそれぞれ25.9%、30.4%、30.2%と最も多くなっています。

(単位:%)

	保育園	幼稚園	児童発達支援センター	療育施設	小学校(通常学級)	小学校(特別支援学級)	特別支援学校(小学部)	中学校(通常学級)
全体(n=181)	6.1	2.2	5.0	7.2	3.9	24.3	18.8	2.8
身体障害者手帳(n=39)	12.8	0.0	5.1	15.4	7.7	5.1	23.1	5.1
愛の手帳(n=135)	5.2	2.2	5.9	5.9	1.5	25.9	23.0	1.5
精神障害者保健福祉手帳(n=23)	0.0	4.3	4.3	4.3	8.7	30.4	4.3	0.0
発達障害の診断を受けている(n=53)	1.9	5.7	9.4	7.5	5.7	30.2	11.3	3.8
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=13)	15.4	0.0	15.4	15.4	0.0	0.0	38.5	7.7

(単位:%)

	中学校(特別支援学級)	特別支援学校(中学部)	高等学校	特別支援学校(高等部)	その他の学校	どこにも通っていない	その他	無回答
全体(n=181)	10.5	6.6	5.0	10.5	0.0	1.1	5.0	0.6
身体障害者手帳(n=39)	2.6	7.7	2.6	5.1	0.0	5.1	12.8	0.0
愛の手帳(n=135)	10.4	7.4	2.2	11.9	0.0	1.5	3.7	0.7
精神障害者保健福祉手帳(n=23)	17.4	4.3	21.7	13.0	0.0	0.0	4.3	0.0
発達障害の診断を受けている(n=53)	7.5	11.3	9.4	7.5	0.0	0.0	3.8	0.0
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=13)	7.7	0.0	0.0	7.7	0.0	7.7	7.7	0.0

問34 あなたは学校の放課後などは、どのように過ごしていますか。(〇はいくつでも)

放課後の過ごし方について、障害の種別に関わらず「家族・親族という」が最も多く、いずれも50%以上となっています。次いで、精神障害者保健福祉手帳所持者では「ひとりである」が43.5%となっており、他の障害種別では「放課後等デイサービスを利用している」が多くなっています。

(単位:%)

	家族・親族という	友人・知人という	ひとりである	ヘルパーなどによる	放課後等デイサービスを利用している	児童館を利用している	児童館を利用している	習い事や塾に行く	その他	無回答
全体(n=181)	61.9	11.6	14.9	1.1	47.0	6.6	0.6	10.5	6.1	2.2
身体障害者手帳(n=39)	69.2	12.8	7.7	2.6	41.0	5.1	0.0	20.5	7.7	2.6
愛の手帳(n=135)	57.8	5.9	10.4	1.5	51.9	7.4	0.7	5.9	6.7	2.2
精神障害者保健福祉手帳(n=23)	78.3	34.8	43.5	0.0	39.1	8.7	0.0	13.0	4.3	0.0
発達障害の診断を受けている(n=53)	64.2	15.1	22.6	1.9	47.2	3.8	0.0	7.5	7.5	1.9
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=13)	84.6	15.4	7.7	0.0	30.8	0.0	0.0	0.0	15.4	0.0

問35 あなたには、療育や訓練について、現在困っていることや以前に困っていたことがありますか。(〇はいくつでも)

療育や訓練について、困っている(いた)ことについては、身体障害者手帳所持者では「特にない」が41.0%と最も多くなっています。

また、愛の手帳所持者では「療育・訓練を受けられる回数が少ない」が37.0%、精神障害者保健福祉手帳所持者では「療育・訓練を受けられる施設が見つからない」、「療育・訓練を受けられる回数が少ない」がともに39.1%、発達障害の診断を受けている方では「療育・訓練に関する情報が少ない」が45.3%、難病(特定疾患)の診断を受けている方では「療育・訓練を受けられる回数が少ない」、「特にない」がともに46.2%と最も多くなっています。

(単位:%)

	療育・訓練に関する情報が少ない	療育・訓練を受けられる施設が見つからない	療育・訓練を受けられる回数が少ない	療育・訓練の内容が不十分である	療育・訓練のための費用負担が大きい	通園・通所(送り迎え)が大変である	特にない	その他	無回答
全体(n=181)	34.3	24.9	36.5	14.9	11.0	26.0	34.3	7.2	1.1
身体障害者手帳(n=39)	25.6	10.3	30.8	17.9	5.1	33.3	41.0	5.1	0.0
愛の手帳(n=135)	34.8	25.2	37.0	14.8	10.4	24.4	34.1	5.9	1.5
精神障害者保健福祉手帳(n=23)	34.8	39.1	39.1	13.0	17.4	34.8	30.4	17.4	0.0
発達障害の診断を受けている(n=53)	45.3	30.2	37.7	17.0	13.2	18.9	32.1	11.3	1.9
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=13)	30.8	15.4	46.2	7.7	0.0	30.8	46.2	0.0	0.0

問36 あなたには、学校や教育について、困っていることがありますか。(〇はいくつでも)

学校や教育で困っていることについては、難病(特定疾患)の診断を受けている方を除いた障害種別で「学校卒業後の進路に不安がある」が最も多くなっています。

難病(特定疾患)の診断を受けている方では、「通学(送り迎え)が大変である」と「特にない」がともに38.5%と最も多くなっています。

次いで多い回答は、身体障害者手帳所持者では「特にない」が28.2%となっており、愛の手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び発達障害の診断を受けている方では「今後の学校選択で迷っている」がそれぞれ23.0%、43.5%、30.2%となっています。

なお、難病(特定疾患)の診断を受けている方では「学校卒業後の進路に不安がある」が30.8%となっています。

(単位:%)

	教育に関する情報が少ない	教職員の指導の仕方が心配	学校のカリキュラムが本人に合わない	友達との関係づくりに問題がある	今後の学校選択で迷っている	学校卒業後の進路に不安がある
全体(n=181)	18.8	19.3	5.5	13.3	24.3	61.3
身体障害者手帳(n=39)	12.8	10.3	2.6	12.8	15.4	46.2
愛の手帳(n=135)	20.0	18.5	3.7	7.4	23.0	64.4
精神障害者保健福祉手帳(n=23)	13.0	30.4	8.7	39.1	43.5	78.3
発達障害の診断を受けている(n=53)	20.8	15.1	5.7	22.6	30.2	73.6
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=13)	7.7	15.4	0.0	7.7	15.4	30.8

(単位:%)

	通学(送り迎え)が大変である	親などの介助者が必要	学校等のバリアフリーが十分でない	特にない	その他	無回答
全体(n=181)	22.7	10.5	3.3	19.3	7.7	1.1
身体障害者手帳(n=39)	25.6	15.4	7.7	28.2	12.8	0.0
愛の手帳(n=135)	21.5	9.6	2.2	19.3	6.7	1.5
精神障害者保健福祉手帳(n=23)	26.1	13.0	4.3	4.3	8.7	0.0
発達障害の診断を受けている(n=53)	17.0	9.4	0.0	15.1	9.4	1.9
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=13)	38.5	7.7	23.1	38.5	7.7	0.0

問37 学校卒業後は、どのような進路を希望していますか。(〇はいくつでも)

学校卒業後の進路希望については、障害種別に関わらず「わからない」が最も多くなっており、いずれも40%以上となっています。

次いで多い回答は、身体障害者手帳所持者及び精神障害者保健福祉手帳所持者では「大学・短大などに進学したい」がそれぞれ17.9%、26.1%となっています。

また、愛の手帳所持者及び発達障害の診断を受けている方では「福祉的就労をしたい」がそれぞれ27.4%、18.9%となっており、難病（特定疾患）の診断を受けている方では「福祉的就労をしたい」と「福祉的就労以外の通所施設に通いたい」がともに30.8%となっています。

(単位:%)

	大学・短大などに進学したい	専門学校などに進学したい	職業訓練学校などに進学したい	正職員として働きたい	パート・アルバイトなどで働きたい	福祉的就労をしたい	福祉的就労以外の通所施設に通いたい	わからない	その他	無回答
全体(n=181)	9.9	8.3	8.8	14.9	7.2	23.8	7.7	47.5	5.0	0.6
身体障害者手帳(n=39)	17.9	7.7	5.1	7.7	0.0	12.8	12.8	46.2	7.7	0.0
愛の手帳(n=135)	3.7	7.4	10.4	14.8	7.4	27.4	9.6	46.7	5.2	0.7
精神障害者保健福祉手帳(n=23)	26.1	8.7	0.0	21.7	13.0	21.7	4.3	47.8	4.3	0.0
発達障害の診断を受けている(n=53)	9.4	7.5	5.7	9.4	3.8	18.9	9.4	62.3	5.7	0.0
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=13)	7.7	0.0	0.0	0.0	7.7	30.8	30.8	61.5	7.7	0.0

問38 障害者が一般就労するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

障害者が一般就労するために必要なことについて、身体障害者手帳所持者では「障害特性に合った職業・雇用の拡大」と「職場の障害理解の促進」がともに82.1%と最も多く、愛の手帳所持者では「障害特性に合った職業・雇用の拡大」が77.8%、精神障害者保健福祉手帳所持者及び発達障害の診断を受けている方では「職場の障害理解の促進」が91.3%、83.0%となっています。
また、難病(特定疾患)の診断を受けている方では「職場での良好な人間関係」が76.9%と最も多くなっています。

(単位:%)

	就労のための総合的な相談支援	働く能力を身につけるための職業訓練	職場を理解するための就労体験	障害特性に合った職業・雇用の拡大	障害者向けの求人情報の提供	企業の障害者雇用への理解促進	職場の障害理解の促進	職場環境のバリアフリー化
全体(n=181)	70.7	60.8	60.2	77.9	60.2	70.2	79.0	32.0
身体障害者手帳(n=39)	71.8	48.7	48.7	82.1	51.3	64.1	82.1	56.4
愛の手帳(n=135)	71.9	63.0	63.0	77.8	61.5	67.4	76.3	30.4
精神障害者保健福祉手帳(n=23)	60.9	60.9	56.5	78.3	60.9	82.6	91.3	21.7
発達障害の診断を受けている(n=53)	69.8	71.7	66.0	77.4	58.5	75.5	83.0	28.3
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=13)	69.2	46.2	38.5	69.2	30.8	46.2	69.2	61.5

(単位:%)

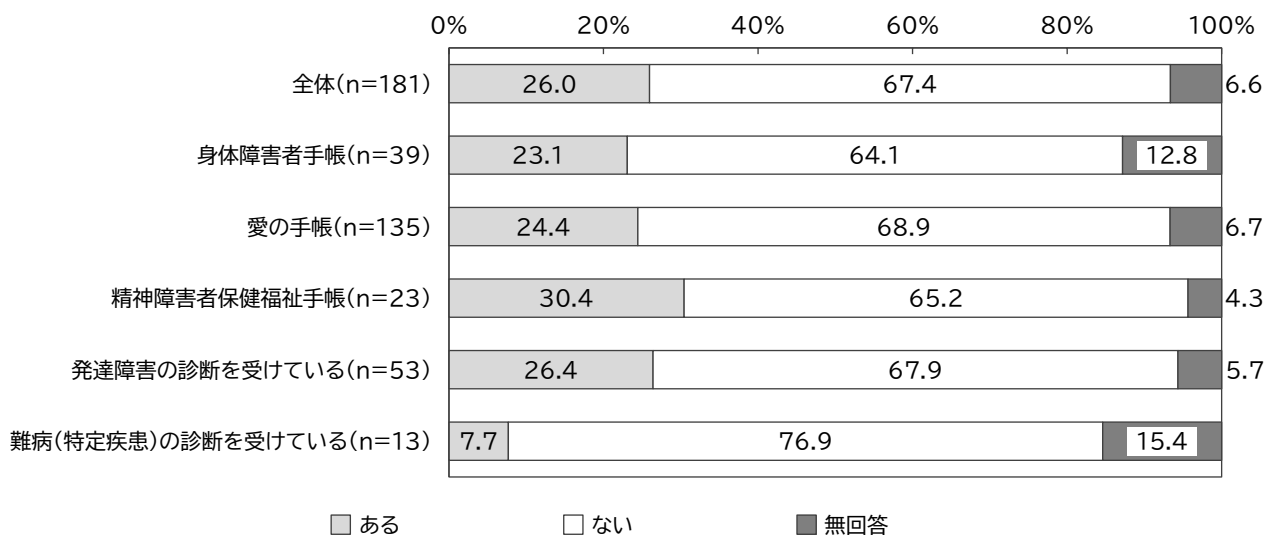
	障害に対応した柔軟な勤務形態	職場に定着するための支援(ジョブコーチなど)	通勤手段や通勤支援の確保	職場での良好な人間関係	働く時間以外の楽しみ	特にない	その他	無回答
全体(n=181)	65.7	53.0	52.5	68.5	41.4	2.8	5.5	0.6
身体障害者手帳(n=39)	69.2	46.2	59.0	69.2	38.5	2.6	2.6	0.0
愛の手帳(n=135)	63.0	52.6	55.6	65.9	41.5	3.0	6.7	0.7
精神障害者保健福祉手帳(n=23)	78.3	65.2	39.1	82.6	39.1	0.0	4.3	0.0
発達障害の診断を受けている(n=53)	67.9	58.5	50.9	62.3	35.8	1.9	7.5	0.0
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=13)	53.8	30.8	69.2	76.9	46.2	0.0	15.4	0.0

4-10 切れ目ない支援について

問39 八王子市では、乳幼児期から就学、進学、就労などライフステージの節目で困ることのないよう、子どもの成長や発達を記録・保存する「マイ・ファイル」を作成し、活用していきます。
ライフステージの節目において、情報が引き継がれないことで困ったことはありますか。(〇はひとつ)

ライフステージの節目において、情報が引き継がれなかった経験について、全体では「ある」が26.0%、「ない」が67.4%となっています。

障害種別ごとに見ると、難病(特定疾患)の診断を受けている方では「ある」が7.7%となっていますが、他の障害種別では20%以上となっています。



問40 問39で「ある」と回答した方にお聞きします。困ったのはいつですか。(〇はいくつでも)

情報が引き継がれないことで困った時期については、障害の種別に関わらず「保育園等から小学校に入学するとき」が最も多くなっており、いずれも40%以上となっています。

また、精神障害者保健福祉手帳所持者では「小学校から中学校へ進学するとき」も42.9%と他の障害種別と比較して多くなっています。

(単位:%)

	保育園等に入園するとき	保育園等から小学校に入学するとき	小学校から中学校へ進学するとき	中学校から高等学校へ進学するとき	高等学校から大学等へ進学するとき	就労するとき	無回答
全体(n=47)	21.3	61.7	34.0	10.6	4.3	8.5	0.0
身体障害者手帳(n=9)	33.3	77.8	33.3	11.1	11.1	11.1	0.0
愛の手帳(n=33)	24.2	60.6	27.3	6.1	3.0	9.1	0.0
精神障害者保健福祉手帳(n=7)	0.0	42.9	42.9	28.6	0.0	0.0	0.0
発達障害の診断を受けている(n=14)	21.4	50.0	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=1)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

4-11 施策について

問41 あなたは今後、行政にどのような施策に力を入れてほしいと思いますか。(〇はいくつでも)

今後行政に力を入れてほしい施策について、身体障害者手帳所持者及び難病(特定疾患)の診断を受けている方では「障害に対する理解の促進」が最も多くなっており、それぞれ69.2%、76.9%となっています。

また、愛の手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び発達障害の診断を受けている方では「年金や手当など経済的支援の充実」が最も多くなっており、それぞれ64.4%、73.9%、73.6%となっています。

次いで多い回答は、身体障害者手帳所持者及び難病(特定疾患)の診断を受けている方では「年金や手当など経済的支援の充実」がそれぞれ66.7%、69.2%となっており、愛の手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び発達障害の診断を受けている方では「障害に対する理解の促進」がそれぞれ62.2%、69.6%、66.0%となっています。

(単位:%)

	障害に対する理解の促進	保健・医療の充実	教育・育成の充実	雇用・就労支援の充実	相談支援体制の充実	訪問系サービスの充実	日中活動系サービスの充実	放課後等デイサービスの拡充
全体(n=181)	63.5	44.8	58.0	54.7	43.6	20.4	19.3	50.8
身体障害者手帳(n=39)	69.2	51.3	59.0	46.2	41.0	30.8	20.5	51.3
愛の手帳(n=135)	62.2	46.7	57.8	58.5	40.7	20.7	20.0	51.1
精神障害者保健福祉手帳(n=23)	69.6	43.5	56.5	52.2	60.9	21.7	21.7	52.2
発達障害の診断を受けている(n=53)	66.0	39.6	60.4	56.6	50.9	20.8	24.5	47.2
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=13)	76.9	61.5	46.2	53.8	46.2	23.1	30.8	46.2

(単位:%)

	児童発達支援センターの 拡充	児童発達支援事務所の拡 充	移動支援の充実(通勤・通 学を含む)	短期入所の充実	緊急一時保護の充実	福祉機器・補装具などの 充実	コミュニケーション支援の 充実や情報保障の確保	グループホームの整備
全体(n=181)	32.6	26.5	39.2	26.5	30.4	21.0	32.6	27.1
身体障害者手帳(n=39)	23.1	17.9	56.4	30.8	33.3	53.8	38.5	17.9
愛の手帳(n=135)	34.8	26.7	40.0	29.6	31.9	17.8	31.1	31.1
精神障害者保健福祉手帳(n=23)	34.8	26.1	30.4	17.4	26.1	8.7	39.1	13.0
発達障害の診断を受けている(n=53)	39.6	34.0	34.0	22.6	28.3	9.4	30.2	26.4
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=13)	30.8	15.4	53.8	53.8	46.2	30.8	46.2	30.8

(単位:%)

	入所施設の充実	障害者向けの住まいの確保	建物・道路などのバリアフ リー化	趣味やスポーツ・レクリエー ション活動の充実	年金や手当など経済的支援 の充実	特 に な い	そ の 他	無 回 答
全体(n=181)	27.1	33.7	19.9	25.4	67.4	2.8	6.6	1.7
身体障害者手帳(n=39)	25.6	38.5	51.3	17.9	66.7	0.0	5.1	2.6
愛の手帳(n=135)	32.6	37.0	17.8	26.7	64.4	3.7	8.9	2.2
精神障害者保健福祉手帳(n=23)	13.0	17.4	13.0	30.4	73.9	0.0	0.0	0.0
発達障害の診断を受けている(n=53)	28.3	22.6	13.2	22.6	73.6	3.8	7.5	1.9
難病(特定疾患)の診断を受けている(n=13)	53.8	53.8	46.2	7.7	69.2	0.0	23.1	0.0

5 自由意見のまとめ

5-1 18歳以上向けの障害者アンケート（問46）より

市の障害者施策に関するご意見やご要望、回答者ご自身の将来に対する不安などについて、自由に記載していただきました。

回答者数は249名となっています。各意見を内容ごとに分類した結果を以下に示します。

なお、お一人の回答者が複数のご意見を述べられた場合は、それぞれで集計したため、累計回答数は268件となり、回答者数より多くなっています。

項目	件数
① 将来に対する不安について	86件
② ご意見・ご要望	41件
③ 支援・サービス等について	32件
④ 環境・インフラについて	20件
⑤ 福祉施設について	15件
⑥ 手続きについて	13件
⑦ 市役所について	13件
⑧ 感謝・激励	12件
⑨ アンケートについて	10件
⑩ 就労について	5件
⑪ その他	21件
合計	268件

主な回答は次のとおりです。（内容は要約・省略しています。）

①将来に対する不安について(86件)

かいとう 回答	ねんれい せいべつ 年齢・性別・ しょうがい しゅるい 障害の種類
いろいろな施策があっても、必要としている人に伝わっているか不安です。 自分で情報を集められなければ、利用出来ないのは残念です。様々な手続き の時に、「こんなことが利用できますよ」など教えてもらえると助かります。 役所だけでなく病院でも施策サービスの情報を提供してくれると良いと 思います。安心して暮らせる町でありますように。	50～59歳・女性 難病
一人住まいの為、困っていることたくさんあります。ヘルパーさん不足の為、 頼めない事、通院が多く、介護の車利用のタクシー券が足りない事、全てに お金がかかり施設に入りたくても入れない事。	70～79歳・女性 身体障害
今はサポート無しでもあまり不自由を感じずに生活できているが、将来は どうなるか不安。子どもに負担はかけたくない。	40～49歳・女性 身体障害
人工透析をしている者ですが、透析患者の増加が近年多く見られます。限ら れた予算の中で個人の手当が少なくなっていくことに不安を感じます。	70～79歳・男性 身体障害
将来一般就労が出来るか心配。今の状態で生活していけるかどうか不安。	40～49歳・男性 精神障害
親がいなくなった後の将来が不安です。	20～29歳・女性 知的障害

②ご意見・ご要望(41件)

かいとう 回答	ねんれい せいべつ 年齢・性別・ しょうがい しゅるい 障害の種類
しょうがい じゆう しごと けっこん こそだ まえ せいかつ 障害でも自由に仕事ができ、結婚して子育てして、あたり前の生活がしたい です。あたり前の社会で差別なく生活したいです。障害者=低賃金で生活で きません。	30~39歳・女性 せいしんしょうがい 精神障害
これから市には障害者と健全者が共生していく社会をつくることに、 せっきょくてき ちから い おも 積極的に力を入れてほしいと思います。	19歳以下・男性 ちてきしょうがい 知的障害
ひとり暮らしの為、親が無くなってひとりになった時に、同じ障害を持つ人同士 で相談し合える場所があるといいと思っています。	40~49歳・女性 しんたいしょうがい 身体障害
「障害者」という呼び方を変えてほしい。差別を感じる。	65~69歳・女性 てちょうみしよじ 手帳未所持
もう少し緊密に相談できる様にして欲しいです。	70~79歳・男性 しんたいしょうがい 身体障害
障害者を切り捨てない支援と政策の増大を願う。	70~79歳・女性 なんびょう 難病

③支援・サービス等について(32件)

かいとう 回答	ねんれい せいべつ 年齢・性別・ しょうがい しゅるい 障害の種類
そと で むづか ひ くるま もくてきち つ 外に出るのが難しい日があるので、車で目的地まで連れていってくれるサ ービスかタクシーの割引など充実してくれるとありがたいです。24時間電 わ そうだん はなし 話で相談や話ができるサービスがほしいです。	40~49歳・女性 せいしんしょうがい 精神障害
せいねんこうけんせいど にんめい しかた ひと こうたい もんだい おも 成年後見制度の任命の仕方とその人を交替できないことは問題だと思いま す。ぜひ柔軟なその時その時の状況に応じた制度に変えてほしい。	30~39歳・男性 ちてきしょうがい 知的障害
きゅうよ けんじょうしゃ くら しょうがい ほう ひく けいざいてき 給与が健全者と比べて、障害の方が低いというデータがあるので、経済的 かくさ しえん ひろ 格差をなくしていくための支援を広めてほしいです。	30~39歳・女性 しんたいしょうがい 身体障害
じゅうたくかいしゅう ひ てきよう きじゅん ろうきゅうか てきよう 住宅改修費の適用基準について、老朽化にも適用してほしい。	30~39歳・男性 しんたいしょうがい 身体障害
でんしゃ わりびき じりつしえん 電車も割引がきいてほしい。自立支援をアップしてほしい。	40~49歳・女性 ちてきしょうがい 知的障害

④環境・インフラについて(20件)

かいとう 回答	ねんれい せいべつ 年齢・性別・ しょうがい しゅるい 障害の種類
JR八王子駅改札内のエレベーター、八高線と横浜線のエレベーターを整備してもらいたいです。スピードは遅い、車いす1台乗るのがやっとです。ベビーカーが乗ったら車いすは乗れません。対応してくれる警備員もエレベーターの速度が遅いので困っています。	さいじょう じよせい 80歳以上・女性 しんたいしょうがい 身体障害
町の中の段差解消、特に交差点歩道の段差が危険です。車いすや電動カートの移動は少しの段差でも乗り越えるのがとても大変で、しかも危険です。速やかな段差解消に努めて頂きたいと、お願いします。	さい だんせい 70～79歳・男性 しんたいしょうがい 身体障害
私の場合は心臓の件で身体障害なので車移動が多いです。八王子は都心に比べ路上パーキングの場所が偏っていると思います。もう少し増やしてほしいと思います。	さい だんせい 50～59歳・男性 しんたいしょうがい 身体障害
通院後など路線バスで帰宅することが多いが、障害者手帳の提示をしないと割引にならない事について、ICカード化（障害者手帳）を望む。	さい だんせい 40～49歳・男性 しんたいしょうがい 身体障害
八王子駅・高尾駅のどちらも北口ですが、いずれもバス停に行くまでが暗すぎて危険。	さい だんせい 40～49歳・男性 しんたいしょうがい 身体障害

⑤福祉施設について(15件)

かいとう 回答	ねんれい せいべつ 年齢・性別・ しょうがい しゅるい 障害の種類
本人は引きこもっています（精神障害）なので、昼夜逆転し、通院・相談などつながりません。公的支援として夜間の保健師さんやカウンセラーの訪問が可能にならないでしょうか。	さい じよせい 30～39歳・女性 ちてきしょうがい 知的障害
東京都又は八王子市が運営する、障がい者施設を増やしてください。グループホームは一人一人の個性に合った対応ができず、災害時などに対応できません。安心して生活できるために、行政が運営する施設が必要です。	さい だんせい 30～39歳・男性 ちてきしょうがい 知的障害
ピアカウンセリングの導入・障害者サービスについての導入、新しい制度の情報が得にくい。ピンポイントで教えて頂けたら助かります。	さい じよせい 50～59歳・女性 しんたいしょうがい 身体障害
65歳を過ぎても障がい者施設で生活できるようにしてください。	さい だんせい 30～39歳・男性 ちてきしょうがい 知的障害

⑥手続きについて(13件)

かいとう 回答	ねんれい せいべつ 年齢・性別・ しょうがい しゅるい 障害の種類
わ じょうほう ていきょう しょう あたら せいど てつづ かんたん 分かりやすい情報の提供。使用できる新しい制度の手続きなど、簡単に おこな できる 行えるシステムがあれば、利用しやすいと思います。	さい だんせい 40～49歳・男性 しんたいしょうがい 身体障害
しよるい こうしんてつづ 書類での更新手続き、インターネットで出来るようになるとうりがたいで す。	さい だんせい 20～29歳・男性 しんたい ちてきしょうがい 身体・知的障害
しよるい きめいらん 書類の記名欄がせまい。わからない時に代筆してほしい。	さい じよせい 65～69歳・女性 しんたいしょうがい 身体障害

⑦市役所について(13件)

かいとう 回答	ねんれい せいべつ 年齢・性別・ しょうがい しゅるい 障害の種類
はちおうじ ししょうがいしゃふくし か たいおう ひじょう じむてき たにんごと まった よ そ 八王子市 障害者福祉課の対応が非常に事務的で、他人事で全く寄り添い がない。	さいい か じよせい 19歳以下・女性 ちてきしょうがい 知的障害
しやくしよほんちようしゃ しょうがいしゃまどぐち こんざつ めだ かいぜん おも 市役所本庁舎の 障害者窓口の混雑が目立っています。改善してほしいと思 います。	さいいじよう だんせい 80歳以上・男性 しんたいしょうがい 身体障害
しやくしよ まどぐち とお しょうがいしゃ ちゅうしゃじよう すく 市役所の窓口が遠い。障害者の駐車が少なすぎる。	さい じよせい 50～59歳・女性 しんたいしょうがい 身体障害

⑧感謝・激励(12件)

かいとう 回答	ねんれい せいべつ 年齢・性別・ しょうがい しゅるい 障害の種類
ちようさ このようなアンケート調査をしていただきありがとうございます。装具を使 よう せいかつ わたし にちじようせいかつよう ぐ きゆう ふ じゅうじつ あんしん 用しないと生活できない私にとっては、日常生活用具給付の充実で安心 せいかつ おく こんご ねが した生活が送れます。今後もよろしくお願いします。	さい じよせい 60～64歳・女性 しんたいしょうがい 身体障害

⑨アンケートについて(10件)

かいとう 回答	ねんれい せいべつ 年齢・性別・ しょうがい しゅるい 障害の種類
さっし ふうとう あ おも はいりよ いただ 冊子のサイズと封筒のサイズが合っていないと思ったので、配慮して頂 ますと助かります。また QR コードなどを用いた web アンケートでも回答で けるようにして頂 けますとより多くの人々の意見を集められるかと思いま す。	20~29歳・男性 なんびょう 難病
いま か つうじょう ちが せいかつ かいとう びみょう ちが 今はコロナ禍であり、通常と違う生活なので、回答が微妙に違っているよう に思います。このアンケート調査について、障害も色々なので、答えようが ない間もあり、実際参考になるのか疑問に感じました。	65~69歳・女性 しんたいしょうがい 身体障害

⑩就労について(5件)

かいとう 回答	ねんれい せいべつ 年齢・性別・ しょうがい しゅるい 障害の種類
さぎょうしょ かよ まえ しゅうろうし えん しやくしょ しゅうろうじっしゅう たいけん 作業所へ通う前に、就労支援センターより、市役所での就労実習を体験し ました。その際は、市役所の方々の支援や、ジョブコーチたちのおかげで、 ひかくてきあんてい かよ こと き かい ど ねん 比較的安定して通う事ができました。そのような機会を1度だけや1年だけ でなく、何度か設けて頂いたり、度々利用させて頂けると、社会復帰の大 きな足掛かりになると思います。	40~49歳・女性 せいしんしょうがい 精神障害
しんたいてき ふじゆう たいりょく つか しごと つ かる しごと えら 身体的に不自由があると体力を使う仕事に就きににくく、軽い仕事を選ぶと しゅうにゆう すく こうど ちしき な かぎ しゅうにゆう ふ 収入が少ない。そのために高度な知識やスキルが無い限り収入を増やせ ない。若いうちは多少の無理も出来るが、高齢になるほど体力的な負担が健 常者よりも顕著に現れ、仕事の幅が狭まってしまう。	30~39歳・男性 しんたいしょうがい 身体障害

⑪その他(21件)

かいとう 回答	ねんれい せいべつ 年齢・性別・ しょうがい しゅるい 障害の種類
いま ふべん かん 今のところ不便は感じていない。	80歳以上・女性 しんたいしょうがい 身体障害

5-2 18歳未満とその保護者向けの障害者アンケート（問42）より

市の障害者施策に関するご意見やご要望、回答者ご自身の将来に対する不安などについて、自由に記載していただきました。

回答者数は81名となっています。各意見を内容ごとに分類した結果を以下に示します。

なお、お一人の回答者が複数のご意見を述べられた場合は、それぞれで集計したため、累計回答数は100件となり、回答者数より多くなっています。

項目	件数
①支援・サービス等について	29件
②将来に対する不安について	21件
③学校教育について	15件
④就労について	7件
⑤福祉施設について	7件
⑥市役所について	7件
⑦ご意見・ご要望	5件
⑧医療機関について	4件
⑨環境・インフラについて	3件
⑩その他	2件
合計	100件

主な回答は次のとおりです。（内容は要約・省略しています。）

①支援・サービス等について(29件)

かいとう 回答	ねんれい せいべつ 年齢・性別・ しょうがい しゅるい 障害の種類
かのうせい かいほう きぼう しえん たど しきさいかんかく すく ひと もじ 可能性を開発できる、希望あふれる支援、例えば色彩感覚の優れた人、文字 の達筆な人、絵の上手な人、歌の上手な人の持てる力を引き出す、一流ア ーティストや職業へとつなげる仕組み。例えば絵がスターバックスの店で 装飾されているなど、本当に素晴らしいので、才能を後押しできる取組をお ねが 願いしたいです。	さい だんせい 6～11歳・男性 ちてきしょうがい 知的障害
とくべつしえんがつきゅう がっこう あいだ こ しえんとう じゅうじつ 特別支援学級と学校の間にいる子の支援等を充実させてほしいです。 しえんがっこう しゅうしょくりつ よ はなし き こと こん ごかくだい 支援学校の就職率があまり良くないとの話も聞いた事があり、今後拡大 していくことを願います。	さい だんせい 12～14歳・男性 ちてきしょうがい 知的障害
さまざま ていきょう ぐたいてき しょう 様々なサービスの提供のみではなく、そのサービスを具体的にどう使用で きるか？どのサービスとどのサービスの組み合わせができる等発信してほ しいと思います。	さい じょせい 6～11歳・女性 しんたい ちてきしょうがい 身体・知的障害
おやな ご しえん あんしん しあわ く たいせい ねが 親亡き後の支援、安心して暮らしていける体制づくりをお願いした いです。	さい だんせい 6～11歳・男性 ちてきしょうがい 知的障害

②将来に対する不安について(21件)

かいとう 回答	ねんれい せいべつ 年齢・性別・ しょうがい しゅるい 障害の種類
がっこう そつぎょう ふ あん こと が増える と思います。そんなとき サポートして頂けるとありがたいです。世の中は障害に対して、昔よりは よ 良くなってきましたが、まだまだだ と思います。障害になりたくてなつたわ けではありません。安心して暮らしていけるだけでいいので「八王子で良か った」と思えるように、これからもよろしく願います。	さい だんせい 12～14歳・男性 ちてき はつたつしょうがい 知的・発達障害
しょうじきふあん しせつ しょくばなど ぎゃくたい ぼうりょく 正直不安しかありません。施設や、職場等での虐待やいじめ、暴力のニュ ース等を見るたびにとても苦しくなります。一日でも長く元気に長生きして でき こと いちびょう なが こども い おも 出来る事なら一秒でも長く子供より生きたいと思わずにはられません。 しんぱ ふくし ふたん けいげん かな こと ねが AIの進歩で福祉の負担が軽減され悲しいニュースがなくなる事を願います。	さい だんせい 12～14歳・男性 ちてきしょうがい 知的障害
しゅうろう しょうらいしゃかい で ば ふあん 就労について将来社会に出ていく場ができるか不安があります。このよう なことを相談できる場がほしいです。	さい じょせい 6～11歳・女性 ちてきしょうがい 知的障害
しょくば りょうこう にんげんかんけい こうちく ちょうきてき しゅう 職場でのコミュニケーション・良好な人間関係の構築ができ、長期的に就 労していけるかどうか。	さいいじょう だんせい 15歳以上・男性 ちてきしょうがい 知的障害

③学校教育について(15件)

かいとう 回答	ねんれい せいべつ 年齢・性別・ しょうがい しゅるい 障害の種類
<p>社会全体としての障害者の認知度がまだまだ十分とは言えないため、健全の方一人一人の視野の中に、我々のような人もいるよという事が、理解されていないように思う。健全の社会、障害者の社会、まだまだインクルーシブではないのを強く感じます。学校教育の中で、又日常の中で、障害を持つ人もいて、当たり前な世の中になってほしいと切に願います。発達障害児等、パッと見た目ではわからないような障害についても、もっと知られていくようなアプローチが始まると嬉しいです。発達障害児を持つ親への情報支援の充実もお願いしたいです。八王子市にもペアレントメンターの制度のような取組があると多くの情報弱者が救われると思います。</p>	<p>6～11歳・男性 知的・発達障害</p>
<p>小学校ではせめて、分けてしまう事はせず、協力する形や時間で対応するなどして、障害者と健全者が共に過ごすことを基本とするようにしてほってほしい。障害者の良い所をもっと発信してほしい。</p>	<p>15歳以上・男性 知的障害</p>
<p>中学卒業後の進学先の情報が少なく、支援学校以外で探するのが大変でした。中学校の支援学級での進路や学習内容をもっと充実させてほしいです。</p>	<p>15歳以上・女性 知的障害</p>
<p>ITを使った教育を充実してほしいです。</p>	<p>12～14歳・男性 精神障害</p>

④就労について(7件)

かいとう 回答	ねんれい せいべつ 年齢・性別・ しょうがい しゅるい 障害の種類
<p>車いすの身体障害でIQはグレーゾーンの子どもが就労できる場が少なく感じています。将来が思い描くことができず、回りにロールモデルとなる人もいなく非常に不安を感じています。ロールモデルがいるだけで安心できます。そのような同じ障害を持った人たちが、年代を問わず、情報交換できる場を設けてほしいです。</p>	<p>12～14歳・男性 身体障害</p>
<p>市の雇用枠を増やしてほしい。肢体や聴覚だけでなく、知的の採用やまたその障害（個性）を家族にもつ人を採用するといいと思います。</p>	<p>6～11歳・男性 精神障害</p>
<p>障害者が働ける場所をもっと作ってください！お願いします！</p>	<p>15歳以上・女性 知的障害</p>

⑤福祉施設について(7件)

かいとう 回答	ねんれい せいべつ 年齢・性別・ しょうがい しゅるい 障害の種類
はちおうじ し ない はったつしょうがいしゃ む せつび しせつ すく きぼう りよう で き 八王子市内に発達 障害者向けの設備 (施設) が少なく、希望の利用が出来な い (放課後等デイサービス等 週1回しか通所出来ない) 。島田療 育センター のような医療・訓練施設が、就学後受けられない (出来ても月1回の有 料な 心理のみ) 。OT や ST等、就学後も専門家にみて 頂きアドバイス 頂ける場が 欲しい。スポーツ (自転車、水泳、鉄棒等) を教えて 頂ける障害者専用の場 があると助かる。誰に何をどうやって相談すべきか、又出来るのかが全 く分 からない。	さい だんせい 6～11歳・男性 ちてきしょうがい 知的障害
そうだんし えんじぎょうしょ かくだい かくじゅう し ない しょうがいじ しゃう い びょういん 相談支援事業所の拡大・拡 充。市内の障害児・者受け入れ病院のリス ト 作成。小学生が気軽に利用できるショートステイの拡大・拡 充。重度対応 の放課後デイサービスの拡大・拡 充。重度対応のグループホームの整備。 重度受け入れ就 労施設の整備。小学生以上でも ST や OT を定期的に受けら れる療 育施設の新設。	さい だんせい 6～11歳・男性 ちてきしょうがい 知的障害
てんにゆうしゃ がっこうにゆうがく ふしめ こま そうだん ばしょ しせつ 転入者や学校入学などの節目に困 ったら相談できる場所や施設があると、 案内があったら良いと思 う。放課後デイの事や病院など、地域にあるものな どが、転 入の時や支援学校 入学の際に困りました。	さい じょせい 6～11歳・女性 しんたい ちてきしょうがい 身体・知的障害

⑥市役所について(7件)

かいとう 回答	ねんれい せいべつ 年齢・性別・ しょうがい しゅるい 障害の種類
たぶん し ふくし か きんむ かた しょうがい たい ちしき りかい 多分、市の福祉課で勤務されている方でも、障 害に対する知識や理解はとて も低い、もしくは書類上や関係者からの 話の上だけでのものだと思う。も っと現場で実体験して、理解した上で、相談や対応をしてほしい。	さい だんせい 6～11歳・男性 ちてきしょうがい 知的障害
しよるい て が とく いりょうけい ものなど まいとし おな ないよう か たいへん 書類が手書きなので (特に医療系の物等、毎年ほぼ同じ内容を書く) 大変で す。パソコンなどのインターネットを使った申請ができるようにしてほし い。	さい だんせい 12～14歳・男性 ちてき はったつしょうがい 知的・発達障害
まどぐち そうだん わ い どの窓口で相談したらよいかよく分からない。ここに行けば OK という 窓口がほしい。	さい だんせい 6～11歳・男性 ちてきしょうがい 知的障害
しょうがいしゃふくし か ほんちよう ふ べん 障害者福祉課が本 庁にしかなくて不便。	さい だんせい 12～14歳・男性 ちてき はったつしょうがい 知的・発達障害

⑦ご意見・ご要望(5件)

かいとう 回答	ねんれい せいべつ 年齢・性別・ しょうがい しゅるい 障害の種類
にん ぶ つ あか わたし みみ 妊婦さんがカバンに付ける「おなかに赤ちゃんがいます」のように「私は耳 が聞こえません」というキーホルダーを作って頂きたいです。・スマートフ ォンを使用するにあたっての支援（例：電話の際に音声文字化）。	さいいじょう だんせい 15歳以上・男性 しんたいしょうがい 身体障害
さべつ へんけん しゃかいてきじりつ とりくみ しえん しょうらい き 差別や偏見がなくなり、社会的自立への取組を支援していただき、将来に希 望が持てる社会を築いてほしいと願っている。	さい だんせい 12～14歳・男性 ちてき はったつしょうがい 知的・発達障害

⑧医療機関について(4件)

かいとう 回答	ねんれい せいべつ 年齢・性別・ しょうがい しゅるい 障害の種類
ないか し か しょう しゃたいおう いりょうきかん すく 内科や歯科は障がい者対応して下さる医療機関がとても少ないですがあ りました。耳鼻科や眼科なども同じように対応して下さる機関はないでしょ うか。休日当番医のように「障がい者対応の日」や「障がい者対応の時間」な どあるととても助かります。	さい だんせい 6～11歳・男性 せいしんしょうがい 精神障害

⑨環境・インフラについて(3件)

かいとう 回答	ねんれい せいべつ 年齢・性別・ しょうがい しゅるい 障害の種類
こうえん い ぐち くるま とお むずか かん 公園の入り口のアーチスタンドは車いすだと通るのが難しいと感じます。 こうきょう かいじょう ふう うれ 公共トイレに介助用ベッドが増えると嬉しいです。	さい だんせい 0～3歳・男性 しんたい ちてきしょうがい 身体・知的障害

⑩その他(2件)

かいとう 回答	ねんれい せいべつ 年齢・性別・ しょうがい しゅるい 障害の種類
しょうがい も ほんにん と よ とりくみ おも 障がいを持っている本人にアンケートを取るのとはとても良い取組だと思 います。継続してやっていただければと考えます。その際に、紙での回答だけ でなく、インターネットの回答も出来ればなおよいです。紙に手で書くより もネットの方ができる、文章をパソコンに読み上げてもらえば理解できる という障がいのタイプの方もいます。もし、障がいがあるとネット環境に なじめないのではないかと、という考えがあるのであれば、それは違います。 ITの環境が、障がいのある方を助けてくれる場面が多くあるのだという事 をご承知おきいただけると幸いです。	さいいじょう だんせい 15歳以上・男性 せいしん はったつしょうがい 精神・発達障害

6-2 「18歳未満とその保護者向けの障害者アンケート」調査票

はちおうじ し しょうがいしゃ ちようさけつ かほうこくしょ
八王子市 障害者アンケート調査結果報告書

れいわ ねん ねん がつ
令和5年（2023年）3月

はちおうじし ふくし ぶしょうがいしゃ ふくしか
八王子市福祉部 障害者福祉課

とうきょうとはちおうじしもとほんごうちょうさんちようめ ばん ごう
〒192-8501 東京都八王子市元本郷町三丁目24番1号

TEL : 042-620-7245 ちよくつう（直通） FAX : 042-623-2444

E-mail : b440600@city.hachioji.tokyo.jp

あなたのみちを、
あるけるまち。  八王子